

五 保佐、心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治産者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得(一一條)。保佐ハ羅馬法ノ *Curator* ニ其起原ヲ發セルモノニシテ心神不健全ニシテ治産ニ堪ヘサル者ニ相談人ヲ付シ其重大ノ行爲ニ就テ其能力ヲ補充セシムルモノタリ、保佐ハ後見ト異ナリ自ラ積極ニ其ノ身軀財産ヲ保護スル職務ヲ有スルモノニ非ラスシテ準禁治産者ノ自ラ爲ス行爲ヲ保佐シ其ノ智能ノ足ラサルヲ補フノ職務ヲ有スルニ過キス、其權限ハ後見人ノ如ク被後見人ノ行爲ヲ代理スルニアラスシテ準禁治産者ノ行爲ニ同意ヲ與フルニ在リ。故ニ保佐ハ全ク親族關係ト其性質ヲ異ニスルモノニシテ後見ト異ナリ親族法中ニ規定ス可キ事項ニ非ラス、然レトモ其ノ智能足ラサルモノニ對スル保護ノ方法タルノ點ニ於テハ禁治産者ニ對スル後見ト其ノ性質ヲ同シウシ其ノ規定ス可キ事項モ亦略相類セルモノアルヲ以テ諸國ノ法律ハ概テ便宜之ヲ後見法中ニ併セ定ムルモノ多シ、本法モ亦多數ノ立法例ニ倣ヒ其選任等ニ關シテハ本章中ニ之ヲ規定セリ、其ノ理論上正當ノ地位ニ非ラサルハ蓋シ疑ヲ容レス

六 本章ノ規定、後見ニ關シ規定スヘキ事項ハ四ニ分ツテ得、如何ナル場合ニ於テ後見ヲ開始スヘキヤハ其一ナリ、如何ナル機關ヲ以テ後見ヲ行ハシムヘキヤハ其二ナリ、後見ノ機關ノナス可キ職務如何ハ其三ナリ、其職務ハ如何ニ之ヲ終了ス可キヤハ其四ナリ、本章ハ即チ之ヲ四節ニ分テ順次後見ノ開始、後見ノ機關、後見ノ事務、後見ノ終了ヲ定ム、後見ノ機關中親族會モ亦其一ノ機關ナルモ親族會ノ必要ハ管ニ後見ノ爲メノミニ止ラサルヲ以テ本法ハ別ニ親族會ニ關シ獨立ノ一章ヲ置キ本章ノ次ニ之ヲ規定ス

第一節 後見ノ開始

第一節 後見ノ開始

本節ニ於テ後見ノ如何ナル場合ニ開始スルヤヲ定ム

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

- 一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ

二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

〔關〕 四、八、八七七、(參) 八、八六一、二二四、一項、佛三九〇、澳一八七、蘭三八五、三項、五〇三、同千八百八十四年四月二十六日法四、伊二四一、三二九、葡一八五、三一七、一〇項、三三七、ツユーリヒ七三〇、七三六、七三八、七四一、七四三、七四五、八一九、八二六、四一九九、二〇〇、二一三、二二八、二二二、二二八、白草三八五、四八九、一項、獨一章一六三三、一七二六、一七二七、同二章一六五五、一七七二、一七七二、普千八百七十五年七月五日後見法一一、索一八七五乃至一八八〇、一九九〇乃至一九九二、一九九五、同千八百八十二年二月二十日法二節一、四、七

後見ニ付セラル、ハ(一)未成年者及ヒ(二)禁治産者ナルコト既ニ述ヘタリ。(一)未成年者ニ對シ



テ若シ父若クハ母アルトキハ其ノ父若クハ母先ツ之カ身上及ヒ財産ヲ保護スル職務ヲ擔任スヘシ是レ即チ親權ナリ。未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキニ於テ始メテ之ヲ後見ニ付スルノ必要ヲ生ス(イ)「親權ヲ行フ者ナキトキ」―父母共ニ死亡シタルトキハ其後ニ死亡シタル者ノ死亡ニ因リ後見ヲ開始ス、父母ノ一方カ死亡シタル時ニ於テ他ノ一方カ知レサルトキ既ニ其家ヲ去レルトキ禁治産者ナルトキ其他親權ヲ行フ能ハサルトキニ於テモ亦其ノ死亡ニ因リテ後見ヲ開始ス、父母共ニ生存スルモ或ハ其家ヲ去レルトキ或ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ或ハ八九六條ニ依リ親權喪失ノ宣告ヲ受ケタルトキハ亦後見ヲ開始ス。(ロ)

「親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ」―親權ヲ行フ母カ八九九條ニ依リ財産ノ管理ヲ辭シタルトキ、又ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ八九七條ニ依リ管理權ノ喪失ヲ宣告セラレタルトキニ於テ他ニ親權ヲ行フヘキ者ナキトキハ其財産管理ニ就テハ又之ヲ後見ニ付スルコトヲ要ス。但シ此場合ニ於ケル後見人ハ唯財産ニ關スル權限ノミヲ有スルコト後ニ述フルカ如シ(九三五)〔二〕「禁治産ノ宣告アリタルトキ」―禁治産者ハ之ヲ後見ニ付スルコト既ニ總則編第八條ノ規定スル所ナリ、本法ハ其後見ノ開始ノ時期ヲ定ム。禁治産ノ宣告ハ未成年者ト雖モ之ヲ受ケルコトヲ妨ケス、未成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ假令之ニ對シ親權ヲ行フ者アルトキト雖モ尙後見ヲ開始ス、但シ其ノ後見ノ開始ハ唯名義ニ止リ別ニ獨立ノ後見人ヲ選定スルニ非ラスシテ親權ヲ行フ父

又ハ母カ同時ニ後見人ノ職務ヲ行フ者ナルハ後ニ述フル如シ(九〇二、一)

### 第二節 後見ノ機關

第二節  
後見ノ機關

一 後見ノ機關 後見ハ未成年者又ハ禁治産者ノ身上及ヒ財産ヲ保護スヘキ職務ナリ、此職務ヲ行フモノハ自然人又ハ自然人ノ集合ナリ、後見ノ職務ヲ行フ自然人又ハ自然人ノ集合ヲ稱シテ後見ノ機關トイフ

後見ノ機關ハ之ヲ事務執行ノ機關ト事務監督ノ機關トニ區別スルコトヲ要ス。前者ハ之ヲ後見人トナシ後者ハ之ヲ後見監督人及ヒ親族會トナス。

〔一〕後見人(Vormund) ハ後見ノ最重要ナル機關ニシテ直接ニ後見ノ事務ヲ執行スルノ責ニ任スルモノナリ。後見人ハ獨任制ノ機關ニシテ一人ノ自然人ヲ以テ之ヲ組織ス。後見人ハ其職務ヨリ區別スルトキハ之ヲ三種ニ別ツコトヲ要ス、一ハ親權ヲ行フモノナキ未成年者ニ對スル後見人ニシテ被後見人ヲ監護及ヒ教育シ、之ヲ懲戒シ、營業ヲ許可シ、財産ヲ管理シ、財産ニ關スル行爲ニ就キ之ヲ代表シ又ハ之ニ同意ヲ與ヘ、及ヒ之ニ代ハリテ其ノ戶主權、親權及ヒ配偶者ノ財産ニ對スル管理權ヲ行フノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ、二ハ親權ヲ行フモノアル未成年者ニ對スル後見人ニシテ被後見人ノ財産ヲ管理シ、財産ニ關スル行爲ニ付キ之ヲ代表シ又ハ之ニ同意ヲ與ヘ、



及ヒ之ニ代ハリテ其ノ配偶者ノ財産ヲ管理スルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フニ止ル。三ハ禁治產者ニ對スル後見人ニシテ被後見人ノ療養看護ヲ爲シ其ノ財産ヲ管理シ、財産ニ關スル行爲ニ就キ之ヲ代表シ、及ヒ之ニ代リテ其ノ主權ヲ行使スルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ。後見人ハ其就職ノ手續ヨリ區別スルトキハ又之ヲ三種ニ區別スルコトヲ要ス。一ハ親權ヲ行ヘル者カ遺言ヲ以テ指定スルモノニシテ之ヲ指定後見人(Tutor testamentarius)トイフ、二ハ法律ノ規定ニ依リ當然後見人トナルモノニシテ之ヲ法定後見人(Tutor legitimus)トイフ、三ハ親族會之ヲ選任スルモノニシテ之ヲ選定後見人トイフ。

〔二〕後見監督人 ハ後見人ノ事務ヲ監督シ、後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ後任者ノ就任ヲ求メ、急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ノ處分ヲ爲シ、及ヒ後見人ト被後見人トノ利益相反スル場合ニ於テ被後見人ヲ代表スルノ責務ヲ有スル機關ナリ。後見監督人ハ獨任制ノ機關ナリ然レトモ法律上必スシモ一人ナルコトヲ必要トセス、其ノ數人ヲ以テ組織スル場合ニ於テモ合議制ノ機關ニ非ラズシテ各獨立ノ權限ヲ有ス。後見監督人ノ就任ハ或ハ親權ヲ行ヘル者ノ遺言ヲ以テ指定スルニ依ルコトアリ之ヲ指定後見監督人トス、或ハ親族會ノ之ヲ選任スルコトアリ之ヲ選定後見監督人トス。

〔三〕親族會 ハ合議制ヲ以テ成ル議決機關ナリ。後見ニ關シテ親族會ノ有スル職務權限ノ重ナルモノヲ舉クレハ(イ)指定又ハ法定ノ後見人又ハ指定後見監督人カキ場合其他後見人及ヒ後見監督人ヲ撰任スル必要アル場合ニ於テ之ヲ選任スルコト、(ロ)一定ノ場合ニ於テ後見人ヲ免黜スルコト、(ハ)後見人又ハ後見監督人ノ辭任ヲ承認シ又ハ其免黜ヲ裁判所ニ請求スルコト、(ニ)後見人カ被後見人ノ爲ニスル重大ナル行爲ニ付キ同意ヲ與フルコト、(ホ)後見人ニ報酬ヲ與フヘキヤ否ヤヲ定ムルコト、(ヘ)後見人就職ノ初ニ於テ後見事務執行ニ要スル費用年額ヲ豫定スルコト、(ト)後見人就職ノ初ニ於テ其ノ被後見人ノ爲ニ受取リタル金錢ヲ寄托ス可キ義務ヲ定ムルコト、(チ)後見人ヨリ財産狀況ノ報告ヲ受クルコト、(リ)財産調査又ハ後見ノ計算ニ付キ必要アルトキハ法定ノ期間ヲ伸長スルコト、(ヌ)後見ノ計算ヲ認可スルコト等ナリ

二 本節ノ規定 親族會ニ付テハ別ニ獨立ノ一章ヲ置キタルコト已ニ述ヘタル如シ、本節ハ即チ之ヲ二款ニ分チ第一款ニ後見人ヲ規定シ第二款ニ後見監督人ヲ規定ス

### 第一款 後見人

本款ハ後見人ノ就職(九〇一—九〇五)、其組織(九〇六)其義務ノ免除(九〇七)其ノ不能力(九〇八)ヲ規定シ及ヒ保佐人ニ對シテ同一ノ事項ヲ定ム、後見人ノ職務權限ニ付テハ第三節ニ規定スル所ナリ



第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス  
親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

(參)

- 一六四、一六五、佛三九二、三九七乃至四〇〇、澳一九六、蘭四〇九乃至四二二、伊二四二、二四三、葡一九三、一九五、一九七、ツューリッヒ七三四、四二〇四一號、二〇六、二〇七、二〇九、二一〇、白草三九〇、三九一、獨一章一六三五、一項、一號、二號、一六三六、同二章一六五七、一項、一號、二號、一六五八、普千八百七十五年七月五日後見法一七、一項、二號、四號、索一八八六、一九〇〇、一九九六、英チャールズ二世十二年法二四號、印相續法四七、加二四一、二四六、三號、紐章一二二、一二七、三號

第一、後見人ノ就職  
第二、指定後見人

後見開始ノ事由アリタルトキ(九〇〇)ハ直ニ後見人ノ就職スルコトヲ要ス、本條以下六條ハ何人カ後見人ノ職ニ就クヘキヤヲ定ム。未成年者ニ對スル後見人ハ第一次ニ於テ父母中最後ニ親權ヲ行フ者遺言ヲ以テ之ヲ指定スル權利ヲ有シ、其之ヲ指定セザリシトキハ戶主當然其ノ後見人トナリ、指定シタル後見人及ヒ戶主共ニ無キ場合ニ於テハ親族會ヨリ之ヲ選任ス。本條ハ先ツ之ヲ指定スル權利アル者ヲ規定ス。

〔一〕指定權ヲ有スル者 (一)原則トシテ最後ニ親權ヲ行フ者ナリ。最後ニ親權ヲ行フ者ニ後見

人指定ノ權利ヲ與フルハ後見ハ親權ノ延長ニ外ナラサルヲ以テ最後ニ親權ヲ行ヘル者ハ自己ノ死亡ノ後チ親權ニ代ハルヘキ職務ヲ行フヘキ者ヲ指定スル權利ヲ有スルハ當然ナルニ因ル。最後ニ親權ヲ行フ者トハ父母ノ一方死亡シ又ハ其家ヲ去リタル後其殘存セル一方カ親權ヲ行ヘル場合ナリ。父母共ニ生存シ且ツ其家ニ在ルトキハ父親權ヲ行フ原則トス、此場合ニ於テハ父死スルトキハ母之ニ代リテ親權ヲ行フヘキヲ以テ豫メ後見人ヲ指定スル必要ナシ、母ノ死亡シタル後ニ後見人トナル可キ者ヲ豫メ指定シ置クカ如キハ母ノ死亡ハ幾年ノ後ニ在ルヘキヤヲ知ル可カラス隨テ其間ニ其指定セラレタル後見人ノ身上ニ如何ナル變動ヲ生ス可キヤヲ計ル可カラスシテ弊害少カラサル可キヲ以テ本法ハ之ヲ許ルサス。父母共ニ生存シ且ツ共ニ其家ニ在ルトキハ其一方カ無能力其他ノ事由ニ因リ現ニ親權ヲ行フ能力ヲ有セサル場合ニ於テモ親權ヲ行ヘル他ノ一方ハ指定ノ權利ヲ有セサルモノトス。隨テ又父又ハ母カ未成年者ナルニ因リ之ニ代ハリテ親權ヲ行フ者(未成年者ノ父又ハ母又ハ後見人)ハ何レノ場合ニ於テモ後見人ヲ指定スル權利ヲ有セス。(ロ)最後ニ親權ヲ行フ者ニ限リ後見人指定ノ權利ヲ有シ又最後ニ親權ヲ行フ者ハ何人ト雖モ指定ノ權利ヲ有スルノ原則ニ對シテノ例外アリ。其一ハ最後ニ親權ヲ行フ者ト雖モ管理權ヲ有セサルトキハ後見人ヲ指定スルコトヲ得サルコト是ナリ、親權ヲ行フ者ト雖モ親權ノ一部ヲ行フニ過キサルトコトアリ、親權ヲ行フ母カ財産ノ管理ヲ辭シタルトキ及ヒ親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リ管







白草四八九、二項乃至四項、獨一草一七二九、同二草一七七四乃至一七七六、普千八百七十五年七月五日後見法一二、八三、加二四六、二號、紐草一二七、二號

(一)法定後見人  
(二)禁治產者ノ順位  
人法定後見

本條ハ禁治產者ニ對シテ法律上當然後見人トナルヘキ者ヲ定ム。未成年者ノ後見人ハ第一ニ指定ニ任スルコト前條ニ述ヘタル如シ、禁治產者ニ對シテハ之ニ反シ第一次ニ於テ法定後見人ヲ定メ法定後見人ナキ場合ニ於テハ親族會ノ選任ニ任ス。

**第一項** 本項ハ一般ノ成年者(八七七)カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ナリ、此場合ニ於テハ其者ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母ハ同時ニ其後見人トナル。成年者カ親權ニ服スルハ其ノ獨立ノ生計ヲ立テサル場合ニ限ルモ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル者ハ常ニ獨立ノ生計ヲ立ツル能力アラサルモノナルカ故ニ本項ハ親權ヲ行フヘキ父又ハ母アル場合ニ於ケル凡テノ成年者ニ適用セラルヘキモノナリ。禁治產ノ宣告アルハ成年者ト未成年者トヲ問ハスト雖モ、未成年者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ニ對シ親權ヲ行フ者ハ身上及ヒ財產ノ保護ニ就テ完全ノ權利義務ヲ有シ、若シ親權ヲ行フ者ナキトキニ於テモ既ニ後見人アルヘキモノナルヲ以テ猶ニ後見人ヲ定ムルノ必要ナク、隨テ此場合ニ於テハ本款ノ規定ハ適用セラル、トナシ。又親權ヲ行フ者カ成年ノ禁治產者ニ對シテ後見人トナル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ從ヒ一般後見人ト同シク後見監督人ノ監督ニ服スルヲ要スト雖モ、未成年者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ニ對シ親權ヲ行フ者ハ

親權行使者トシテ其ノ身財財產ヲ保護スルモノニシテ後見監督人ノ監督ニ服スルコトナク隨テ此場合ニ於テハ後見監督人ヲ選任スル必要ナキモノトイハサル可カラス。一般ノ成年ノ禁治產者ニ對シテ其父又ハ母ヲ以テ法定ノ後見人トナシタルハ最モ能ク子ノ利益ヲ保護スルハ父又ハ母ニ如クモノアラサル可ケレハナリ。

**第二項及第三項** ハ既ニ婚姻セル成年者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ナリ、夫婦ハ互ニ共同ノ生活ヲ爲シ父母ニ比シテ一層親密ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ夫又ハ妻アル場合ニ於テ其配偶者ノ一方カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ他ノ一方ヲシテ之カ後見人タラシムルコト最モ正當ナリ。但シ妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキニ於テ夫カ九〇八條ノ事由ニ依リ後見人タルト能ハサルトキ、又八九〇七條ノ事由ニ依リ後見人タルトキハ更ニ第一項ノ原則ニ返リテ其妻ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母後見人トナル。夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキニ於テモ妻カ右同一ノ事由ニ因リ後見人タラサルトキ亦同シ。妻カ未成年者ナル場合ニ於テハ其妻ニ對シ親權ヲ行フ父又ハ母アルト否トニ拘ラス成年ノ夫ハ其後見人タル職務ヲ行フモノナルヲ以テ(七九一)未成年ノ妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキニ於テハ之ニ對シ親權ヲ行フヘキ父又ハ母在ル場合ニ於テモ尙夫ヲシテ後見人タラシムルト當然ナリト雖モ、夫カ未成年者ナル場合ニ於テハ其夫ハ父又ハ母ノ親權ニ服シ其妻ハ之カ後見人タラサルモノナルカ故ニ未成年ノ夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタ



ルトキハ其妻カ成年者ナル場合ニ於テモ尙第一項ノ原則ニ依リテ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之カ後見人タラシムルコト正當ナリ、第三項中此趣意ヲ明ニス。

第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戶

主其後見人ト爲ル

(參) 八一六六、二八年九月三十日大審院判決、佛四〇二乃至四〇四、澳一九八、伊二四四、葡一九九乃至二〇一、西二〇四、二號、二一一、白草三九二、獨一章一六三五、同二章一六五七、索一八九〇。

(口) 禁治  
產者ノ第  
二順位ノ  
法定後見  
人及ヒ指  
定後見人  
ナキ未成  
年者ノ法  
定後見人

未成年者ニ對シテハ指定後見人ヲ以テ第一順位ノ後見人トシ禁治產者ニ對シテハ夫、妻、父、又ハ母ヲ第一順位ノ後見人トスルコト前二條ノ規定スル所タリ、然レトモ或ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定セサリシコトアル可ク或ハ父母配偶者共ニ在ラス又ハ後見人タル能ハサルコトアル可シ、本條ハ此等ノ場合ニ於テ其無能力者カ家族ナルトキハ戶主ヲ以テ其後見人トナス可キコトヲ規定ス。蓋シ戶主權ヲ認メタル我國ニ於テハ當然ノ規定トイフ可キナリ  
後見人タルモノハ成年者ナルコトヲ要ス(九〇八、一號)、故ニ後見人タル可キ戶主カ未成年者ナル場合ニ於テハ其戶主ハ本條ニ依リテ後見人トナルコトヲ得サルハ勿論ナリ、戶主自ラ未成年ナルトキハ必ラス之ニ對シ親權ヲ行フ者若クハ之カ後見人タル者アラサル可カラス、其父若クハ母又ハ後見人ハ併セテ家族タル無能力者ニ對シテモ當然後見人トナルヤ若クハ其家族ニ對シテハ別

ニ親族會ノ選任ヲ要スルヤハ稍疑ハシキ問題ナリ。民法起草者ハ此場合ニ於テ別ニ親族會ノ選任ヲ要ストナシタルカ如シ(「修正案參考書」)、然レトモ余ノ解スル所ニ依レハ戶主カ本條ニ依リテ家族ノ後見人トナルハ戶主タル地位ニ伴フ當然ノ權利ニシテ即チ戶主權ノ効力ノ一ニ外ナラス、其ノ本編第二章中ニ規定セスシテ本章ニ規定シタルハ一ニ立法ノ便宜ニ依ル第二章ニ規定セラレサルカ故チ以テ之ヲ戶主權ノ効果ニ非ラストイフコトヲ許ルサス、若シ果シテ戶主權ノ効果ノ一ナリトセハ未成年者ノ行フ可キ戶主權ハ之ニ對シテ親權ヲ行フ父又ハ母若クハ後見人代リテ之ヲ行フヘキモノナルヲ以テ(八九五、九三四)本條ニ依リテ後見人タルヘキ者モ亦當然未成年ノ戶主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其後見人ナラサル可カラスト信ス

第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

(參) 八一六七、二二四、四項、佛四〇五、澳一九〇、一九九、葡四一三乃至四一六、同千八百七十六年十一月十五日法三、同千八百八十四年四月二十六日法五、伊二四五、二四八、三三〇、三項、葡二〇二、二〇三、三二〇、一項四號、ツューリッヒ七三二乃至七三四、七四一、八二二、西二〇四、三號、二三一、白草三九三、四八九、五項、獨一章一六三四、一六三八、同二章一六五六、一六六〇、普千八百七十五年七月五日後見法一七、一九、索一八八四、一八九〇、一八九三、一八九四、一九九六、加二四二乃至二四四、二四六、紐章一二三乃至一二五、一二七



指定後見人、法定後見人アラサル場合ニ於テハ親族會之ヲ選任ス、其之アルトキト雖モ九〇七條ニ依リ之ヲ辭シタルトキ又ハ九〇八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サルモノナルトキ亦同シ。親族會ノ選任ハ後見人ヲ定ムル最後ノ手段ニシテ前三條ニ依リ後見人タル可キ者アラサル場合ニ限ル、之ヲ親族會ノ選定ニ任シタルハ我國ノ國情ニ於テ裁判所ノ此場合ニ關涉スルノ穩當ナラサルヲ認メタルニ因ル

第九百五條

母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタ

ル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任

スル必要ヲ生シタルトキハ其父、母又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集

シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

(參) 八二六八、二二四、四項、澳一八九、蘭四一七、伊二五〇、一項、葡一八九、一九一、ツエーリヒ七三

本條ハ無能力者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ其後見人ノ行爲ニ因リテ更ニ其無能力者ニ對スル後見人ヲ選定スル必要ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ選定スル者及ヒ其選定ヲ請求スル義務アル者ヲ定ム。後見人ヲ選任スル必要ハ新ニ無能力者ヲ生シタル場合ノ外或ハ親權ヲ行ヘル者ノ死亡シ又ハ親權若クハ管理權喪失ノ宣告ヲ受ケ又ハ後見人カ死亡シ、後見人タル能力ヲ失ヒ又ハ免黜セラレタル

ニ因リテ生スルコトアリ、或ハ親權ヲ行フ父又ハ母又ハ前任後見人ノ任意ノ行爲ニ因リテ生スルコトアリ。前ノ場合ニ於テハ其原因ハ或ハ自然ノ結果ニ因リ其他凡テ最後ニ親權ヲ行ヘル者又ハ前任後見人ノ意思ニ因リテ生シタルモノニ非ラサルカ故ニ之ヲシテ後見人ノ選任ヲ要求スルノ義務ヲ負ハシムヘキ理由ナク是等ノ場合ニ於テハ後見監督人ヲシテ之ヲ請求セシムルコト正當ナリ(九一五、二號)ト雖モ、最後ニ親權ヲ行ヘル父若クハ母又ハ前任後見人カ其任意ノ行爲ヲ以テ後見人ヲ選任スル必要ヲ生セシメタル場合ニ於テハ其父又ハ母又ハ後見人ヲシテ其義務ヲ盡サシメサル可カラス、本條ハ此等ノ場合ヲ列記シ而シテ其場合ニ於テハ其ノ選任ヲ必要ナラシメタルモノヲシテ遲滯ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求セシムルコト、ナセリ。後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキ——是等ノ場合ト雖モ若シ法定後見人タル者アルトキハ後見人ヲ選任スル必要ナシ。本條ノ適用アルハ被後見人カ禁治產者ナルト未成年者ナルトヲ問ハス。其父、母又ハ後見人——其選任ノ必要アルニ至ラシメタル父、母又ハ後見人。親族會ヲ招集シ「父、母又ハ後見人カ自ラ招集スルコトイフ、親族會ノ現ニ成立セル場合ナリ(九四九)」「招集ヲ裁判所ニ請求ス」——親族會ノ未タ成立シ居ラサル場合ナリ(九四四)

第九百六條

後見人ハ一人タルコトヲ要ス

(參) 八一六二、二二六、佛四一七、蘭三八六、四一八、伊二四六、葡一九四、西二〇一、二〇八、白章三八



七、獨一章一六三八、二項、同二章一六六〇、二項、索一八八三、一八八四、印和綴法四七、加三三八乃至二四〇、二五二、紐章一九乃至二二、一三三

第二、後見人ノ組

本條ハ後見人ノ獨任制ノ機關ナルヲ要スルヲ明ニス、羅馬法ニ於テハ二人以上ノ後見人アルヲ許ルシ、現行ノ諸國民法ニ於テモ往々二人以上ノ後見人ヲ許ルスモノアリ(佛、印度、白草等)ト雖モ後見人ハ無能力者ノ身上財産ニ關シ殆ソト親權ニ等シキ職務ヲ有スル者ニシテ後見人ニシテ若シ二人以上ナルトキハ意思ノ統一ヲ缺キ家族間ノ關係ニ於テ紛擾ヲ來スノ恐アルヲ以テ本法ハ親權ノ行使ヲ父母ノ何レカ一人ノ權利トナシ二人同時ニ之ヲ行フコトヲ許ルサルト同一ノ(然カモ一層強キ)理由ヲ以テ後見人ハ一人ナルコトヲ要ストナセリ(以、蘭、葡、獨等皆同シ)

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

- 一 軍人トシテ現役ニ服スルコト
- 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト
- 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト
- 四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血

族及ヒ戸主ハ此限ニ在ラス

五 此他正當ノ事由

(參) 八一六三、一七八、一七九、二二五、二二六、佛四〇一、四二七乃至四四一、五〇八、澳一九五乃至二〇三、二五七乃至二五九、蘭三八七、四三三乃至四三五、五〇六、三項、五一五、伊二七二乃至二七六、三三三、葡一八六、二〇一、二項、二〇四、二二七乃至三三一、ツェーリヒ七四七、七五二、四二〇二、二四四乃至二五一、白草三八九、四〇二、四二一乃至四二六、四九〇、獨一章一六三九、一六四三、一六四四、一七〇六、同二章一六六六乃至一六六九、一七四七、普千八百七十五年七月五日後見法二三、六三、二項、索一八八一、一八九七乃至一八九九、一九七六

第三、後見人タル義務ノ免除

「一」後見人タル義務ハ法律上ノ強制負擔タリ、後見人トシテ指定セラレタル者、法定ノ後見人又ハ其選任ヲ受ケタル者ハ何人ト雖モ其任務ヲ拒辭スルヲ得サルヲ原則トス。然レトモ後見人ノ職務ハ重大ノ責任ヲ負ヒ殊ニ被後見人ノ財産多額ナルニ於テハ其ノ職務ハ頗ル煩多ナルヘキヲ以テ若シ其後見人タルヘキ者他ニ重要ノ公務ヲ帶ヒ其他後見人タル能ハサル正當ノ事由アルトキハ此義務ヲ免除セラル、コトヲ要ス、本條ハ即チ此義務ヲ免除スル場合ヲ定ム。「二」後見ノ免除ハ法律カ後見人タル可キ者ニ與フル特典ナリ、後見人ハ固ヨリ其任意ヲ以テ之ヲ拋棄スルコトヲ得、後見人カ其免除ノ權利ヲ拋棄シテ拒辭ノ意思ヲ表示セサルトキハ當然後見人トナル可キモノナリ。後見ノ免除ハ後見人ノ就職當時ト其任務ノ繼續中トニ並ヒ適用セラル、故ニ後見人タル可キ者



其就職ノ當時ニ於テ本條ノ事由アルトキハ其就職ヲ辭スルコトヲ得ヘク、其就職後任務繼續中本條ノ事由ヲ生スルトキハ其任務ヲ辭スルコトヲ得、就職當時本條ノ事由アルニ拘ラス就職ヲ諾シタルモノト雖モ其後ニ於テ同一ノ事由ヲ以テ辭任スルコトヲ妨グス。〔三〕後見免除ノ原因ハ諸國ノ民法ニ於テハ往々其場合ヲ列記スルモノアリ、然レトモ法律上豫メ其場合ヲ限定スルハ稍モズレハ脫漏ヲ免レスシテ適用上狹キニ失スルノ患アルヲ以テ本法ハ其場合ヲ列記スルコトヲ廣ク正當ノ事由アル場合ニ於テ辭任スルコトヲ許ルシ、而シテ別ニ一定ノ事由ヲ舉ク此事由アルトキハ當然正當ノ事由アルモノト看做セリ。〔四〕後見人辭任ノ手續ニ關シテハ本條ハ別ニ之カ明文ヲ設ケス、隨テ後見人カ其任務ヲ辭スルノ意思ヲ表示スルニ依リテ直ニ後見人ノ職ヲ免ル、ヤ若クハ親族會又ハ裁判所ノ其辭任ヲ聽許スルニ由リテ始メテ其職ヲ免ル、ヤハ稍疑ハシキニ似タリ、然レトモ後見人ハ一定ノ事由アルトキ若クハ其他ノ正當ノ事由アルトキニ於テ始テ其任務ヲ辭スルコトヲ得、其ノ果シテ是ノ如キ事由アルカ若クハ其事由ノ果シテ正當ナルカハ辭任者自ラ之ヲ決定スル權限ヲ有スルコトアル可カラス、隨テ後見人カ其辭任ノ意思ヲ表示スルト同時ニ直ニ其任務ヲ免ル、モノニ非ラサルハ明瞭ナリ、本法九〇五條ハ後見人カ其任務ヲ辭スルトキハ直ニ親族會ヲ招集シ若クハ其招集ヲ請求スヘキコトヲ命セリ、是レ蓋シ本條カ後見人ノ辭任ハ親族會ノ之ヲ認許スルニ由リテ始メテ効力ヲ生スルモノトナシタル趣意ヲ窺フニ充分ナル可シ。換言スレ

ハ親族會カ本條ニ定メタル事由アリト認メタル場合ニ於テ始テ後見人ハ其任務ヲ免ルヘキモノナリ。後見人カ辭任ノ意思ヲ表示シタルニ當リ親族會カ若シ本條ニ定メタル事由ナシト認メタルトキハ後見人ハ其任務ヲ免ル、コト能ハサルモノトス、然レトモ後見人カ自ラ其任務ニ就ク意思ナキニ於テハ之ヲ強制シテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス、此場合ニ於テハ九二二條ノ規定ニ依リ臨時管理人ヲ選任シテ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得ヘシ。親族會カ本條ニ定メタル事由ナシト認メタル場合ニ於テモ後見人若シ自ラ正當ノ事由アリト信スルトキハ九五一條ニ依リ裁判所ニ請求シテ其義務ノ免除ヲ求ムルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ。〔五〕親族會カ正當ノ事由ト認メタルトキハ何等ノ事由タルヲ問ハズ本法ハ廣ク後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ許ルス、而シテ其他尙一定ノ事由アルトキハ法律上當然後見辭任ノ正當ノ原因アルモノト看做セリ、是等一定ノ事由トハ婦女タルコト及ヒ本條第一號乃至第四號ノ事由ナリ、親族會ハ果シテ眞ニ是等ノ事實アルヤ否ヤヲ審査スル權限アルニ止リ若シ其事實アルコトヲ認メタルトキハ當然後見人ノ辭任ヲ聽許スルコトヲ要ス、之ニ反シテ若シ婦女タルコト又ハ本條一號乃至四號ノ事由ニ由ラスシテ後見ノ任務ヲ辭シタルトキハ親族會ハ皆ニ其事實ノ有無ヲ審査スルニ止ラスシテ其事實カ果シテ後見ノ任務ヲ免除スヘキ正當ノ事由ナルヤ否ヤヲ審査スル權限ヲ有ス「一號」現役中ノ軍人ハ一身ヲ舉クテ軍事ニ奉スルヲ要スルモノナルヲ以テ何レノ國ノ法律ニ於テモ之ニ後見ノ任務ヲ強制スルコト



ナシ。」「二號」―公務ニ従事スルモノハ其事務ヲ掌理スル地ニ現在スル必要アルヲ以テ他ノ郡市ニ在ル被後見人ノ身上財産ヲ保護スル責ヲ盡クスコト能ハサレハナリ、市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ従事セルモノナルヲ要ス、故ニ假令其住居地ハ被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ナルモ其公務ヲ取ル場處カ同一ノ郡市内ナルトキハ本號ノ適用ヲ受ケス、之ト同シク被後見人ト同一ノ郡市ニ住居スルモノト雖モ公務ヲ取ル場處カ其郡市以外ナルトキハ本條ニ依リ辭任スルコトヲ得、公務トハ官吏、公吏、辯護士、議會議員、其他公ノ職務ヲイフ、公務ニ従事スルトハ公務ヲ以テ繼續シテ自己ノ業務トナセルヲ要ス、裁判所ノ證人鑑定人トナルカ如キ一時ノ事務ハ公務ナルモ本號ノ適用ヲ受ケス。」「三號」―後見人タルヘキ順位自己ヨリ先ニ在ル者カ辭任ノ事由生シタル爲メ其任務自己ノ負擔トナリシ場合ニ於テ其先順位ニ在ル者ノ辭任ノ事由止ミタルトキハ其者ヲシテ當然ノ順位ニ復シテ後見ノ任務ヲ取ラシムルヲ得ヘキコト正當ナリ、外國ニモ其例多シ。」「四號」―未成年者ニ對シテハ後見ノ年限ハ豫メ一定セルヲ以テ成ルヘク後見人ヲ更迭セシメサルヲ要スト雖モ、禁治產者ニ對シテハ後見ノ任期何年ニ及フヘキヤ豫メ知ルコトヲ得サルヲ以テ配偶者、直系血族(尊屬又ハ卑屬)及ヒ戸主ノ如キ德義上必ラス後見人タルヘキ義務アルモノ、外ハ無限ニ後見人タル義務ヲ負擔セシムルハ酷ニ失ス故ニ本條ハ是等ノ者ノ外ハ十年以上其者ニ對シテ後見ヲ爲シタル後ハ禁治產者ノ後見ヲ辭スルヲ得トナセリ、十年以上ノ後見ハ其者ニ對シテ爲シタルコト

ヲ要ス未成年者等他ノ被後見人ニ對シ十年以上後見ヲ爲シタル故ヲ以テ他ノ禁治產者ニ對スル後見ヲ辭スルコトヲ得ス、是レ本條立法ノ理由ヨリ自ラ明瞭ナリ(人、二二五條參照)。」「婦女タルコト」―婦女ハ其性格ニ於テ財産管理ニ適セス又婦女ヲシテ必ラス後見人タル義務ヲ負ハシムルハ我國ノ事情ニ適セサルモノナルニ因ル、此立法ノ趣意ハ本法八九九條ニ於テ既ニ採用セシ所ナリ。」「五號」―事由ノ正當ナルヤ否ヤハ親族會ノ認定ニ依ル、辭任者ト親族會ト意見ヲ異ニシタルトキハ最終ノ決定ハ裁判所ノ認定ニ依ル、其一二ノ例ヲ云ハ、同郡市内ニ於テ繁劇ナル公務ニ従事スルヲ、屢他地方ニ旅行スルヲ要スル私務ニ従事スルヲ、老衰、疾病、第三者ニ對シ後見人タル任務ヲ有スルヲ、他ニ自己ヨリ一層適當ナル後見人アルヲ等皆正當事由タルコトヲ得ヘシ

第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 五 破產者
- 六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者竝ニ直



系血族

七 行方ノ知レサル者

八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者

(參) 一八〇乃至一八二、二二六、九年六月二十九日內務省指、佛四四二乃至四四九、澳一九一乃至一九四、二五四、二五七、二六一、蘭四三六乃至四三八、四四〇、四四〇補、五〇六、三項、同千八百八十四年四月二十六日法六、伊二六八乃至二七一、葡二三四乃至二四一、三二〇、二項、ツェーリヒ八二、四二三七乃至二四三、自草四〇二、四二七乃至四三二、獨一草一六三七、一六四〇、一六四六、一七〇四、一七〇五、一七〇七、同二草一六五九、一六六一乃至一六六四、一七四三乃至一七四五、普千八百七十五年七月五日後見法二一、六二、六三、索一八八五、一八八七、一八八八、一八九一、一八九二、一八九五、一九七四、一九七七、一九七八、加二五三乃至二五五、紐草一三四乃至一三六

後見人ハ他人ノ身上財産ヲ管理スル重要ノ任務ヲ帶アルモノナルヲ以テ完全ノ能力者ニ非ラサレハ其任務ニ當ルヲ許ル可カラサルノミナラス能力者ト雖モ被後見人ノ利益ヲ毀損ス可キ恐アルモノニハ之ニ任スルヲ禁セサル可カラス、是ヲ以テ諸國ノ民法ハ一定ノ事由アルトキハ後見人タル能力ヲ奪ヒ之ヲ除斥シ又ハ之ヲ免黜ス可キコトヲ定ム、後見人ノ能力トハ未成年又ハ禁治産等ノ如ク其意思ニ關係ナキ事實ニ原因スル不能力ヲイヒ、後見人ノ除斥トハ其身上ノ過失又

第四、後見人タル不能力

ハ不正ノ行爲ニ因リ其後見人タル資格ヲ奪フテイヒ、後見人ノ免黜トハ既ニ後見人ノ任務ニ在ル者ヲ其過失又ハ不正行爲ニ因リ其任務ヲ奪フテイフ。是等三ツノ場合ハ畢竟何レモ後見人タルコトヲ得サル事由タルニ過キサルヲ以テ、本條ハ是等凡テノ場合ヲ併合シ是等ノ事由アルトキハ其未タ後見人ノ職ニ在ラサル者ハ就職スルコトヲ得ス、其已ニ就職セル後ニ於テ是等ノ事由ヲ生シタルトキハ其職ヲ免セラルヘキモノトナセリ。後見人ノ不能力ハ後見人タル義務ノ免除ト異ナリ、免除ハ後見人タルヘキ者ノ利益ノ爲ニ設ケラル後見人ハ任意ニ其利益ヲ拋棄シ以テ後見人ノ職ニ就クコトヲ妨ケス、後見人ノ不能力ハ後見人タル資格ヲ剝奪スルモノニシテ後見人タラントヲ欲スト雖モ其職ニ就クコトヲ得サルモノナリ。

「一號及二號」下無能力者ノ後見人タルコトヲ禁スルナリ、無能力者ハ自ラ親權ニ服シ、後見ニ付セラレ又ハ保佐ニ付セラル、モノナルヲ以テ自ラ他人ノ爲ニ後見人トナリ得ヘキ理由ナシ。但シ獨立ノ生計ヲ立テサル成年者ハ親權ニ服スル者ト雖モ他人ノ爲ニ後見人トナルヲ妨ケス。「三號」下刑法上ノ犯罪者ハ國家カ認メテ正常ノ德義心ヲ有セストナス者ナリ、之ニ他人ノ財産ヲ托スルノ危險ナルハ勿論ナリ、此ノ趣意ハ刑法中既ニ其ノ規定アリ(刑法、三一、七號、三二、三三、三四)。「四號」下親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告セラレタル父又ハ母、其他裁判所ニ於テ免黜セラレタル後見人又ハ保佐人、親族會カ九一一條九一八條九一九條等ニ依リ免黜シタル後見人ハ此限ニ在



ラス、本號ヲ以テ後見人保佐人ノ免黜ハ法カ特ニ之ヲ許シタル場合ノ外親族會ニ於テ免黜スルヲ得サルコト明ニス、後見人カ其任務ヲ曠クシ又ハ其職權ヲ濫用シタルトキハ親族會ハ其免黜ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノナリ「五號」「恒産ナキ者ハ恒心アルコトヲ期スルヲ得ス、破産宣告ヲ受ケタル者ニ他人ノ財産ノ管理ヲ托スルハ危險ナリ」六號「後見人ハ誠意ヲ以テ被後見人ノ利益ヲ保護セサル可カラス、被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ爲シタル者及ヒ其配偶者直系血族ハ被後見人ト當然利益相反スルモノナルヲ以テナリ」七號「行方不明ノ者カ後見ノ任務ヲ盡クス能ハサルハ勿論ナリ」八號「裁判所ニ於テ之ヲ認ムルハ親族會ノ請求ニ依ル

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

【關】 一一、一二、(參) 八二七、二二四、二項乃至四項、二二五、二三二、三項、二三三、一項、佛四九、五一三、關五〇三乃至五〇六、五一五、伊二六八、二六九、二七一、三三九、一項、葡三三九、三四六、四二二七、自章四七六、五〇三、五〇四、一項、索一九九八

本條ハ保佐人ニ關シテ後見人ノ規定ヲ準用ス可キコトヲ定ム。保佐ハ元來後見ト異ナリ嚴格ニイフトキハ本章中ニ規定ス可キ事項ニ非ラスト雖モ其性質ニ於テ禁治産者ニ對スル後見ト相類スル

第五、保佐人

所アルノミナラス之カ爲ニ特ニ一章ヲ設クルノ必要ナキヲ以テ便宜此處ニ其規定ヲ設ケタルナリ。「前七條ノ規定」保佐人ノ就職、其組織、其義務ノ免除及ヒ其ノ不能力ニ關シテ全ク禁治産者ニ對スル後見人ノ規定ヲ準用ス。「保佐人又ハ其代表スル者」保佐人又ハ保佐人カ代理權ヲ有スル第三者ナリ。「利益相反スル行爲」保佐人ト其保佐スル準禁治産者ト契約セントスルトキ、其一方ヲ相手取り訴訟ヲ提起スルトキ等。「保佐人ハ…ヲ要ス」後見人ニ關シテハ後見監督人ヲシテ此場合ニ於ル被後見人代表ノ義務ヲ負ハシメタルモ(九一五號)保佐人ニ就テハ保佐ヲ監督スル者アラサルカ故ニ別ニ被保佐人ヲ代表スヘキ者アルヲ要スルヲ以テナリ、臨時保佐人ノ任務ハ其行爲カ完了スルト共ニ終結ス

第二款 後見監督人

後見ノ事務ノ監督ニ關シテ或ハ獨逸民法ノ如ク裁判所ヲ以テ其監督ノ機關トナスモノアリ或ハ佛、以、等ノ法ノ如ク獨立ノ機關ヲ設クルモノアリ本法ハ既ニ述ヘタル如ク後見ヲ以テ私ノ事務ト爲シタルカ故ニ佛國民法ト同シク國家自ラ其ノ事務ヲ監督スルコトナク別ニ私ノ機關ヲ置イテ之ヲ監督セシム、後見監督人即チ是ナリ。後見監督ノ機關トシテハ別ニ親族會アルモ親族會ハ合議ノ機關ニシテ其ノ招集及ヒ議決ニ時日ヲ要シ時ニ應シテ敏捷ノ處分ヲナスコト能ハサルヲ以テ



別ニ常時後見人自身ニ就キ其事務ヲ監督スル機關アルコトヲ要ス、本法ハ舊民法ノ必スシモ之ヲ置クコトヲ必要トセザリシニ反シ後見監督人ヲシテ常ニ置クコトヲ要スル機關タラシメタリ本款ハ九一〇乃至九一三ノ四條ヲ以テ後見監督人ノ就職ヲ規定シ九一四條及ヒ九一六條ヲ以テ其義務ノ免除及ヒ其不能力ヲ定メ九一五條及ヒ九一六條ヲ以テ後見監督人ノ職務及ヒ職務ヲ行フニ當リテ負フ所ノ義務ヲ規定ス

**第九百十條** 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得

(參) 八一九、二項、澳二一一、二八〇、伊二六四、一項、西二三三、獨一草一六四七、四項、同二草一六七二、四項、普十八百七十五年七月五日法二六、五項

第一、後見監督人ノ就職ニ就テハ後見監督人ノ指定ニ依リテ

後見人アルトキハ必ラス後見監督人アルヲ要ス。本條及ヒ次條ヲ以テ何人カ後見監督人タルヘキヤヲ定ム。而シテ本條ハ第一ノ順位ニ於テハ九一〇一條ニ依リ後見人ヲ指定スル權利アルモノニ遺言ヲ以テ之ヲ指定スルノ權利ヲ與ヘタリ。其ノ立法ノ理由、指定權アル者、指定ノ方式、其効力等ニ就テハ九一〇一條ニ述ヘタル所ニ同シ。

**第九百十一條** 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請

求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス

(參) 八一九、一七〇、十五年十一月十六日内務省指三、佛四二〇一項、四二二、五〇五、澳二一一、二八〇、蘭四二二乃至四二四、五〇三、一項、五〇五、五〇六、三項、伊二六四、乃至二六六、四二〇一、二〇六、二三三、二三四、自草三九八乃至四〇〇、獨一草一六四七、一七三三、同二草一六七二、一七七九、一七八〇、普十八百七十五年七月五日法二六

(二) 選定後見監督人

指定後見監督人ナキトキハ第二ノ順位トシテ親族會後見監督人ヲ選任ス。禁治產者ノ後見監督人ニ就テハ第九一〇條ノ適用ナキヲ以テ親族會ハ第一ノ順位ニ於テ之ヲ選任スヘキモノナリ、(一) 親族會ノ招集 (イ) 指定後見人又ハ法定後見人アル場合ニ於テハ其後見人ハ後見ノ事務ニ着手スル前ニ親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス。其事務着手ノ前ニ爲スコトヲ必要トシタルハ後見ノ事務ニ後見監督人ヲ必要トシタル立法ノ當然ノ結果ナリ、其後見人ニ招集ヲ請求スル義務ヲ負ハシメタルハ後見人ハ專ラ無能力者ノ利益ヲ保護スヘキ任務ヲ帶フルヲ以テナリ、其ノ常ニ裁判所ニ請求スルコトヲ命シ後見人ノ自ラ之ヲ招集スルコトヲ規定セサルハ本條ハ後見ノ開始



ノ場合ニシテ後見開始ノ場合ニ於テハ九四九條ニ依リテ親族會ノ成立シ居ル場合アラサルヲ以テナリ。(ロ)指定後見人及ヒ法定後見人ナク隨テ親族會カ後見人ヲ選任スヘキ場合ニ於テハ特ニ後見監督人選任ノ爲ニ親族會ヲ招集スル必要ナク。其後見人選任ノ爲ニ招集セラレタル親族會ニ於テ同時ニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス、本條第二項ヲ以テ其意ヲ明ニセリ。二〇〇後見人ノ免職。既ニ就職セル後見人ハ後見人自ラ其ノ任務ヲ辭スル場合ノ外其ノ任務ヲ免スルハ裁判所ノ判決ヲ以テシ親族會ハ之ヲ免職スルノ權限ヲ有セサルヲ原則トスルコト九〇八條ニ於テ述ヘタルカ如シ、然レトモ法律ハ其例外トシテ後見人ニ一定ノ不正行爲ナル場合ニ於テ親族會ニ其後見人ヲ免職スルノ權限ヲ委ヌ、本條第一項但書ハ即チ第一ノ場合ヲ規定セリ、指定後見人又ハ法定後見人ハ後見開始後事務着手前ニ於テ遲滯ナク後見監督人ヲ選定スヘキ親族會ノ招集ヲ請求スヘキ義務ヲ負フ、若シ此義務ニ違反シ其招集ヲ請求セスシテ直ニ事務ニ着手シタル場合ニ於テハ或ハ後見監督人ノ監督ニ服スルヲ忌ミ私ニ奸曲ヲ營マント欲スル意思ナキヤヲ保ス可ラス。假令現ニ奸曲ヲ營メル形跡ナシトスルモ是ノ如キモノハ將來ニ於テ無能力者ノ利益ノ爲甚ク危險ナリトイハサル可ラス、故ニ本法ハ此場合ニ於テハ裁判所ノ關涉ヲ待タシテ親族會ニ之ヲ免職スルコトヲ得セシメタリ、但シ之ヲ免職スルト否トハ固ヨリ親族會ノ任意ナリ

**第九百十二條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ遲滯**

ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

(參) 八一九、一七〇

前二條ニ於テ後見開始ノ場合ニ於ケル後見監督人ノ就職ヲ規定セリ、本條及次條ヲ以テ後見ノ繼續中ニ於テ後見監督人ヲ選任スル必要ヲ生シタル場合ヲ規定ス、而シテ本條ハ先ツ後見人ノ就職中後見監督人カ缺ケタル場合ヲ定ム、後見監督人ノ缺ケルハ九〇七條ノ事由アルニ由リ九一六條ニ依リテ其任務ヲ辭シタルトキ九〇六條ノ事由アルニ由リ九一六條ニ依リ免職セラレタル場合ニ在リ、是等ノ場合ニ於テハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ノ選任ヲ要求スルコトヲ要ス、而シテ此場合ニ於テモ亦前條第一項ノ場合ニ同シク後見監督人ノ缺ケタル後ハ新ニ後見ノ事務ニ着手スル前ニ直ニ親族會ヲ招集スル義務ヲ負フ、若シ此義務ニ違反シテ之ヲ招集スル前ニ事務ニ着手シタルトキハ又親族會ハ之ヲ免職スルコトヲ得、本條ニ於テハ前條ニ反シ裁判所ニ請求セスシテ後見人自ラ招集スト規定シタルハ本條ハ後見ノ繼續中ノ場合ナルヲ以テ九四九條ニ依リ親族會ハ既ニ成立シ居ルニ因ル

**第九百十三條 後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケス**

(三)後見監督人ノ改選  
(イ)後見監督人缺ケタルトキ



新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滞  
ナク親族會ヲ召集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若  
シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

(參) 佛四二五、蘭四三二

後見監督人ハ後見人ヲ監督スルモノナルヲ以テ其ノ一身上ノ關係ニ於テ後見人ヲ曲庇スルノ恐ア  
ルカ如キモノナル可カラス、故ニ後見監督人タルヘキモノ、果シテ其任ニ適スルヤ否ヤハ後見人  
ノ何人タルヤニ因リテ定マリ、一ノ後見人ニ對シテ適任ナル後見監督人モ他ノ後見人ニ對シテ或  
ハ不適任ナルヲ免レサルコトアル可シ、故ニ本條ヲ以テ後見人ノ更迭アリタルトキハ後見監督人モ亦  
更迭スルヲ以テ原則トシ、親族會ニ於テ新後見人ヲ選任シタルトキハ其選任ト同時ニ後見監督人ヲ  
モ改選スルヲ要ストシ若シ新後見人カ指定又ハ法定ノ後見人ナルトハ後見監督人ニ親族會ヲ召集  
シ自己ノ改選ヲ要求スルノ義務ヲ負ハシメタリ。但シ若シ親族會ニ於テ新後見人ニ對シテモ亦同  
一後見監督人ヲ以テ適任ナリト認ムルニ於テハ強テ之ヲ改選セシムル必要ハ固ヨリ存在セサルモ  
ノナルヲ以テ前ノ後見監督人ヲ再選スルモ差支ナキコト、ナセリ、後見監督人カ若シ指定又ハ法  
定後見人カ新ニ職ニ就キタルニ拘ラス親族會ヲ召集スル義務ヲ怠リタルトキハ親族會ハ自己ノ職權  
ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得ルハ勿論ナルモ其之ヲ改選スル前ニ於テ後見人ノ爲シタル行爲ニ就テ

(ロ)後見  
人ノ更迭  
アルトキ

ハ後見監督人ハ後見人ト連帶シテ其責ニ任スルコト、ナセリ、蓋シ此場合ニ於テ若シ後見人カ不  
正行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ全ク適當ノ監督人ヲ得サルカ爲メナリト看做スモ不可ナク後見  
監督人ノ改選ヲ要求スル義務ヲ怠リタルモノハ其責ヲ免ル、コト能ハサレハナリ

第九百十四條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タル  
コトヲ得ス

(參) 佛二三、西二三五、白草四〇〇、二項

後見監督人カ其一身上後見人ヲ曲庇ス可キ地位ニ在ルヘカラサルコトハ前條ニ述ヘタル如シ、故ニ  
或ハ親族上財産上其他身分關係等ニ於テ後見人ヲ監督スルニ足ラサルカ如キモノハ勉メテ其後見  
監督人タラシメサルヲ要スト雖モ、此ノ如キ關係ハ種々雜多ニシテ法律ヲ以テ一々之ヲ列記シ得  
ヘキニ非ラス、多クノ場合ニ於テハ全ク之ヲ指定權又ハ選任權アル者ノ指定又ハ選任ニ一任シテ  
不可ナシ、本條ハ唯其ノ關係ノ最モ親密ニシテ如何ナル場合ニ於テモ後見人ヲ監督スルニ足ラス  
ト認ムヘキモノニ限リテ後見監督人タルコトヲ禁セリ、即チ夫ニシテ妻ヲ監督シ妻ニシテ夫ヲ監  
督シ、又ハ親子祖孫若シハ兄弟姉妹相監督スルハ到底監督ノ目的ヲ達スル能ハサルモノト認メ是  
等ニ限リテ法律上何レノ場合ニモ後見監督人タルヲ得サルモノトナセリ

第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

第二、  
後見監督  
人タル不  
能ハ  
○(ロ)後見  
人トノ一  
身上ノ關  
係



- 一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
- 二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコト  
ヲ促シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムル  
コト
- 三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト
- 四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ  
被後見人ヲ代表スルコト

(參) 一九八乃至二〇〇、佛四二〇、二項、四二四、澳二二乃至二一四、二七一、二七二、蘭四二七乃至  
四三一、五〇六、三項、伊二六六、二項、三項、西三三六、自草四五六、獨一草一六五一、一六五四、  
同二草一六七五、一六七六、一六七九

本條ハ後見監督人ノ職務權限ヲ明ニス、後見監督人ノ職務ハ本來後見ノ事務ノ一部ナリト雖モ  
後見ノ事務ヲ規定セル節中ニハ專ラ後見人ノ取ル可キ事務ヲ規定セルヲ以テ便宜本條ニ之レヲ定  
ム。「一號」一是レ後見監督人ノ職務ノ本躰ナリ、監督ノ目的ハ後見人カ其任務ヲ曠クスルヲナキ  
ヤ否ヤ及ヒ其事務ノ執行カ法規ニ違反シ又ハ被後見人ノ利益ヲ害スルヲナキヤ否ヤヲ監視スルニ  
在リ、此目的ヲ達スルカ爲ニ法律ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルニ當

第三、  
後見監督  
人ノ權限

リテ後見監督人ノ立會ヲ必要トシ(九一七)其管理ノ計算ヲ爲スニ當リテモ亦其立會ヲ必要トセ  
リ(九三八)後見監督人カ若シ後見人ニ不正ノ所爲アルヲ見ルトキハ直ニ相當ノ措置ヲ取ルヲ  
要ス。「二號」後見人ハ一日モ缺ク可カラサルカ故ニ後見監督人ヲシテ此任務ヲ負ハシメタルヲ  
リ。後任者カ法定後見人タル場合ニ於テハ別ニ之ヲ選任スル要ナシ此場合ニ於テハ其後見人ノ任  
ニ當レルヲ之ニ通知シ其就職ヲ促カスヲ以テ足ル、法定後見人ナキ場合ニ於テハ親族會ヲ招集  
スルコトヲ要ス。「三號」例之後見人カ不在ナルトキ其他後見人ノ任務ヲ行フ能ハサルトキニ於  
テ被後見人ノ利益ノ爲ニ放擲シ置クヲ能ハサル事情アルトキハ後見人ニ代ハリテ必要ノ處分ヲナ  
スヲ、後見人缺ケ後任者ノ未ダ就職セサルトキ亦同シ、然レトモ法律カ親族會ノナスヲ必要ト  
セル行爲ニ付テハ後見監督人ハ急迫ノ事情アルモ之ニ代リテ其行爲ヲナスヲ得サルモノト解スル  
ノ正當ナルヲ信ス、「四號」例之後見人カ被後見人ニ對シテ債權ヲ有シ債務ヲ負フトキ(九一  
九)後見人カ被後見人ノ財産ヲ讓受クルトキ(九三〇)、又ハ親族會ノ同意ヲ得テ其財産ヲ賃借ス  
ルトキ(九三一)等其他凡テ後見人ト被後見人ト利益相反スル場合ニ於テ後見人ノ法定代理人ト  
ナル、後見人カ被後見人ノ外他ノ者ニ對シテ代理人タル場合ニ於テ其代表スル者ト被後見人ト利  
益相反スル場合ニ於テモ亦同様ナリ。是レ何人モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人トナリ  
又ハ當事者双方ノ代理人トナルヲ得サル原則(一〇八)ノ適用ニシテ八八條ノ規定ト同一ノ



越意ニ出ツ

第九百十六條 第六百四十四條、第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見

監督人ニ之ヲ準用ス

(參) 一六九、三項、佛四二六、蘭四二五、四二六、四三三乃至四四〇補、五〇六、三項、五一五、伊二六八、二六九、二七一乃至二七六、西三三七、二三九、二四四、自草四〇二、獨一草一六四七、四項、同二草一六七二、四項、普千八百七十五年七月五日法二六、五項、六三

第四、後見監督人ノ職務ニ要スル程度ノ注意

本條ハ(イ)後見監督人カ其在職ヲ行フニ要スル注意ノ程度(六四四條ノ準用) (ロ)後見監督人カ其任務ヲ辭シ得ル場合(九〇七條ノ準用) (ハ)後見監督人トナル不能力(九〇八條ノ準用)ノ三ノ事項ヲ規定ス

第五、後見監督人タル義務ノ免除

(一)後見監督人ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ其職務ヲ行フコトヲ要ス、善良ナル管理人ノ注意ノ何ナルヤハ民法上ノ一大問題ナルモ事債權編ニ於テ既ニ説明セラレタル所ナル可キヲ以テ今之ヲ説明セス、後見監督人ハ親子夫婦間ノ關係ト異ナリ他人ノ事務ヲ管理スルモノナルヲ以テ普通ノ受任者ト同シク管ニ自己ニ對スルト同一ノ注意ヲ以テスルコトヲ要スルニ止ラス善良ナル管理者ノ注意ヲ以テス可キヲ當然ナリ、法律ハ後見人親族會員ニ對シテモ亦同一ノ注意ノ程度ヲ必要トセリ(九三六、九五三)

第二、後見監督人タル不能力(一)自己ノ身上ニ基ク原因

(二)後見監督人ハ後見人ト同シク法律上ノ強制負擔タリ任意ニ之ヲ辭スルコトヲ許ルサス、且ツ之ヲ拒辭シ得ル場合ニ關シテハ後見人ト同一ノ規定ニ依ラシメタリ此點ニ於テ二者ヲ區別ス可キ理由ナクレハナリ

(三)後見監督人タルコトヲ禁スル場合ニ付テモ亦右ト同一ノ理由ニ依リ後見人ニ關スルト同一ノ規定ニ依ラシム而シテ其外後見人トノ一身上ノ關係ニ依リ之ヲ禁スルノ場合ハ九一四條ニ於テ別ニ之ヲ定メタリ

第二節 後見ノ事務

第三節 後見ノ事務

本節ハ後見人ノ負擔スル職務及ヒ其職務ヲ行フニ當リテ有スル權利及ヒ義務ノ範圍ヲ規定スルモノニシテ本章中ノ主眼タルモノナリ。

一 後見ノ事務ノ種別 後見ノ事務ハ通常之ヲ三ニ別ツ、一ハ被後見人ノ身上ニ對スル事務ナリ、一ハ其財産ニ對スル事務ナリ、一ハ法律行為ニ就キ之ヲ代理シ又ハ其行為ニ同意ヲ與フルノ事務ナリ

(一)被後見人ノ身上ニ對スル事務ハ被後見人ノ未成年者タルト、禁治者タルトニ依リテ異ナリ前

第六章 後見 第三節 後見ノ事務



者ニ對シテハ之ヲ監護教育スルヲ以テ其事務ノ主眼トシ、隨テ其居所ヲ指定シ之ヲ懲戒シ其兵役ノ出願ヲ許否シ其營業ヲ許可シ又ハ其許可ヲ取消シ若クハ制限スルノ權利義務ヲ有ス、後者ニ對シテハ之ヲ療養看護スルヲ以テ其事務ノ主眼トナス、隨テ之ヲ瘋癲病院ニ入レ若クハ自宅ニ監置スル等ノ權利義務ヲ有ス、親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ全ク身上ニ對スル權限ヲ有セス

〔二〕被後見人ノ財産ニ對スル事務、後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理ス、財産管理ニ就テハ有給ノ財産管理人又ハ復代理人ヲ使用スルコトヲ得ヘシ、後見人ハ被後見人ノ爲ニ受取リタル金錢カ一定ノ額ニ達スレハ之ヲ寄託スルノ義務ヲ負フ、一定ノ額ヲ超エテハ其費用ヲ支出スルコトヲ得ス、毎年少クモ一回財産ノ狀況ヲ報告スルノ義務ヲ負ヒ、其任務ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク管理ノ計算ヲナスコトヲ要ス

〔三〕後見人ハ財産ニ關スル法律行爲ニ就キ被後見人ヲ代理シ、又ハ被後見人カ未成年者ナルトキハ其行爲ヲ爲スニ同意ヲ與フ、此代理權及ヒ同意權ニ關シテハ後見人ハ多クノ制限ヲ受ク其ノ重大ニ涉ルモノハ親族等ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、後見人ハ又被後見人ニ代リテ其戸主權及ヒ親權ヲ行ヒ及ヒ其配偶者ノ財産ヲ管理ス

後見人カ其任務ヲ行フニハ善良ナル管理人ノ注意ヲナスコトヲ要シ其ノ注意ヲ怠リ爲ニ被後見人

ニ損害ヲ與ヘタルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス

二 後見ノ事務ト親權 後見カ親權ノ延長ナリトハ若シ後見ハ親權ヲ脱シタル未成年者ニ對スル

保護ノ制度ナリトノ意ナリトセバ固ヨリ正當ナリ、然レトモ若シ後見ノ事務カ親權ヲ組織スル權利義務ト其實質ヲ同シウストノ意ナリトセハ大ナル誤謬ナリ、禁治産者ニ對スル後見ノ親權ト異ナルハ言ヲ俟タス、未成年者ニ對スル後見人モ亦親權ヲ行フ者ノ有スルカ如キ大ナル權利義務ヲ有スルニ非ラス、未成年者ニ對スル後見カ親權ト異ナルノ點ハ甚タ煩多ナリト雖モ試ニ其最モ著ルシキ二三ヲ舉クレハ(イ)後見人ハ善良ノ管理人ノ注意ノ責ニ任ス、親權者ハ自己ニ對スルト同一ノ注意ノ責ニ任スルノミ(ロ)後見人ハ後見監督人ノ監督ニ服スルモ親權者ハ之ニ服セス(ハ)後見人ハ財産調査及ヒ財産目錄調製ノ義務アルモ親權者ニ其義務ナシ(ニ)後見人ハ支出金年額ヲ豫定スルノ義務アルモ親權者ニ其義務ナシ(ホ)後見人ハ一定ノ額ニ達シタル金錢ヲ寄託スル義務アルモ親權者ニ其義務ナシ(ヘ)後見人ハ財産狀況ヲ親族會ニ報告スルノ義務アルモ親權者ニ其義務ナシ(ト)後見人カ被後見人ノ利害ニ關シ重大ノ影響アル行爲ヲナストキハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スルモ親權者ハ常ニ專斷ヲ以テナスコトヲ得(母カ親權ヲ行フ場合ニハ例外アリ)(チ)後見人ハ後見終了ノ時ハ常ニ管理ノ計算ヲナス義務アルモ親權者ハ其子ノ成年ニ達シタルトキノ外此義務ナシ(リ)後見人ハ被後見人ノ財産ヲ收益スル權利ナク隨テ自ラ其費用ヲ支辨スル義務ヲ負ハス又場



合ニ依リ報酬ヲ受クルヲ得ヘシト雖モ親權者ハ子ノ財産ヲ收益スル權利ヲ有シ其爲ニ費用ヲ支辨スル義務アリ又報酬ヲ受クルヲ得ス

第九百十七條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ着手シ一个月内

ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

財産ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得

(參) 八一八三、一八七、佛四一八、四五二、一項、澳 二二三乃至二二七、葡四四四、五〇六、三項、伊二八二、二八三、ウチ一四七、一項、西二六四、三號、白草四三七、獨一草一六五九、同二草一六八二

本條ハ後見人就職當時ニ於ケル財産調査及ヒ財産目錄調製ノ義務ヲ定ム、「一」財産調査ノ着手

後見人ハ其就職後遲滞ナク被後見人ノ財産調査ニ着手スルコトヲ要ス、後見人ハ指定又ハ法定ノ

後見人ナルトキハ後見ノ開始スルト同時ニ、選定後見人ナルトキハ親族會ノ選任セラル、ト同時

ニ當然後見人トナルモノニシテ本人カ之レヲ承諾スルコトヲ必要トセス、然レトモ後見人カ事實其

任務ヲ行フニハ後見人カ自ラ其後見人トナリタル事實ヲ知りタル後ナラサル可カラス、故ニ後見

第一、財  
産調査及  
ヒ目錄調  
製ノ義務  
ニ於テ初  
メノ職務  
タルヲ

人ハ後見ノ開始セラレ且ツ自ラ後見人ノ任務ニ當リタルコトヲ知りタル時ハ直ニ後見ノ任務ニ就

クコトヲ要シ、而シテ其任務ニ就キタル上ハ遲滞ナク財産調査ニ着手スルコトヲ要スルナリ、舊民

法ハ其任務ニ就クヘキ日ヨリ十日以内ニ着手スヘキコトヲ命ジタリシモ、本法ハ調査終了ノ期限ヲ

制限スルニ止リ其着手ニ就テハ各種ノ情況ニ適應センカ爲ニ「遲滞ナク」トイフニ止リ別ニ一定ノ

期限ヲ定メス。「二」財産調査ノ目的 後見人ヲシテ財産ヲ調査セシムル目的ハ一ハ後見人カ其責

任ヲ以テ引受タル財産ノ額ヲ明ニシ以テ、後見終了ノ時ニ於ケル計算ノ正確ヲ期セントスルニ在

リ、是レ其ノ主タル目的ナリ、又一ハ被後見人ノ資産ヲ明ニシ以テ九二四條ニ依リ被後見人ノ生

活教育等ニ費スヘキ金額ヲ豫定スルノ材料ヲシムルニ在リ。「三」財産調査ノ期間 財産ノ調査

ハ原則トシテ調査ニ着手シタル日ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ結了スルコトヲ要ス、之ヲ一ヶ月ニ限リタル

ハ成ルヘク速ニ財産額ヲ明ニスルノ必要アレハナリ、而シテ事實ニ於テ亦一ヶ月以上ノ時日ヲ費

ス必要アルコト少カルヘシト雖モ、財産カ多額ニシテ面カモ其帳簿等ノ備ハラサルトキ又ハ債權

債務ノ關係複雑ニシテ明瞭ヲ缺クトキノ如キ若シ一ヶ月内ニ之ヲ結了スルコトヲ得サルトキニ於テ

ハ親族會ニ其期間ヲ伸長スルコトヲ請求スルヲ得セシメ以テ實際ニ不都合ノ起ランコトヲ避ケタ

リ。「四」財産調査ノ手續 (イ) 財産調査ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲナスコトヲ要ス、蓋シ財産

調査ハ被後見人ノ利益ノ爲メ最モ精確ナルコトヲ期シ勉メテ後見人カ私曲ヲ施スノ餘地ナカラン



「ヲ要スルヲ以テナリ、後見監督人ノ立會ヲクシテ爲シタル財産調査ハ、財産調査タル効ナシ、故ニ此場合ニ於テハ新ニ財産調査ヲ要スルナリ。」(ロ)財産ノ調査ハ、財産目録ノ調製ヲ以テ爲ス、財産目録ニ記載ス可キ事項ニ付テハ非訟事件手續法五五條ニ規定アリ。「五」義務違反ノ場合ニ於ケル後見人ノ免黜。後見人カ其任務ニ就キタル後正當ノ事由ナクシテ財産ノ調査ニ着手セザルトキ、親族會ノ許可ヲ得スシテ着手ノ日ヨリ一ヶ月内ニ目録ノ調査ヲ終ラサルトキ、後見監督人ノ立會ナクシテ目録ヲ調製シタルトキニ於テハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得、蓋シ是等ノ場合ニ於テハ後見人カ故ラニ私曲ヲ營マントスルノ意思アルヲ推測シ得ヘキモノナレハナリ、「六」本條ノ規定ハ未成年者並ニ禁治産者ニ對スル後見人ニ共ニ適用セラル、又新ニ後見ヲ開始セルトキ並ニ後見人ノ更迭アリタルトキニ共ニ適用セラル

第九百十八條 後見人ハ目録ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノ

ミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(參)八一八九

被後見人ヲ教育監護シ又ハ之ヲ療養看護シ其他財産ヲ管理スル等ノ方法ハ皆被後見人ノ財産額ノ多少ニ由リテ自ラ異ナラサル可カラス、故ニ財産目録ノ調製ハ後見人カ其事務ヲ取ルニ缺ク可カラサル要件ニシテ其調製セラレサル以前ニ於テハ後見人ニ其ノ完全ノ權限ヲ許ルス可キニ非ラ

〇目録調製ヲ終ル迄ノ權限

ス。然レトモ全ク之カ權限ヲ認メサルハ却テ被後見人ノ利益ヲ害シ後見ノ本旨ニ反スルヲ以テ本法ハ舊民法ノ趣意ニ倣ヒ「急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限」ヲ與ヘタリ、急迫ノ必要アルト否トハ全ク事實ノ問題アルモ概シテイヘハ之ヲ爲スニ非ラサレハ被後見人ノ身軀又ハ財産ニ對シ顯然不利益ヲ來タスヘキ行爲ヲイフ。後見人カ財産目録ノ調製前ニ本條ノ權限外ノ行爲ヲナシタルトキハ其行爲ハ被後見人ニ對シテハ全ク効力ヲ生セサルヲ原則トスルモ(一一三)此ノ如クスルトキハ善意ノ第三者ノ利益ハ不當ニ毀損セラル、コアルヲ免レス、後見人ハ本來被後見人ニ對シテ完全ノ代理權ヲ有スルヲ原則トスルヲ以テ第三者ハ財産目録ノ調製前ニ於テモ往々後見人ヲ以テ正當ノ權限アルモノト看做シ之ト契約スルコトアル可シ、是ノ如キ場合ニ於テ之ヲ無効トシ又ハ取消シ得ヘシトスルハ不當ナリ、故ニ善意ノ第三者ニ對シテノミ後見人ノ權限外ノ行爲ト雖モ被後見人ノ行爲トシテ完全ノ効力アルモノトナセリ

第九百十九條 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ

財産ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキ

ハ其債權ヲ失フ後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フコトヲ知リテ之ヲ申

出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得



(參) 八二八、佛四五、二項、蘭四四五、五〇六、三項、伊二八六、ウチー二四七、二項、四二六七、白  
草四三八

(三)債權  
債務ヲ申  
出ツルノ  
義務

本條ハ後見人ノ就職當時ニ於ケル義務ノ一ナル被後見人ニ對スル債權及ヒ債務ヲ申出ツルノ義務ヲ規定ス「一」理由 後見人就職ノ時ニ於テ調製ス可キ財産目錄中ニハ被後見人ノ一切ノ財産ヲ記録ス可キモノナルヲ以テ被後見人カ有スル所ノ債權其ノ負擔スル所ノ債務モ亦凡テ之ヲ登錄スヘキモノナルハ勿論ナリ、然ルニ若シ後見人カ自ラ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルトキ又ハ債務ヲ負ヘルトキハ必スシモ之ヲ其財産目錄中ニ登錄スルコトヲ要セストセハ後見人ハ或ハ故ラニ證據ヲ隱匿シタル後其ノ既ニ辨濟ヲ得タル債權ヲ未タ辨濟ヲ得スト主張シ又ハ其未タ履行セサル債務ヲ既ニ履行シタリト主張シ、而シテ被後見人ハ財産目錄ニハ記載ナク且ツ其ノ證據ノ備ハラサルカ爲メ其ノ正當ノ權利ヲ要求スルコト能ハサルニ至ル可シ、後見人カ財産ノ調査ニ着手シタル後ハ固ヨリ被後見人ノ有スル一切ノ受取證書、貸金證書ノ類ヲ調査スルモノナルカ故ニ後見人ハ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケタル證據又ハ自己カ債務ヲ負擔セル證據ヲ隱匿シ又ハ滅失セシムルニ充分ノ便宜ヲ有シ後見監督人ノ立會ハ未タ此危險ヲ防クニ充分ナラサルヲ以テ本條ハ財産調査ニ着手スル前ニ其債權債務ヲ申出ツルコトト爲シ而シテ之ヲ申立テサルニ就テハ嚴格ノ制裁ヲ付シタリ、財産調査ニ着手スル前ニ申立ツルヲ要ストセルハ外國ニ其例稀ナリ舊民法ニ於テモ亦財産目錄ノ調査

前ニ申立ツルヲ以テ足レリトナシタルモ、既ニ財産調査ニ着手シタル後ハ證據隱匿ノ危険大ナルカ故ニ本法ハ一層其義務ヲ嚴重ニシ財産調査ノ着手前ニ必ラス之ヲ申立ツルヲ要ストナシ、而シテ後見人自身ヨリ何人ノ尋問ヲモ待タス自ラ後見監督人ニ申立ツヘキコトトセリ、蓋シ後見人ハ必スシモ常ニ法律ニ通曉セルモノナルヲ期スルコト能ハサルカ故ニ或ハ法律ノ不知等ニ基キ偶然此申立ヲ爲スコトヲ怠ル場合アル可ク此ノ如キ場合ニ於テ尙第二項第三項ノ如キ嚴重ノ制裁ヲ加フルハ酷ニ失スルノ嫌ヲ免レスト雖モ無能力者タル被後見人ノ利益ヲ保護スルカ爲ニハ能力者ノ法律ノ周知ヲ推測スルモ亦已ムヲ得サル所ナランカ。○一○義務ノ實態 本條ニ就テ認メタル義務ヲ分拆スルトキハ(イ)財産調査ニ着手スル前ヨリ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負ヘルコトヲ知リタルトキハ其着手以前ニ於テ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス。後見人カ被相續人ニ對シテ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負ヘル場合ニ於テ被後見人カ其債權債務ヲ相續シタルトキ亦同様ナルハ言ヲ俟タス(ロ)財産調査ニ着手シタル以後ニ於テ着手以前ヨリ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負ヘルコトヲ知リタルトキハ其之ヲ知リタル後直ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス(ハ)財産調査ニ着手シタル後新ニ取得シ又ハ負擔シタル債權債務ニ就テハ本條ノ關スル所ニ非ラス。○二○義務違反ノ制裁 (イ)債權アルコトヲ知リテ申出サリシトキ、此場合ニ於テハ其債權ハ當然消滅ス、是レ單純ノ推定ニ非ラス反對ノ證據ヲ以テ之ヲ覆スコトヲ許サス、債權消滅ノ法律上ノ一ノ特別原因ニシテ其債



權力辨濟期ニ在ルモノナルト否トヲ問ハス、(ロ)債務ヲ負フヲ知リテ申出サリシトキ、此場合ニ於テハ法ハ後見人ニ私曲ヲ營ムノ意思アルモノト推測シ親族會ニ之ヲ免黜スルノ權利ヲ與ヘタリ、但シ是レ親族會ノ權利ナルカ故ニ親族會ハ任意ニ之ヲ拋棄シ之ヲ免黜セサルコトヲ得ルハ勿論ナリ

**第九百二十條** 前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

(參) 關四二八、二項

被後見人ノ財産目錄ハ被後見人ノ現時ノ資産總額ヲ明ニスルヲ以テ其目的トス、故ニ其ノ本來ノ目的ヨリイフトキハ後見ノ繼續中後見人カ新ニ財産ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ一々之ヲ財産目錄中ニ記載ス可キヲ以テ其本旨トナスナリ、然レトモ被後見人カ特定財産ヲ取得シ又ハ喪失スルハ日常極メテ頻繁ナルヘキヲ以テ其場合毎ニ後見人ヲシテ一々其目錄ヲ調製セシムルカ如キハ到底實行ス可カラサルヲ以テ特定財産ニ關シテハ本法ハ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スル義務ヲ負ハシムルニ止メタリ(九二八)然レトモ被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ハ被後見人ノ財産ノ狀況ニ激甚ノ變動ヲ與フルモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ新ニ財産目錄ヲ調製シテ其取得シタル資産額ヲ明ニスルノ必要極メテ大ナリ、本條ハ即チ此場合ニ於テ前

(四) 被後見人カ包括財産ヲ取得シタル時ニ於テ其義務

三條ヲ準用スルコト、爲セリ。「包括財産ノ取得」家督又ハ遺産相續、法人財産ノ歸屬、營業ノ讓受其他凡テ特定ノ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ負擔スルニ非ラスシテ權利及ヒ義務ヲ包括シテ取得シタルトキナリ「前三條ノ規定ノ準用」故ニ(イ)包括財産取得ノ後遲滞ナク後見監督人ノ立會ヲ得テ其財産ノ調査ニ着手シ一ヶ月以内ニ其調査ヲ終リ且ツ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス、親族會ハ其期間ヲ伸長スルコトヲ得、目錄調製ヲ爲サ、ル後見人ハ之ヲ免黜スルコトヲ得(ロ)其目錄ノ調製ヲ終ル迄ハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス(ハ)後見人カ包括財産ノ前所有者ニ對シテ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負ヒタルトキハ着手前ニ之ヲ申立ツルコトヲ要ス申立テサル債權ハ之ヲ失ヒ、債務ヲ申立サルトキハ親族會ニ免黜セラルル事アリ

**第九百二十一條** 未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

(參) 八一八四、一八五、佛四五〇、一項、四六八、奧一八七、二〇五、二〇九、二一六、二一七、關四四一、四四二、五一乃至五一三、伊二七七乃至二七九、ウチ一四四六、二六三、四二六三、二六四、一號



二六九、一號、二號、白草四三四、四三五、獨一章一六四八、一六五三、一六五五、一六五八、同二章  
一六七三、一六七八、一六八〇、一六八一、舊千八百七十五年七月五日法二七、二八

第二、  
被後見人  
ノ身上ニ  
對スル權  
限  
(一)未成  
年者ニ對  
スル權限

本條ハ未成年者ノ身上ニ對スル後見人ノ權限ノ範圍ヲ定ムルモノナリ。〔一〕既ニ説明シタルカ如ク未成年者ニ對スル後見ハ學者ノ所謂親權ノ延長ト看做ス可キモノニシテ親權ヲ行フ者カ未成年ノ子ニ對シテ有スル權利義務ハ後見人モ亦未成年ノ被後見人ニ對シテ凡テ之ヲ有セサル可カラサルナリ、唯一ハ自然ノ愛情ニ基キ其保護ノ完全ナルヲ期スルコトヲ得ヘキニ因リ別ニ後見監督人親族會等ノ監督ヲ必要トセサルト一ハ必ラスシモ自然ノ愛情アラサルヲ以テ其ノ監督ヲ必要トスルノ差アルノミ、本條ハ先ツ其ノ身上ニ對スル權利義務ニ付テ親權ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ定ム。〔二〕親權ヲ行フ者カ未成年ノ子ノ身上ニ對シテ有スル權利義務ハ(イ)監護及ヒ教育ノ權利(八七九)(ロ)居所指定ノ權利(八八〇)(ハ)兵役ノ出願ヲ拒否スル權利(八八一)(ニ)懲戒ノ權利(八八二)(ホ)職業ヲ許可シ之ヲ取消シ又ハ制限スル權利(八八三)ナリ、本條ハ此等五種ノ權利義務ヲ凡テ後見人ニ準用スルト共ニ尙(ヘ)子ニ代ハリテ其配偶者ノ財産ヲ管理スル權利(八八五)ヲモ後見人ニ準用セリ。〔三〕然レトモ後見人ノ有スル是等ノ權利義務ノ範圍ハ被後見人ノ利益ニ重大ノ影響ヲ及ホス可キ行爲ニ就テ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スルノ點ニ於テ親權ヲ行フ父又ハ母ノ權利義務ト異ナリ(イ)監護教育ノ權利ニ就テハ新ニ教育ノ方法ヲ定ムル場合ハ父又ハ母ト同シク

絶對ニ自由ナリ、然レトモ親權ヲ行ヒタル父又ハ母カ教育ノ方法ヲ定メ置キタル場合ニ於テ其方法ヲ變更セント欲スルトキハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非ラサレハ之ヲ行フヲ得ス(ロ)居所指定ノ權利ニ就テモ親權ヲ行フ父又ハ母カ之ヲ指定セサリシ場合ニ於テハ父又ハ母ト同一ノ指定權ヲ有スルモ其之ヲ定メ置キタル場合ニ之ヲ變更セントスルハ親族會ノ同意ヲ要ス、後見人カ被後見人ノ家ノ戸主ナル場合ニ於テハ七四九條及ヒ八八〇條但書ノ規定ニ依リ絶對ノ居所指定權ヲ有スルハ言フヲ俟タス(ハ)懲戒權ニ就テハ必要ノ範圍ニ於テ自ラ之ヲ懲戒スルハ自由ナルモ懲戒場ニ入ル、カ爲ニ裁判所ニ請求スル場合ニハ親族會ノ同意ヲ要ス(ニ)職業ノ許可等ハ利害ノ關係最モ重大ナルカ故ニ其ノ許可ヲナシ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニ凡テ親族會ノ同意ヲ必要トス(ホ)被後見人ノ配偶者ノ財産管理權ニ就テハ被後見人ニ代リテ其權利ヲ行フモノナルヲ以テ全く夫婦財産制ニ關スル規定ニ準據ス可ク此點ニ於テハ親權トノ間ニ差異ヲ認メス

第九百二十二條 禁治産者ノ後見人ハ禁治産者ノ資力ニ應シテ其療養看護

ヲ力ムルコトヲ要ス  
禁治産者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

(參) 八二二七、佛五〇九、五一〇、奧二八二、關五〇六、三項、五〇八、西二六四、二號、二六九、三號、  
第六章 後見 第三節 後見ノ事務 四三三



白草四九二、獨一章一七三〇、同二章一七七七

(一) 禁治  
産者ニ對  
スル權限

本條ハ禁治産者ノ身上ニ對スル後見人ノ權利義務ヲ定ムルモノナリ。〔一〕禁治産者ニ對スル後見ハ其身體財産ヲ保護スル職務タルニ於テ全ク未成年者ニ對スル後見ニ同シト雖モ其保護ノ目的ノ異ナルニ從テ其義務ノ實跡ヲ異ニス。蓋シ未成年者ヲ後見ニ付スルハ其身體精神ノ未タ發達セサルニ因ル、之カ後見人タルモノハ主トシテ其心神ヲ發達セシムルノ注意ヲナスコトヲ要ス、禁治産者ヲ後見ニ付スルハ其身體精神ノ健康ヲ失ヘルニ因ル、之カ後見人タルモノハ主トシテ之カ健康ヲ回復セシムルノ注意ヲ爲スコトヲ要ス、前者ノ職務ハ主トシテ積極ナリ、後者ノ職務ハ主トシテ消極ナリ、財産ニ對スル權利義務ニ就テハ一ハ其行爲ヲ代理シ又ハ之ニ同意ヲ與フルト一ハ常ニ其行爲ヲ代理スルトノ差異アルニ止リ財産管理ニ就テハ兩者ノ間差別ヲ設クル必要ナシト雖トモ身上ニ對スル權利義務ニ就テハ兩者ノ差異稍著ルシキモノアリ、本條第一項先ツ禁治産者ノ身上ニ對スル權利義務ノ實跡ヲ定メ以テ未成年者ニ關スル前條ノ規定ニ對ス。〔二〕禁治産者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ナルヲ以テ之ヲ療養看護スルニハ或ハ瘋癲病院ニ入レ若クハ自宅ニ之ヲ監置スルノ必要アルヲアル可シ、其何レノ方法ヲ取ルカハ禁治産者ノ病症如何ニ依リテ之ヲ決ス可ク、其病症上必要ナキニ拘ラス之ヲ監置スルカ如キハ本人ノ利益ヲ害スルノ甚シキハ勿論其家族全軀ノ利益ヲ害スルヲ甚シキヲ以テ之ヲ後見人ノ單意ニ任スルハ危險ナリ、故ニ其ノ何レノ方法

ヲ取ルカハ先ツ後見人ヲシテ之ヲ親族會ニ協議セシメ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ決ス可キコト、ナセリ。後見人ハ何レノ方法ヲ取ルニモ凡テ親族會ノ同意ヲ要スルモノナルヲ以テ若シ後見人ト親族會トノ意見一致セサル場合ニ於テハ後見人ハ親族會ノ決議ニ服スルカ然ラサレハ九五一條ニ依リ其不服ヲ申立ツルノ外ナシ。本條ノ規定ハ又禁治産者ノ父又ハ母又ハ配偶者カ後見人タル場合ニモ等シク適用セラル

本條第一項ハ「禁治産者ノ資力ニ應シテ」トイヘルモ必スシモ禁治産者自身ノ資力ヲ意味スルニ非ラス禁治産者ニ對シ扶養ノ義務ヲ負フ者ノ資力モ亦計算中ニ入ル可キモノナルハ當然ナリ、例ヘバ禁治産者自身ハ毫モ其特有財産ヲ有セザル場合ニ於テ其配偶者、子、父母、戸主等ニ於テ資力アル者ナルトキハ其資力ニ應シテ療養看護ヲ爲スコトヲ要スルモノナリ、文字疑ヲ起シ易キカ故ニ特ニ一言ス

第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス

第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔關〕 (參) 八一八六、佛四五〇、一項、二項、五〇九、八一八七、二〇五、二〇九、二四三、二八二、關四四一、一項、四四三、五〇六、三項、獨章一六四八、一六四九、一六五九、一七二八、同二章一六七三、普千八百七十五年七月五日法二七

第三、  
被後見人

本條ハ被後見人ノ財産ニ對スル後見人ノ權利義務ノ原則ヲ定ムルモノニシテ等シク未成年者ノ後



ノ財産ニ  
對スル權  
限  
管理權  
代理權  
法定

見入ト禁治産者ノ後見人ニ適用セラル。即チ後見人ハ未成年者又ハ禁治産者ノ財産ヲ管理シ又財  
産ニ關スル行爲ニ就テ法定ノ代理權ヲ有スルモノナリ、此點ニ於テハ全ク親權ヲ行フ父又ハ母ニ  
等シ、但シ其管理權及ヒ代理權ノ行使ニ就テハ親權ヲ行フ父又ハ母ト比シテ多クノ制限ヲ受クル  
ヲ次條以下ニ定ムルカ如シ、本條ノ規定ハ全ク親權ニ關スル八八四條ノ規定ト其趣意ヲ等シク  
ルモノナレハ今再ヒ説明ヲ加ヘス

第九百二十四條 後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人  
ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫  
定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス  
但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨  
ケス

(參) 人一九〇、一項、二〇九、二二七、佛四五四、一項、四七一、二項、奧二一九、二二〇、遼四四六、一  
項、四六八、三項、五〇六、三項、西二六八、自草四六七

本條ハ後見人カ被後見人ノ爲ニ支出ス可キ費用年額ノ豫算ヲ設クヘキ義務ヲ規定ス「一」理由。本  
條立法ノ理由ハ甚明白ナリ蓋シ後見人自己ノ任意ヲ以テ費用ヲ支出スルトキハ被後見人ノ財産ノ

(三) 支出  
金額ヲ  
豫定スル  
義務

安固ハ之ヲ保持スルコトヲ得セザレハナリ、後見人ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ如ク其自然ノ性情ニ  
於テ完全ニ被後見人ノ財産ノ安全ヲ保護スヘキコトヲ期スルコト能ハス、是レ父母ニ此義務ヲ認  
メスシテ後見人ニ之ヲ認タル所以ナリ「二」義務ノ實躰 (イ) 被後見人ノ生活教育 (主トシテ未成  
年者ノ場合ニ當ル) 又ハ療養看護 (禁治産者ノ場合ニ當ル) 及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費ヤス  
ヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス、但シ必スシモ一定ノ金額ヲ豫定スルコトヲ要セス其ノ最高限ヲ定ム  
ルヲ以テ足ル、又必スシモ費用ノ項目ニ至ル迄之ヲ豫定スルコトヲ要セス、其ノ總額ヲ定ムルヲ  
以テ足ル、然レトモ少クトモ其總額ノ最高限ハ必ラス之ヲ一定スルコトヲ要ス、假令親族會カ其  
費用ノ支出ヲ後見人ニ一任シタル場合ニ於テモ尙後見人ハ自ラ豫メ之ヲ一定シ而シテ親族會ノ同  
意ヲ得置クヲ要スルナリ(ロ) 親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス、若シ親族會ノ同意ヲ得サルトキハ  
其決議ニ服従スルカ然ラサレハ九五一條ニ依リ不服ノ訴ヲ起シ裁判所ノ決定ヲ求ムルノ外ナシ  
(ハ) 就職ノ初ニ於テ之ヲ定ムルヲ要ス、毎年同意ヲ得ルヲ要スルニ非ラス、就職ノ初ニ於テ一タ  
ヒ其同意ヲ得タルトキハ之ヲ變更スルノ必要アルニ非ラサレハ再ヒ其同意ヲ得ルコトヲ要セス。親  
族會カ一タヒ之ニ同意ヲ與ヘタル後ハ親族會自ラ同意ヲ取消シ其變更ヲ主張スルヲ得ヘキヤ否ヤ  
ハ稍疑ハシキ問題ナルモ本條ノ解釋トシテハ後見人ノ一致スルニ非ラサレハ親族會ノ決議ヲ以テ  
ハ之カ變更ヲ強制スルコトヲ得サルモノト解スルノ外ナシ。(ニ) 一タヒ定メタル豫定額ハ親族會ノ



同意ヲ得ルニ非ラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス(ホ)豫定額ノ最高限ヲ超ユル金額ヲ支出スルハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限ル、已ムコトヲ得サル事由トハ親族會ヲ招集シテ豫定額ノ變更ニ同意ヲ求ムル暇ナキ急迫ノ事情アルトキチイフ、此ノ如キ事情アリタルコトヲ證明シ得ルニ於テハ後見人ハ假令豫定額以外ノ支出ヲナスモ義務違反ノ責ヲ負ハサルモノナリ

**第九百二十五條** 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被

後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被

後見人ノ配偶者 直系血族又ハ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス

(參) 奧二六六、二六七、蘭四六九、五〇六、三項、西二七六、醫二章一六九九、同二章一七三五、普千八百七十五年七月五日法八三、四項

(四)事務ニ對スル報酬

本條ハ後見人ノ報酬ヲ受クル能力ヲ規定ス(一)後見人ニ報酬ヲ與フヘキヤ否ヤニ就テハ諸國ノ立法例ハ或ハ全ク之ヲ與フルヲ禁スルモノアリ(舊民法、佛、伊等)或ハ之ヲ與ヘサルヲ原則トシ裁判所ノ決定ニ依リ之ヲ與フルヲ得トスルモノアリ(蘭)或ハ之ヲ與フルヲ原則トスルアリ(葡)或ハ親族會ノ決議ニ依リ之ヲ與フルヲ得トスルモノアリ(西、澳、獨)本法ハ終ノ主義ヲ取ル。蓋シ之ニ報酬ヲ與フルヲ禁スルハ後見人タル職務ヲ以テ國家ニ對スル強制負擔トナスノ思想ニ基クモノナリト雖モ強制負擔ト雖モ必シモ報酬ヲ禁スヘキ理由ナシ、然レトモ又之ヲ與フルヲ以テ

原則トスルハ凡テノ無能力者ヲ後見ニ付セシムル立法ノ本旨ニ反スルモノナルヲ以テ、本法ハ獨逸新民法ト同シク報酬ヲ受クルコトヲ後見人ノ當然ノ權利トナサス、唯親族會ノ決議ヲ以テ相當ノ報酬ヲ給シ得ヘキコト、ナセリ(二)後見人ニ報酬ヲ給スルハ後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族、又ハ戸主ナラサル場合ニ限ル、夫妻互ニ後見人トナリ、父母、祖父母カ子又ハ孫ノ後見人トナリ子、孫カ父母祖父母ノ後見人トナリ又ハ戸主カ家族ノ後見人トナル場合ニ於テハ其自然ノ性質ニ於テ之ヲ保護スヘキ地位ニ在ルモノナルヲ以テ其後見人タルカ爲ニ報酬ヲ與フヘキ理由ナシ、此他ノ場合ニ於テモ報酬ヲ與フルト否ト及ヒ其ノ報酬額ハ一ニ親族會ノ決スル所ニ依ル、後見人ハ自ラ其報酬ヲ要求スルノ權利ヲ有セス、親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情(例ヘハ後見人ノ被後見人ニ對スル一身上ノ關係、事務ノ繁閑等)ニ依リ之ヲ決ス、親族會ノ決議カ假令其事情ニ相當セサルモ後見人ハ訴訟ニ依リ之ヲ更正スルノ道ヲ有セス(報酬ハ被後見人ノ財産中ヨリ之ヲ支出ス是レ當然ニシテ説明ヲ俟タス)報酬ハ實費辨償ニ非ラス、後見人カ其管理事務ノ爲ニ或ハ旅行ヲ爲ス等ノ必要アル場合ニ於テ其旅費ヲ受クルカ如キハ報酬ニ非ラス、配偶者ノ直系血屬又ハ戸主ノ後見人タル場合ニ於テモ之ヲ受クルヲ得ヘキハ勿論ナリ

**第九百二十六條** 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケス



〔關〕 一〇六〔法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得〕云々 (參) 八一九〇、佛四五四、二項、奧二六四、關四四六、二項

(五)有給ノ財産管理  
者又ハ  
復代理人  
ノ使用ス  
ル權利

本條ハ有給ノ財産管理者ヲ使用スル權利ヲ定ム〔一〕被後見人ノ財産饒多ナルトキ又ハ諸處ニ散在スルカ如キ場合ニ於テハ後見人一人ヲ以テ之ヲ管理スルコト能ハサルコトアル可シ或ハ後見人カ自己ノ職務ニ煩忙ナルトキノ如キ自ラ被後見人ノ財産ヲ管理スル暇ナキコトアル可シ、是等ノ場合ニ於テ後見人ハ自己ニ代ハル可キ財産管理者ヲ使用スルノ必要アリ、本條ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ置クヲ得又自己ノ責任ヲ以テスルトキハ親族會ノ同意ヲ得スシテ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ヘキコトヲ定ム〔二〕親族會ノ同意ヲ得テ置キタル財産管理者ノ行爲ニ就テハ其管理者自ラ之カ責任ヲ負ヒ後見人ハ其責ニ任セス、自ラ責ニ任スヘキ財産管理者ハ必ラス有給ナルヲ要ス、財産管理者ノ給料ハ被後見人ノ財産ノ負擔ナルハ勿論ナリ、財産管理者ヲ選任シ又ハ免黜スルハ一々親族會ノ同意ヲ要スルニ非ラス、親族會カ若シ豫メ之ヲ許ルシタルトキハ後見人ハ自ラ任意ニ之ヲ選任シ及ヒ免黜スルコトヲ得ヘシ、其給料モ亦九二四條ノ豫定金額以內ニ於テ後見人ノ任意ニ之ヲ定ムルコトヲ得、管理者ハ一人又ハ數人ヲ置クコトヲ得〔三〕後見人カ自己ノ責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルハ親族會ノ同意ヲ要セス (本條但書) 復代理人ハ或ハ有給ナルコトヲ得或ハ無給ナルコトヲ得、其有給ナル場合ハ已ムヲ得サル事由アル場合ノ外九二四條ノ豫定金額

以內ニ於テ之ヲ決定スルコトヲ要ス、但シ後見人カ自ラ其給料ヲ支辨スル場合ニ於テハ此制限ヲ受ケサルハ勿論ナリ、親族會ノ同意ヲ得スシテ置キタル復代理人ノ行爲ハ凡テ後見人ノ責任ニ歸ス

第九百二十七條 親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メ

ニ受取りタル金錢カ何程ノ額ニ達セバ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ

要ス

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取りタル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス

金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

(參) 八一九一、佛四五五、四五六、同千八百八十年二月二十七日法七、奧二三〇、關四四九、五〇六、三項、  
ガオ一二五二、同千八百五十一年一月十一日告、西二六九、六號、二七三獨一章一六六四乃至一六六八、一六九七、同二章一六八乃至一六九一、一七三三

本條ハ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取りタル金錢ヲ寄託スルノ義務ヲ定ム〔一〕理由 被後見人ノ財産ハ成ルヘク之ヲ相當ノ場處ニ寄託ス可キヲ以テ立法ノ本旨トナス、是レ一ハ被後見人ノ財産ヲ

(六)受取  
タル金錢  
ヲ寄託ス  
ル義務



利殖セス空シク之ヲ貯藏スルノ不利ヲ除キ一ハ後見人カ猥ニ其財産ヲ費消スルノ危険ヲ防クニ必要ナレハナリ、然レトモ其金額ノ未タ僅少ナルニ於テ其得タル凡テノ金銭ヲ直ニ寄托セシムルハ事實ニ於テ不能ノ事ヲ責ムルモノナルヲ以テ其相當ノ金額ニ達シタル上ハ之ヲ寄托セシムルノ義務ヲ負ハシム、而シテ其果シテ相當ノ金額ニ達シタルヤ否ヤヲ決スルハ後見人ノ單意ニ任スルハ危険ナルヲ以テ本條ハ親族會ヲシテ豫メ一定ノ額ヲ定メシメ其金額ニ達シタル上ハ必ラス之ヲ寄托スヘキコト、ナセリ、**二**義務ノ實態 後見人ハ其ノ被後見人ノ爲ニ受取リタル金銭カ親族會カ後見人就職ノ初ニ於テ定メタル額ニ達シタルトキハ之ヲ寄托スルノ義務ヲ負フ。此義務ハ被後見人ノ爲ニ受取タル凡テノ金銭ニ適用セラル、故ニ元本ヲ領收シタルトキ、營業ノ利得ヲ得タルトキ、財産ノ賣却ニ因リテ得タルトキ其他有償又ハ無償名義ヲ以テ得タル凡テノ金銭ニ通ス、一定ノ額ニ達スル迄ニ被後見人ノ爲ニ之ヲ支出セルトキハ其支出ノ剩餘カ此定額ニ達スルニ依リテ始メテ寄托ノ義務ヲ生ス、其ノ定額ニ達シタル上ハ假令將來ニ於テ之ヲ支出ス可キ必要存在スルモ一時先ツ之ヲ寄托スルヲ要ス、本條ノ義務ハ金銭ニノミ適用セラルヘキ者ナリ故ニ其他ノ財産ノ利用ニ付テハ本條ノ關スル所ニ非ラス、寄托ノ義務ヲ生スヘキ一定ノ額ハ親族會カ後見人就職ノ初ニ於テ豫メ之ヲ定ムルヲ要ス、法律ヲ以テ之ヲ一定セサルハ其額ハ被後見人ノ資産ニ應シテ一ナルヲ得サレハナリ。其ノ定額ニ達セル上ハ幾何ノ期間内ニ之ヲ寄托ス可キヤハ法律ハ之ヲ明言

セス唯相當ノ期間内ニ寄托スルヲ要ストスルノミ、寄托ス可キ場處ハ親族會ノ同意ヲ以テ後見人之ヲ定ム、法律ハ必ズシモ一定ノ銀行又ハ官ノ貯金所ニ預入ヲナス可キヲ必要トセス**三**義務違反ノ制裁 後見人カ其義務ニ違反シテ其金額ニ達シタル後相當ノ期間内ニ寄托ヲナサザリシトキハ其期間ヲ經過シタルトキヨリ其金額ニ對シ被後見人ニ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス、法定利息ハ即一年五分ナリ**四**四、寄托ニ因リテ利息ヲ生ス可キニ拘ラス後見人ノ遲滯ニ因リ之ヲ生スルヲ得サリシニ由リ此制裁ヲ負ハシムルハ當然ナリ

**第九百二十八條 指定後見人及ヒ選定後見人ハ每年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス**

〔關〕 九〇一、九〇四、(參) 八一九二、二二八、佛四七〇、五一〇、奧二三八乃至二四二、蘭四二九、伊三三一、白草四九四、獨二章一六七九、二項、普千八百七十五年七月五日法五六

本條ハ財産狀況報告ノ義務ヲ定ム**一**理由 是レ後見管理ノ確實ヲ期セシカ爲ナリ、親族會カ財産ノ狀況ヲ知ラサルトキハ後見人カ私曲ノ所爲アルモ時ニ應シテ之ヲ制御シ其甚シキトキハ免黜ヲ裁判所ニ請求スルカ如キ措置ヲ取ルニ由ナク、後見人モ亦時々其狀況ヲ報告スルニ非ラサレハ後見終了ノ時迄永ク其責任ヲ脱スルヲ能ハサルヲ以テ長ク時ヲ經ルニ隨ヒ證據ヲ滅失シ其答辨ヲ爲スニ困難ヲ感スルヲ少カラサル可シ是レ本條ノ規定アル所以ナリ**二**此義務ヲ負フ者 ハ指定

(七) 財産  
ノ狀況ヲ  
報告スル  
義務



後見人又ハ選定後見人ニ限ル法定後見人即チ父又ハ母又ハ配偶者カ禁治産者ノ後見人トナリ又ハ  
戸主カ後見人タル場合ニ於テハ本條ノ義務ヲ負ハス、此區別ヲ認メタル立法ノ理由ハ説明ヲ俟タ  
スシテ明瞭ナリ。法定後見人ヲ後見人トシテ指定シタルトキ例ヘハ親權ヲ行フ父又ハ母カ戸主ヲ  
未成年ノ子ノ後見人トシテ指定シタルトキノ如キハ戸主ハ此場合ニ於テ指定後見人タルヲ失ハ  
スト雖モ此場合ニ於テモ尙戸主ハ本條ノ義務ヲ負フモノニ非ナサルヲハ立法ノ精神ニ照シテ明瞭  
ナリ、祖父母、子ノ如キ直系血族カ後見人タル場合ハ尙本條ノ義務ヲ負フ「三」義務ノ實態「財產  
ノ狀況」受取リタル金額、消費シタル金額、財産利用ノ方法等

第九百二十九條 後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項

ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族  
會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領收ニ付テハ此限ニ在ラス

(參) 人一九三、一九四、二二九、佛五七乃至四六七、五一、三一三乃至三三五、四四一乃至四五六、  
四五九乃至四六六、五〇六、三項、四二六九、獨一草一六六〇、一六六一、一六六三、一六六九乃至一  
六八〇、一六八一、一項、一七三二、一七三三、同二草一六八三、一六八四、一六八六、一六九二乃至  
一七〇八、舊千八百七十五年七月五法三八、三九、四一、四二八三、三項

本條ハ後見人ノ代理權及同意權ノ制限ノ一ニシテ重要ノ行爲ニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルノ義務ヲ

(八) 重大ナル行爲ニ付キ親族會ノ同意ヲ得ル

規定ス「一」理由。後見ノ職務ハ被後見人ノ財産ニ關シテハ主トシテ之ヲ保存シ利用シ及ヒ改良ス  
ルヲ以テ其主眼トス其財用ヲ處分スルノ必要アル場合若クハ管理所爲ト雖モ財産ニ重大ノ利害關  
係アル場合ニ於テハ之ヲ後見人ノ單意ニ任スルハ後見ノ本旨ニ反スルモノナリ、本條ハ即其被後  
見人ニ代リテ行爲ヲナシ(未成年者及ヒ禁治産者)又ハ被後見人ノ行爲ニ同意ヲ與フル(未成年者)  
場合ニ於テ親族會ノ同意ヲ要スヘキ場合ヲ定ム「二」本條ニ依リ親族會ノ同意ヲ要スル場合ハ左ノ  
如シ(イ)營業ヲ爲スコト、商業又ハ工業ヲ營ムコト、商行爲ヲ以テ常業ヲナスノ謂ナリ、未成  
年者ノ職業ヲ許可スルニ親族會ノ同意ヲ要スルコトハ九二一條ニ規定セリ本條ハ專ラ未成年者又  
ハ禁治産者ニ代リテ營業ヲナス場合ヲイフ(ロ)元本ヲ利用スルコト、金錢ヲ公債證書又ハ株券ニ  
代ヘ株券ヲ賣リテ土地家屋ヲ買フノ類、果實ノ利用例ヘハ貸金ノ利息、借地借家料、其他土地ヨ  
リ生スル果實等ヲ利用スルノ類ヲ含マス、又元本ノ領收ハ親族會ノ同意ヲ要セス(但書)是レ準  
禁治産者ノ場合トハ異ナリ後見人カ之ヲ領收スルハ損害ヲ來タスヘキ危険大ナルヲ以テナリ(ニ)不動産又ハ重要ナル  
又ハ保證ヲナスコト、是レ被後見人ノ損失タルヘキ危険大ナルヲ以テナリ(三)不動産又ハ重要ナル  
動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト(輕微ノ動産ニ就テハ獨斷ヲ以テナスコト  
得(ホ)訴訟行爲ヲ爲スコト(ハ)贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト(五四九以下六九五以下、民訴  
七八六以下)(ト)相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト(一〇一七以下)(チ)贈與若クハ遺贈ヲ拒絶



シ又ハ負擔付ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト(五四九、五五三)リ新築改築増築又ハ大修繕ヲ爲スコト(又)第六百二條ノ期間ヲ超ユル貸貸信ヲ爲スコト(樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ハ十年其他ノ土地ハ五年建物ハ三年動産ハ六ヶ月)

第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權

利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第

十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

(參)

八一九五、取三七、三八、十五年八月四日內務省指、同年九月二十六日同省指、十六年七月二十一日大

藏省指二、二十年二月三日司法省指、同月四日同省指、二十一年十二月十一日同省指、二十三年七月三

十一日同省指、佛四五〇、三項、一五九六、奧二三一、蘭四五七、四五八、二項、五〇六、三項、一五

〇六、五項、伊一四五七、葡一五六二、一五六七、ウチー一二六、西一四五九、白草一六四五

第四、後見人ノ能力ノ制限  
○被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル利益ノ讓受

本條ハ後見人カ被後見人ノ財産又ハ第三者ノ被後見人ニ對スル權利ヲ讓受ケタルトキノ效力ヲ定ム(一)理由。後見人カ被後見人ノ財産ヲ讓受クルコトヲ許ルストキハ後見人ハ其地位ヲ利用シテ不當ノ廉價ニ之ヲ讓受クルノ危險アリ、後見人カ第三者ノ被後見人ニ對スル權利ヲ讓受クルモ亦後見人ト被後見人トノ間ニ利益相反スル關係ヲ生スルノ弊ヲ免レス、共ニ勉メテ避ク可キ所ニ屬ス

對スル權利ノ讓受ノ能力

ルヲ以テ諸國ノ民法ハ往々全ク之ヲ禁スルモノアリ、舊民法モ亦之ヲ禁制シタリト雖モ絶對ニ其讓渡ヲ禁スルハ實際ノ事情ニ適應セス却テ被後見人ノ不利益タルコトアル可キヲ以テ本法ハ之ヲ禁スルコトヲク唯被後見人ノ利益ヲ保護スルカ爲ニ被後見人ヨリ之ヲ取消スコトヲ得ヘシトナセリ(二)第十九條ノ準用。第十九條ハ無能力者ノ取消權ニ對シテ法律行爲ヲ爲シタル相手方ノ權利ヲ定ムルモノニシテ本條被後見人ノ取消權ハ全ク之ト性質ヲ同シウスルモノナルヲ以テ其規定ヲ之ニ準用セルハ當然ナリ、故ニ後見人ハ被後見人ノ能力者トナリタル後之ニ對シ又ハ其能力者トナル以前ニ其後任後見人ニ對シテ一月以上ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告シ其期間内ニ確答ヲ爲サルトキハ之ヲ追認シタルモノト看做ス(三)百二十一條乃至百二十六條ノ適用。被後見人カ之ヲ取消ス場合ニ於テ其取消ノ效力、其行爲ノ追認、取消及ヒ追認ノ方法、取消權ノ消滅時効ノ如キハ皆取消ニ關スル一般總則ノ規定ニ依ル可キハ當然ニシテ明文ヲ俟タサルモ、本法ハ疑ヲ防カンカ爲ニ本條第二項ニ於テ取消ニ關スル總則編中ノ一二二乃至一二六ノ六條ヲ適用ス可キコトヲ規定シタリ

第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財産

ヲ賃借スルコトヲ得ス

(參) 一九六、佛四五〇、三項、蘭四五八、一項、五〇六、三項



○被後見人ノ財産ヲ賃借スル能力

本條ハ九二九條ト同一ノ趣意ニ基キ後見人カ被後見人ノ財産ヲ賃借スルニ親族會ノ同意ヲ要スヘキコトヲ定ム、唯賃借ハ九二條ノ如キ終極ノ處分ニ非ラサルカ故ニ之ヲ取消スコトヲ許ルスノ必要ナク親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得セシム、賃借ハ凡テノ動産不動産ノ賃借ヲ含ム(六) ○一)但シ金錢其他消費物ノ賃借ハ之ヲ含マス(消費借)

第九百三十二條 後見人カ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得

〔關〕 四一四、九五二(參) 人一六三、澳二〇三、蘭三八七、二項、三項、五〇六、三項、ウチ一三三七、同千八百五十年十一月二十一日告、西二五〇、自草三八九

本條ハ後見人カ其任務ヲ曠クシタル場合ニ於ケル處置ヲ規定ス(一)理由。後見人ノ任務ハ前數條ニ規定スル所ノ如シ後見人ハ誠實ニ是等ノ任務ヲ執行スルノ義務ヲ負フ、然レトモ人ノ任意ノ行爲ハ性質上強制執行ヲ許サルモノナルヲ以テ後見人カ若シ故意ニ其義務ヲ怠リ其任務ヲ執行スルコトヲ肯セサル場合ニ於テハ之ヲ強制スルノ途ナシ、後見人カ其義務ヲ怠リタル爲メ被後見人ニ損害ヲ生スルトキハ後見人ハ固ヨリ損害賠償ノ責ニ任スト雖モ損害賠償ハ固ト既ニ損害ヲ生シタル場合ノ救濟法タルニ過キサルヲ以テ他ニ其損害ヲ未發ニ防クノ方法ヲカル可カラス、是ニ於テカ法律ハ後見人ニ代ハリテ其任務ヲ執行ス可キ者ヲ選任スルノ權利ヲ親族會ニ與ヘタリ(二)

第五、後見人カ其任務ヲ曠クシタル場合

「後見人カ其任務ヲ曠クシタルトキ」トハ後見人カ其任務ヲ拒辭スルノ意思ヲ表示シ而シテ親族會カ拒辭スヘキ正當ノ事由アルモノト認メサル場合、及ヒ後見人カ就職シタル後其任務ヲ執行セサル場合ノ二ツヲ含ム(人、一六三參照) (三)臨時管理人ヲ選任スルモノハ親族會ナリ、舊民法ハ此場合ニ於テ裁判所ニ請求シテ其選任ヲ爲スモノトナシタリシモ本法ハ勉メテ裁判所ノ親族會ノ内事ニ關涉スルヲ避クルノ主義ヲ取リタルヲ以テ此場合ニ於テモ亦親族會ニ於テ之ヲ選任ス可キコト、ナシタリ。親族會ハ後見監督人ノ請求ニ依リ之ヲ選任スルコトヲ通常トナス可キモ或ハ他ノ利害關係人ノ請求ニ依リ或ハ自ら進テ之ヲ選任スルコトヲ得ヘシ後見人カ眞ニ其任務ヲ曠クシタルニ非ラサル場合ニ於テ親族會カ臨時管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ後見人ハ九五一條ニ依リ不服ノ訴ヲ提起スルヲ得ヘク此場合ニ於テハ後見人ハ臨時管理人ノ行爲ニ付キ責ニ任セス。 (四)臨時管理人ノ權限ハ財産ノ管理ニ限ル、即チ財産管理ニ就テノミ法定ノ復代理人タル權限ヲ有スルモノナリ、但シ財産管理權ノ範圍内ニ於テ親族會カ更ニ其代理權ヲ制限スルハ妨ナシ、財産管理以外ニ就テハ何等ノ權限ヲ有スル能ハサルヲ以テ之ヲシテ教育ノ方法ヲ定メ居所ヲ指定シ又ハ懲戒ヲ爲サシムルコトヲ得サルハ勿論財産ニ關シテモ管理行爲以外ニ於テハ被後見人ニ代リテ法律行爲ヲ爲シ又ハ其行爲ヲナスニ同意ヲ與フルノ權限ヲ有セス、故ニ後見人カ若シ身上ニ對スル任務ヲ曠クシタル場合ニ於テハ裁判所ニ請求シテ之ヲ免黜シ更ニ後任者ヲ選任スルノ外ナキ



モノトス〔五〕臨時管理入ノ行爲ニ付テハ後見人ハ自己ノ行爲ト同シク其責ニ任ス、故ニ其行爲ニ因リテ損害ヲ與ヘタルトキハ自ラ損害賠償ノ責ニ任ス、但シ臨時管理人自ラモ亦其責ニ任スルハ勿論ナリ〔六〕財産管理ノ費用ニ就テハ舊民法ハ之ヲ後見人ニ負擔セシムルトナシタリシモ管理ノ費用ハ何人カ管理ヲ爲スモ必要ニシテ此場合ニ於テノミ被後見人ノ負擔ヲ免スルノ理由ナキヲ以テ本法ハ後見人自ラ管理ヲナス場合ト同シク被後見人ノ財産中ヨリ支辨ス可キコト、ナセリ

第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

(參) 擔二〇四、一項、二號、佛二二二、三項、二二二、澳二三七、蘭四二八、一項、二二七、三項、

伊一九六九、三號、自草二二五九、二二六〇、同千八百五十一年十二月十六日法四七、四九乃至五一

本條ハ後見人ノ擔保提供ノ義務ヲ定ム〔一〕後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ及ヒ其行爲ヲ代理スル等ノ權限ヲ有スルヲ以テ其ノ過失又ハ不正行爲ニ因リ被後見人ニ損害ヲ與フ可キ危險極メテ大ナルヲ以テ本條ハ本編第八〇六條及總則編第二九條等ト同一ノ趣意ニ依リ後見人ノ擔保提供ノ義務ヲ定メタルナリ。佛國民法ニ於テハ被後見人ハ後見人ノ總不動產ノ上ニ法律上ノ抵當權ヲ有スルモノトナシ、舊民法モ亦之ニ倣ヒタリシト雖モ是ノ如クスルトキハ後見人ノ不動產ノ融通ヲ妨ク社會經濟ノ利益ヲ害スルヲ大ナルノミナラス後見人ニシテ若シ不動產ヲ有セサルトキハ毫モ擔

第六、後見人ノ擔保提供義務

保ナキニ至リ其不權衡ニシテ弊害多キハ夙ニ學者ノ唱フル所ナルヲ以テ本法ハ近時ノ多數ノ立法例ニ倣ヒ親族會ヲシテ相當擔保ノ提供ヲ命スルコトヲ得セシメタリ〔二〕擔保ハ對人擔保ト物上擔保トヲ問ハス親族會ノ相當ト認ムル所ニ依リ或ハ保證人ヲ立テ或ハ抵當權、質權ヲ設定スルヲ得。擔保ノ目的ハ財産ノ管理及ヒ返還ノ義務ヲ保證スルニ在リ、故ニ管理ノ失當ニ依リ損害ヲ生シ又ハ後見終了ノ後財産ヲ返還セサルトキハ保證人ヲ立テタル場合ハ其保證人ニ對シテ保證ニ關スル規定ニ從ヒ賠償ヲ求ムルヲ得ヘク、質權抵當權ヲ設定シタルトキハ又各其ノ規定ニ從ヒ其ノ辨償ヲ求ムルヲ得

第九百三十四條 被後見人カ戶主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ、其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス

〔關〕 七五一、七四九、七五〇、七四三、八九五、八七七 (參) 八二五七、

本條ハ後見人ノ戶主權及ヒ親權ノ代理行使ノ權利ヲ定ム

第一項 戶主權ノ何ナルヤハ本編第二章第一節及ヒ第二節ニ於テ説明セリ、被後見人カ自ラ戶主

第七、戶主權及ヒ親權ノ代理行使



ナル場合ニ於テハ固ヨリ戸主權ヲ行フノ權利義務ヲ有スルモ自ラ後見ニ服スルモノニシテ他人ニ對シテ戸主權ヲ行フハ不當ナルヲ以テ本法ハ後見人代リテ其戸主權ヲ行フコト、ナセリ、未成年ノ子戸主タル場合ニ於テ之ニ對シ親權ヲ行フ父又ハ母アルトキハ其父又ハ母代リテ之ヲ行フハキコト已ニ述ヘタル所ナリ本項ハ之ト其ノ趣意ヲ同シクス。父又ハ母カ代リテ戸主權ヲ行フ場合ニ於テハ父又ハ母カ自ラ戸主タル場合ト同一ノ權利義務ヲ有スルモ後見人ノ代リテ行フ場合ニ於テハ之ニ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得セシムルハ一家ノ利益ノ爲メ危險アルヲ以テ本項ハ家族ヲ離籍シ復籍ヲ拒絶シ及ヒ家族ノ分家若クハ廢絶家再興ニ同意スルニ當リテハ親族會ノ同意ヲ要スルコト、ナセリ、其同意ヲ得スシテナシタルモノハ被後見人又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得(八八七、九三六)

**第二項** 後見人カ未成年ナル被後見人ニ代リテ其親權ヲ行フコトハ諸國ノ民法ノ多クハ認メサル所ナルモ是レ未成年者ハ婚姻ニ因リテ當然後見ヲ脱ストナシタルモノ多キニ因ルモノニシテ本法ハ此ノ場合ニ於ケル後見免除ヲ認メサルヲ以テ自ラ後見ニ服スル未成年者ヲシテ他ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ許ルサス、後見ニ服スル未成年者ニ子アル場合ニ於テハ後見人ハ被後見人ニ代リ其子ニ對シテ親權ヲ行フコト、ナセリ、但シ後見人カ親權ヲ行フ場合ハ親カ自ラ之ヲ行フ場合ト異ナリ種々ノ制限ヲ受ケサル可カラズ、本項但書ヲ以テ後見ニ關スル九一七條乃至九二一條及ヒ九二四條及ヒ九三三條ノ規定ヲ此場合ニ準用シ、即チ實質ニ於テハ全ク一人ニテ同時ニ親ト子トニ對スル後見ヲ兼ヌルト同一ノ結果トナレリ

二四條及ヒ九三三條ノ規定ヲ此場合ニ準用シ、即チ實質ニ於テハ全ク一人ニテ同時ニ親ト子トニ對スル後見ヲ兼ヌルト同一ノ結果トナレリ

**第九百三十五條** 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財產ニ關スル權限ノミヲ有ス

〔關〕 九〇〇、一號、(參) 澳二一八、獨一章一六五六、晋千八百七十五年七月五日法二八

親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テモ後見ヲ開始スルハ第九百條ニ定ムル所ナリ、然レトモ此場合ニ於テハ被後見人ノ身上ニ對スル事項ニ付テハ親權ハ完全ニ行ハル、モノナルヲ以テ後見人ハ其身上ニ對シテハ何等ノ權限ヲ有スヘキ必要ナキハ勿論ナリ管ニ其必要ナキノミナラス若シ後見人モ亦身上ニ對スル權限ヲ有ストセハ權力ニ途ニ分カレ本法カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲシテ常ニ一人タルコトヲ必要ナラシメタル立法ノ本旨ニ反スルモノナリ、本條ハ即チ此場合ニ於テ後見人カ財產ニ關スル權限ヲ有スルニ過キササルコトヲ明ニス。財產ニ關スル權限トハ財產ヲ管理シ及ヒ財產ニ關スル行爲ニ就キ之ヲ代表シ及ヒ之ニ同意ヲ與フル權限ヲ含ム、隨テ之ニ伴フ財產調査財產寄託等ノ義務ヲ自フコト勿論ナリ

**第九百三十六條** 第六百四十四條、第八百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第八、親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ノ權限



(參) 八二八六、一九七、二〇一、財三二九、一項、五四七、一項、佛四五〇、二項、漢二〇五、二二八、二

三六、關四四三、獨一章一六八一、二項乃至四項、一六八二、同二章一七〇九乃至一七一二

第九、後見人ノ責任

〔一〕第六百四十四條ノ準用 是レ後見人カ其任務ヲ行フニ當リ取ルコトヲ要スル注意ノ程度ヲ定ムルモノナリ、即チ後見人ハ後見ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ後見ノ事務ヲ處理スヘキ義務ヲ負フ、後見ノ一切ノ事務ニ通スル規定ニシテ其身上ニ對スル場合ト財產ニ對スル場合トヲ問ハス

第十、後見人ノ行為ノ効力

〔二〕第八百八十七條ノ準用 是レ後見人カ親族會ノ同意ヲ得ヘキ場合ニ之ヲ得スシテ被後見人ニ代リテ行爲ヲナシ又ハ被後見人ノ其行爲ヲナスニ同意ヲナシタル場合ニ於ケル被後見人又ハ其法定代理人ノ取消權ヲ規定ス、例ヘハ親族會ノ同意ヲ得スシテ父母ノ定メタル教育ノ方法又ハ居所ヲ變更シ(九二一)又ハ家族ヲ離籍シ居所ヲ指定シタルトキ(九三四)ノ如キ皆之ヲ取消スコトヲ得ルナリ、其他皆之ニ準ス、無能力者ハ其能力ヲ得タル後ニ之ヲ取消スヘシ、其能力ヲ得ル前ニハ法定代理人(自ラ權限外ノ行爲ヲナシタル後見人モ亦其取消權ヲ有ス、但シ若シ第三者ニ損害ヲ與ヘタルトキハ後見人ハ自ラ其損害賠償ノ責ヲ負フハ勿論ナリ)ヨリ之ヲ取消スヘシ、取消權ニ對スル相手方ノ追認ヲ求ムル權利、取消ノ方法、取消ノ効力、追認ノ方法、追認ノ効力、取消權ノ特別時効等ハ總則編ノ規定ニ從フコト八八七條ノ場合ニ同シ

第十一、親族會ノ同意ヲ得ル行爲ニテ

〔三〕第八百八十九條第二項ノ準用 是レ後見人カ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ就テモ自ラ責任ヲ免ル、コト能ハサルヲ定ム。別ニ説明ヲ要セス

第十二、第三者カ無償ニテ與ヘタル被後見人ノ財產ノ管理權

〔四〕第八百九十二條ノ準用 是レ後見人ハ被後見人ノ一切ノ財產ヲ管理スル原則ニ對スル例外ナリ、第三者カ被後見人ニ對シ無償ニテ財產ヲ與ヘ而シテ之ト同時ニ其財產ノ管理ヲ後見人ニ托セサル意思ヲ表示シタルトキハ其財產ハ後見人ノ管理ニ屬セスシテ別ニ其第三者ノ指定シタル管理者又ハ裁判所ノ選任シタル管理者ヲ以テ之ヲ管理セシム、其立法ノ理由ハ前ニ説明シタル所ニ同シ、後見人ノ交迭アリタル後モ尙其管理權ヲ變更セサルモノトス、

第十四節 後見ノ終了

第十四節 後見ノ終了

本節ハ後見終了後ニ於ケル後見人ノ義務及ヒ管理ヨリ生シタル債權ノ特別時効ヲ定ム

後見人タルノ資格ハ後見終了ノ事由ヲ生スルト同時ニ消滅スルモノナリト雖モ後見人ハ之ニ依リテ一切ノ義務ヲ解除セラル、モノニ非ラス、後見終了後ニ於テ後見人タリシ者又ハ其相續人ニ屬スヘキ義務ノ一ハ管理ノ計算ヲ爲ス義務ナリ、是レ後見人ニ屬スル義務ノ最重要ナル一ニシテ以テ後見管理ノ確實ヲ期スル所以ナリ、管理計算ノ義務ハ其管理ニ屬シタル財產ヲ返還スル義務



ヲ伴フ。其義務ノ二ハ後見終了後被後見人又ハ其法定代理人カ自ラ事務ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ル迄急迫ノ事情アル場合ニ於テ後見ノ事務ヲ繼續スル義務ナリ、此他尙後見ノ任務ノ執行ニ基キ生シタル債權債務ノ關係ハ後見終了ノ後ニ於テモ其効力ヲ存續スルコトハ言フ俟タス、本節ハ是等ノ事項ヲ規定セルモノナリ、若シ夫レ後見終了ノ原因ハ明文ナクシテ明ナルカ若クハ第二節ノ規定ニ依リ明瞭ナルカ故ニ本節ハ之ヲ規定セス

第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了シタトキハ後見人又ハ其相續人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

(參) 人二〇五、二〇七、佛四六九、四七一、蘭四六七、四六八、五〇六、三項、伊三〇二、三〇五、一項、葡二四九、二五六、ウチー二六四、三項、二七四、クラウアエンテン一七、一一九、ツューリヒ八四〇、八四一、八四六、西二八一、二八二、自草四六三、四六五、獨一草一七〇〇、一項、二項、後二草一七三六、普千八百七十五年七月五日後見法六七、索一九五二、一九七二、加二五六、紐草一三

〔一〕理由 本條ハ後見終了ノ場合ニ於ケル管理計算ノ義務ヲ定ム、此義務ハ後見人ノ最も重要ナル義務ノ一ニシテ此義務ヲ認ムルニ非ラサレハ被後見人ノ財産ノ安固ハ到底之ヲ保ツコトヲ得ス、我國ノ舊慣ニ於ケル後見制度ノ弊害甚シカリシ重ナル原因ハ後見人ハ事實上財産管理權ヲ行フニ拘ラス法律上ノ義務トシテ管理ノ計算ニ關スル精確ノ規定ナカリシニ由ル、本法ハ親權ヲ行

第一、管  
理計算ノ  
義務  
終了ノ期  
間

フ父ハ母カ財産ノ管理ヲ爲ス場合ニ關シテモ既ニ管理計算ノ義務ヲ認メタリ(八九〇)、本條ニ於テ後見人ニ關シテ此義務ヲ認メタルハ固ヨリ當然ナリトス

〔二〕後見終了ノ原因 後見人ノ管理ノ計算ノ義務ヲ負フハ其任務ノ終了シタルトキニ在リ、故ニ先ツ其ノ任務ノ如何ナル場合ニ於テ終了スルカヲ見ルコトヲ要ス、後見ノ終了ハ或ハ絶対ナルコトアリ或ハ相對ナルコトアリ。後見ノ絶対ノ終了トハ後見人及ヒ被後見人ノ兩者ニ對シテ同時ニ後見ノ關係ヲ解消セシムルモノニシテ(イ)被後見人ノ死亡シタルトキ、此場合ニ於テハ被後見人ノ相續人又ハ相續財産ノ管理人ニ對シテ管理計算ヲナスコトヲ要ス(ロ)未成年者ノ成年ニ達シタル時若クハ禁治産ノ宣告取消サレタル時、此場合ニ於テハ其被後見人タリシ者ニ對シテ計算ヲナスコトヲ要ス(ハ)未成年者ノ父又ハ母カ親權ヲ行フニ至リシ時若クハ親權ヲ行フ父又ハ母カ財産管理權ヲ行フニ至リシ時 此場合ニ於テハ其父又ハ母ニ對シテ計算ヲナスコトヲ要ス。後見ノ相對ノ終了トハ被後見人カ後見ヲ脱スルニ非ラスシテ後見人ニ對シテノ後見ヲ終了セシムルモノニシテ(イ)後見人ノ死亡シタル時(ロ)後見人カ其後見人タル能力ヲ失ヒタル時(九〇八)(ハ)後見人カ其任務ヲ辭シタル時(九〇七)(ニ)後見人カ免職セラレタル時はナリ。是等ノ場合ニ於テハ後見人ハ或ハ自ラ管理ノ計算ヲ爲スコトアリ、例ヘハ後見人ノ其任務ヲ辭シタルトキノ如シ、或ハ代理人若クハ承繼人ニ依リテ之ヲ爲スコトアリ、例ヘハ後見人ノ死亡シタルトキハ其相續人又ハ相



續財産ノ管理者其計算ノ義務ヲ負ヒ、其破産トナリタルトキハ破産管財人、不在ナルトキハ財産  
管理人其計算ヲ爲スノ義務ヲ負フ、而シテ此等何レノ場合ニ於テモ其後任ノ後見人ニ對シテ之ヲ  
爲スモノナリ。

〔三〕計算ノ種類 管理ノ計算ハ通常之ヲ二種ニ別ツ、一ハ後見人カ其任務ノ繼續中毎年少クモ一  
回親族會ニ報告スヘキ義務ヲ負フモノニシテ學者之ヲ假定計算トイフ（九二八）指定及ヒ選定後  
見人ノミ此義務ヲ負フモノナリ。一ハ後見人カ其任務ノ終了後ニ於テ爲ス所ノ計算ニシテ之ヲ  
確定計算トイフ、後見カ絕對ニ終了シタルトキハ此計算ハ後見人及ヒ被後見人ノ兩者ニ對シテ共  
ニ最終ノ計算ナルモ後見カ後見人ニ對シテノミ終了シタルトキハ其計算ハ後見人ニ付テノミ最終  
ノ計算ニシテ被後見人ニ對シテハ未タ確定ノモノニ非ラサルヲ以テ或ハ又之ヲ中間計算ト稱ス。  
所謂假定計算ニ付テハ九二八條ヲ以テ之ヲ規定セリ、本條ハ所謂中間計算及ヒ狹義ノ確定計算ノ  
義務ヲ規定ス。

〔四〕計算ノ目的 ハ財産目錄ニ依リテ證明セラレタル被後見人ノ財産及ヒ後見任務ノ繼續中ニ於  
テ被後見人ノ爲ニ得タル凡テノ收入中ヨリ被後見人ノ爲ニ支辨シタル凡テノ費用ヲ控除シ以テ現  
在財産額ヲ明ニスルニ在リ、被後見人ノ爲ニ得タル收入中ニハ其ノ領收シタル元本、其ノ財産ノ  
果實、其他凡テノ有償又ハ無償ノ名義ヲ以テ被後見人ノ爲ニ受取リタル財産ヲ含ム、其他九二七

條九四〇條等ニ依リ後見人カ被後見人ニ支拂フヘキ利息其他ノ債權ヲモ記入スルコトヲ要ス、其  
ノ支出中ニハ例ヘハ被後見人ノ生活、養育又ハ療養看護、及ヒ財産管理ノ費用、後見人ノ報酬、  
有給管理人ノ給料ノ如キ其他被後見人ノ爲ニ費ヤシタル一切ノ支出及ヒ被後見人ノ債務ヲ含ム、  
但シ己ムコトヲ得サル事由ナクシテ九二四條ニ依ル豫定金額以外ノ支出ヲ爲シタル場合ハ被後見  
人ノ辨償ヲ求ムルコトヲ得ス、其ノ豫定金額以内ノ支出ト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ缺キ被後見  
人ノ利益ノ爲ニ消費シタルモノニ非ラサルトキハ又其ノ辨償ヲ求ムルコトヲ得ス、收入ノ額ニ當  
初ノ資産總額ヲ合セタルモノ若シ支出額ニ超過スルトキハ後見人ハ其剩餘ヲ返還スルノ義務ヲ負  
ヒ、支出ノ額收入及財産總額ニ超過スルトキハ後見人ハ其辨償ヲ求ムルコトヲ得

〔五〕計算義務履行ノ期間 ハ後見終了ノ時ヨリ二ヶ月以内ヲ以テ原則トス、舊民法ハ此期間ヲ三  
ヶ月ト爲シタリシモ、管理ノ計算ハ勉メテ早ク終了セシム可キコト後ノ紛議ヲ避クルカ爲ニ必要  
ナルヲ以テ本法ハ之ヲ二ヶ月ニ短縮セリ、外國ノ立法例ニ於テモ之ヲ三ヶ月以上ニ爲スモノハ極  
メテ稀ナリ。但シ特別ノ事情アルトキハ或ハ事實計算ヲ終ルコト能ハサルコトアルヘキヲ以テ本  
法ハ親族會ノ決議ニ依リ其期間ヲ伸長シ得ヘシトナセリ  
〔六〕計算ノ費用 ハ被後見人ノ負擔ニ歸スヘキコト勿論ナリ、後見ノ終了カ後見人ノ不正行爲等  
ニ依リ免黜セラレタルニ基キタル場合ニ於テモ亦同シ



第九百三十八條 後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス

後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

トヲ要ス

(參) 人二〇六、伊三〇六、一項、三〇七、一項、葡二四九、二五〇、二五七、一項、サチ一六六、二七四、  
クラウアユンテン一二〇、西二七九、二八〇、二八二、白草四六四、獨一草一七〇〇、三項、一七〇一、  
同二草一七三七、一七三八、普千八百七十五年七月五日後見法六七、二項、三項

〇〇計算  
ノ手續

本條第一項ハ計算ニ後見監督人ノ立會ヲ要スルコトヲ定ム。是レ計算ノ確實ヲ期セシメカ爲ナリ。  
後見人ノ更迭アリタルトキハ後見監督人モ亦改選セラル可キモノナリ(九一三)、此場合ニ於テ前  
任後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘキカ若クハ後任後見監督人ノ立會ヲ以テナスヘキカハ本法  
明文ヲ設ケスト雖モ此場合ニ於テハ前任後見監督人ノ立會ヲ以テ爲スヘキモノナルハ後見監督人  
ノ性質上當然ノ事タリ、後見監督人ハ後見人ノ管理ノ計算ヲ終ル迄ハ其任務未タ完タカラサルモ  
ノナリ。後見監督人ノ立會ナクシテ爲シタル計算ハ計算トシテ効力ヲ有セス

本條第二項ハ後見人ノ更迭アリタル場合ニ於ケル計算ノ親族會ノ認可ヲ得ヘキコトヲ定ム、是レ  
所謂中間計算ナリ。所謂狹義ノ確定計算ハ被後見人自身若クハ其相續人ニ對シテ爲スモノナルヲ  
以テ本人又ハ相續人ニ於テ自ラ之ヲ審査シ其ノ不正ノ點アルモノハ之カ救濟ヲ求ムルヲ得ヘシト

雖モ、中間計算ニ在リテハ被後見人ハ未タ完全ノ能力ヲ得ス後任後見人ニ對シテ計算ヲ爲スヘキ  
モノナルヲ以テ之ヲ後任後見人ノ專斷ノ審査ニ付スルトキハ或ハ前任後見人ト共謀シテ私曲ヲ  
スノ恐アリ被後見人ノ利益ノ爲ニ危険アルヲ以テ特ニ之ヲ親族會ノ審査ニ付シ其ノ認可ヲ得ルニ  
非ラサレハ確定ノ決算ト爲スコトヲ得サルモノトナセリ、親族會ノ認可ハ計算ノ正當ナルヲ承  
認スルモノニシテ被後見人ニ對シテモ決算ヲ確定スル最終ノ效力ヲ與フルモノナリ故ニ其ノ認可  
ヲ與ヘタル後被後見人又ハ其代理人ニ於テ計算ニ不正アリト認ムルモ後見人ニ對シテ之ヲ争フコト  
ヲ得サルモノナリ。但シ親族會員カ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リタル場合ニ其會員ニ對シテ求償  
スルヲ得ルハ勿論ナリ。未成年者ノ父又ハ母カ親權又ハ管理權ヲ行フヲ得ルニ至リタルニ依リ後  
見ノ終了シタル場合ハ本條第二項ノ關スル所ニ非ラス、後見人ハ其ノ父又ハ母ニ對シテ管理ノ計  
算ヲ爲スヘキモノニシテ父又ハ母ノ後見人ノ如ク被後見人ノ利益ヲ害スル恐ナキヲ以テ親族會ノ  
認可ヲ要セサルナリ

第九百三十九條 未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者

ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消ス

トヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ

第十九條及ヒ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ



準用ス

(參) 人二〇八、佛四七二、二〇四五、關四七〇、五〇六、三項、伊三〇七、二項、ウチ一七六、一五二、七、クラウプエンテン一〇三、一項、一三號、二項、一〇六、ウチ一七四二、二項、西二八五、一項、白草四六六、加二五六、紐草一三七

後見ノ任務終了後ニ於テモ管理ノ決算ヲ終ル迄ハ後見人ハ尙被後見人ニ對シテ重要ナル義務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ不正ノ勢力ヲ以テ被後見人ヲ欺惑シ之ヲシテ其不利益ナル契約ヲ結ハシムルコトアル可キ危険ハ後見任務ノ繼續中ニ於ケルト異ナルコトナシ、後見任務ノ繼續中ニ於テハ被後見人ハ自ラ行爲ヲ爲スノ能力ヲ有セス其ノ後見人ト契約ヲ爲ストキハ常ニ後見監督人ニ依リテ代表セラル可キモノナルヲ以テ(九一五、四號)其契約ニ依リ利益ヲ害セラル、ノ危険少ナク隨テ後見人カ其財産ヲ讓受クル等ノ場合(九三〇)ノ外ハ之ヲ取消スコトヲ許ルスノ必要ナシト雖モ、後見ノ終了後ハ後見カ被後見人ニ對シテモ終了シタル場合ハ被後見人ハ通常完全ノ能力ヲ取得シ自ラ後見人ト契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ地位ニ立ツモノナルヲ以テ凡テノ契約ニ付キ之ヲ取消スコトヲ得セシムル必要アルナリ、言ヒ換フレハ被後見人ハ其能力ヲ取得シタル後ニ於テモ管理ノ計算ヲ終ル迄ハ後見人ニ對スル關係ニ於テノミ全ク無能力者ト同様ニ看做サル、モノニシテ是レ詐僞又ハ強迫ニ基クニ非ラスシテ能力者ノ行爲ノ取消ヲ許ルス一ノ特例ノ場合ナリ。

(三) 計算  
終了前ニ  
成年ニ達  
シタル被  
後見人カ  
後見人ト  
爲シタル  
契約及ヒ  
之ニ對ス  
ル單獨行  
爲ノ效力

本條ハ又後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル契約ノ取消ヲ許ルシタルノミナラス、同一ノ期間中後見人又ハ相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲モ亦之ヲ取消シ得ヘシトナセリ、蓋シ權利ノ拋棄、追認ノ如キ皆自己ノ不利益ヲ顧ミスシテ爲スコトアルヘキ危険ハ賣買贈與ノ如キ契約ト異ナル所アラサレハナリ

本條ハ專ラ被後見人ノ利益ヲ保護スルノ趣意ニ出ツ、故ニ其取消ヲ爲スコトヲ得ルハ被後見人タリシ者ニ限ル、是レ無能力者ノ爲シタル行爲ノ取消ヲ其無能力者ノミニ許シ、意思ニ瑕疵アル行爲ノ取消ヲ其意思表示ヲナシタル者ノミニ許ルスト同一ノ趣意ニ出ツルモノナリ  
被後見人ノ取消權ニ對シ後見人又ハ其相續人カ其追認ヲ求ムルノ權利、取消ノ效力、追認ノ效力、取消及ヒ追認ノ方法、取消權ノ特別時効等ニ關シテ本條第二項ハ無能力者ノ行爲又ハ瑕疵アル意思表示ノ取消ニ關スル總則編一九條及ヒ二二一條乃至二二六條ノ規定ヲ準用セリ、是レ元ト同一ノ性質ニ依ル取消ナルヲ以テ同一ノ規定ノ適用セラル、ハ當然ナリ、其之ヲ適用トイハスシテ準用トイフハ總則編ノ取消ハ無能力者ノ行爲又ハ意思ニ瑕疵アル行爲ノ取消ニ關シテ本條ハ能力者ノ行爲ニシテ然カモ其意思カ詐僞又ハ強迫ニ基キタルニ非ラス嚴格ニイフトキハ總則編ノ取消トハ稍其性質ヲ異ニスルヲ以テナリ

第九百四十條 後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人

第六章 後見 第四節 後見ノ終了



ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費シタル時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

(參) 人二一〇、佛四七四、蘭四七一、五〇六、三項、伊三〇八、葡二五三乃至二五五、二五七、二項、ザチ  
二六九、二項、二七七、西二八六、自草四六八、獨一草一六九七、同二草一七三三、普千八百七十五年七月五日後見法四〇 索一九三七

(四) 財産  
返還ノ義  
務ノ金  
額ヲ  
算定  
スル  
ノ制  
裁  
ノ  
意  
義  
ヲ  
示  
ス

本條第一項ハ後見ノ計算終了シタル時ハ後見人又ハ被後見人ハ各直ニ其返還スヘキ金額ヲ拂渡スヘキ義務アルコトヲ明ニシテ其ノ之ヲ返還スルコトヲ怠リタル場合ニ於ケル法律上ノ責任ヲ定ム。後見ノ計算終了ノ後收入若シ支出ニ超過シタルトキハ後見人ハ其ノ剩餘ノ財産ヲ返還スヘク、支出若シ收入ニ超過シタルトキハ被後見人ハ其ノ不足ヲ後見人又ハ其相續人ニ返還スヘシ、而シテ其返還ハ後見ノ計算終了ノ時ニ於テ直ニ之ヲ爲スヘキコト當然ナルヲ以テ其時ヨリ以後之ニ利息ヲ付スヘキコト、ナセリ、佛、以、ノ民法及舊民法ハ後見人ト被後見人トノ間ニ差等ヲ付シ被後見人ヨリ後見人ニ返還スヘキ金額ニ付テハ催告ヲ受ケタル時ヨリ利息ヲ付スヘキコト、ナ

セルモ被後見人ト後見人トノ關係全ク絶エタル以上ハ此差等ヲ付スルハ後見人ノ利益ノ爲ニ公平ヲ缺クモノナルヲ以テ本法ハ之ヲ取ラス

利息ヲ付スルハ計算終了ノ時ニ始マル、計算終了ノ時ハ親族會ノ認可ヲ得ヘキ計算ノ場合ニハ其認可ヲ得タル時、其ノ認可ヲ要セサル場合ニハ被後見人又ハ其法定代理人又ハ其相續人ニ計算ノ結果ヲ提出シタル時ナリ。利息ハ法定ノ利率ニ依ル即チ年五分ナリ(四〇四)。利息ヲ付スルハ金錢ヲ返還スヘキ場合ニ限ル、其他ノ財産ヲ引渡スヘキ場合ニ之ヲ怠リタルトキハ一般ノ規定ニ依リ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノナリ

本條第二項ハ不當利得又ハ不法行爲ノ原則ヨリ生スル當然ノ結果ナリ、唯前項ニ於テ利息カ計算終了ノ時ヨリ付スヘキコトヲ規定セルヲ以テ解釋上本項ノ場合ニモ其時ヨリ利息ヲ付スヘキヤノ疑アルヲ以テ本項ハ其疑ヲ防クカ爲ニ之ヲ明言シタルニ過キス

第九百四十一條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

(參) 人二〇二乃至二〇四、佛四一九、自草四五九乃至四六二、獨一草一七〇九、同二草一七四九、一項、普千八百七十五年七月五日後見法六五、一項、索一九六四、一九七二

第二、後見事務

本條ハ(一)後見終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ後見人、其相續人又ハ其法定代理人ハ被

第六條 後見 第四節 後見ノ終了



後見人、其相續人又ハ法定代理人カ自ラ其事務ヲ處理シ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スヲ要スルコト(二)後見終了ノ事由ハ其ノ後見人ニ出テタル場合ト被後見人ニ出テタル場合トヲ問ハス之ヲ他ノ一方ニ通知シ又ハ他ノ一方カ之ヲ知リタルニ非ラサレハ之ヲ以テ他ノ一方ニ對抗スルコトヲ得サルコトヲ定ム。皆委任ニ關スル規定ニシテ法律上當然ノ代理者タル後見人ニ對シ當然適用セラル可キ規定ニ非ラスト雖モ性質上固ヨリ同一規定ニ依ルヘキモノナルヲ以テ本條ニ依リ之ヲ後見ニ準用シタルナリ

第一ノ準用ノ結果トシテ例ヘハ後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テ後任ノ後見人カ就職スル迄ハ前任後見人又ハ其相續人(後見人カ死亡シタルトキ)又ハ其法定代理人(例ヘハ後見人カ禁治産者トナリタルキハ其後見人)ハ急迫ノ事情アルトキニ限り尙後見ノ任務ヲ繼續ス可キモノナリ。第二ノ準用ノ結果トシテハ例ヘハ後見人カ被後見人ノ死亡シタルコトヲ知ラスシテ被後見人ノ爲ニ法律行為ヲナシタルトキハ被後見人ノ相續人ハ其ノ行為ニ付キ自ラ其ノ責ヲ負フコトヲ拒ムコトヲ得サルナリ

**第九百四十二條 第八百九十四條ニ定メタル時効ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス**

前項ノ時効ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行為ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

(參) 人二二一、佛四七五、蘭四七二、五〇六、三項、伊三〇九、サチ一七五、クラウブアンテン二二五、ツューリヒ八四二、一項、八四三乃至八四六、四二八七、白草四六九、加二五七、紐章一三三

本條ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ後見ニ關シテ生シタル債權ノ特別時効ヲ定ム、其債權ハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ト其子トノ間ニ財産管理ニ付テ生シタル債權ト其性質ヲ等シクスルヲ以テ其時効ニ就テハ之ト同一ノ規定(八九四)ヲ準用シタルナリ、即チ被後見人ノ死亡又ハ能力ノ取得ニ因リ後見ノ終了シタル場合ニハ後見ノ終了ノ時ヨリ五年、其他ノ場合ニハ被後見人ノ能力ヲ取得シタル時ヨリ又ハ後任ノ法定代理人ノ就職シタル時ヨリ五年ヲ以テ時効トス。後見ニ關シテ生シタル債權トハ例ヘハ被後見人ノ支辨スヘキ生活養育又ハ管理ノ費用、後見人ノ報酬ノ如キ、或ハ後見人カ其管理上ノ過失又ハ不法行為ニ依リ支拂フヘキ利息又ハ損害賠償ノ如キ、或ハ後見監督人カ財産調査又ハ計算ニ立會ヲナスニ當リ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リタル爲メ不正ノ行為ヲ發見スルコト能ハサリシトキ其支拂フヘキ損害賠償ノ如キ、或ハ親族會カ善良ナル管理者ノ注意ヲ缺キ不當ニ同意ヲ與ヘタルニ對スル損害賠償ノ如キヲイフ

後見終了ノ後管理ノ計算ヲ終ラサル以前ニ於テ被後見人ノ後見人ト爲シタル契約又ハ之ニ對シテ

第三、後見人、後見監督人、親族會員、被後見人ノ間ニ關シテ生シタル債權ノ時効



爲シタル單獨行爲ヲ取消シタルニ依リ債權ヲ生シタルトキハ其債權ノ時効ニ付テハ第一項ノ規定ニ依ルコト能ハサルヲ以テ特ニ第二項ヲ設ケテ取消ノ時ヨリ之ヲ起算スヘキコトヲナセリ

第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者ト

ノ間ニ之ヲ準用ス

保佐人ト禁治產者トノ間ニ保佐ニ關シテ生シタル債權ニ就テモ其特別時効ハ親權ヲ行フ者ト其子又ハ後見人ト被後見人トノ間ニ生シタル債權ト同一ノ規定ニ依ルヘキ性質ノモノナルヲ以テナリ

第四、保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ保佐ノ關係ノ時効債權

第七章 親族會

第一、親族的會ノ目

ファミリー、或人ノ親族其他之ト緣故アルモノヲ以テ組織スル議決機關ニシテ其者若クハ其家ノ利害ニ重大ノ關係アル事件ヲ議決スルモノナリ。我國從來ノ舊慣ニ於テ亦親族相集リテ其ノ家ニ關スル重大ノ事件ヲ決スル慣習頻繁タリシト雖モ是レ唯一ノ事實タリシニ止リ未タ法律上ノ制度トシテ親族會ノ組織ヲ認メタルモノアルヲ見ス、歐洲ニ於テハ羅馬法ノ古ニ於テ既ニ親族會ノ組織ヲ認メ之ヲ *Concilium domesticum* トイヘリ、現行ノ歐洲諸國ノ立法ニ於テモ亦多クハ之ヲ設クルヲ例トス(佛、以、葡、西、白草、獨等)、蓋シ家ノ利害ハ戸主之ヲ專斷スヘキ絶對ノ權利ヲ有ス、人ノ一身ノ利害ハ完全ノ能力アルモノハ又自ラ之ヲ專斷シ其未成年ナル者ハ親權ヲ行フ父之ヲ專斷スヘキ權利ヲ有ス、故ニ若シ完全ノ能力ヲ有スル者カ自ラ戸主權ヲ行フ場合ニ於テハ其家ノ爲ニ親族會ヲ開クヘキ必要ナク、又人カ自ラ完全ノ能力ヲ有シ若クハ父ノ親權ニ服セル場合ニ於テハ又其人ノ爲ニ親族會ヲ開クヘキ必要ナシ、然レトモ若シ之ニ反シテ戸主タルモノ完全ノ能力ヲ有セス若クハ自ラ戸主權ヲ行使スルコト能ハサルトキ、及ヒ無能力者カ父ノ親權ニ服スル能ハサルトキニ於テハ其家若クハ其人ノ利益ヲ專斷スヘキ者ヲ缺キ之ヲ或ル他ノ一人ノ專斷ニ任スルハ其家若クハ其人ノ利益ノ爲ニ危險甚タ少ナシトセス、是ニ於テカ其利害ヲ判斷スルコト最



モ公平ニ且ツ最モ適切ナル可キ機關ヲ設ケ其家若クハ其人ノ利害ニ重大ノ影響アル可キ事件ヲ決定セシムルコトヲ要ス、是ノ如キ機關ハ獨任制ノ機關ハ之ニ適當ナルコト能ハス、獨任制ノ機關ハ時ニ應シテ事ヲ處スルコト敏括ナルヲ得ヘキ利アリト雖モ稍モスレハ其判斷偏頗ニ流レ慎重公平ヲ期スルコト能ハス、是レ合議制ノ機關ヲ必要トスル所以ナリ、親族會ハ即チ此目的ノ爲ニ設ケラレタル合議制ノ機關ナリ

第二、親族會ノ權限

親族會ヲ設クル目的ハ以上ノ如シ、隨テ其權限ノ重ナルモノ亦之ヲ一種ニ大別スルヲ得、(一)家ノ爲ニ設クルトキ、此場合ニ於テハ戶主ニ代リテ其家ノ戶主權ヲ行フノ任務ヲ負フ(七五一)、(二)父ノ親權ニ服セサル無能力者ノ爲ニ設クルトキ、此場合ハ更ニ之ヲ數種ニ別ツヲ要ス、(イ)未成年者カ母ノ親權ニ服セルトキ、ハ其母カ未成年者ニ代リテ一定ノ行爲ヲ爲シ又ハ未成年者ノ其行爲ヲ爲スニ同意スルトキ其母ノ意思ノ効力ヲ補充スルノ任務ヲ負フ(八八六)、(ロ)未成年者ノ子カ繼父母又ハ嫡母ノ親權ニ服セルトキ(八七八)又ハ未成年者若クハ禁治產者カ後見ニ服スルトキ、此場合ハ親族會ノ最モ重要ナル任務ニシテ其任務ノ詳細ハ前章ニ於テ説明シタルカ如シ、(第二節註參看)、(ハ)準禁治產者カ保佐ニ付セラルトキ、此場合ニ於テハ保佐人ヲ選任シ及ヒ保佐人ト準禁治產者ト利益相反スルニ於テ臨時保佐人ヲ選任スルノ任務ヲ有ス(九〇九)右ノ外家ノ爲ニ設クル親族會ノ任務中ニハ尙一ヲ加フルヲ要ス、法定ノ事由アラサル場合ニ於

テ法定ノ推定家督相續人ヲ廢除セントスルトキ被相續人ノ意思ノ効力ヲ補充スルコト是ナリ(九七五、二)此場合ニ於テハ戶主ハ自ラ戶主權ヲ行使シ得ルニ拘ラス尙親族會ノ同意ヲ要ス、是レ事相續人ニ關スル最モ重大ニシテ之ヲ戶主ノ專斷ニ任スルハ其利益ノ保護當ヲ得サレハナリ親族會ハ之ヲ形容シテイハ完全ナル戶主又ハ完全ナル親權行使者ノ缺ケタル場合ニ於ケル一家族ノ裁判所ノ如シ、其權限頗ル重大ナルヲ以テ其組織決議等之ヲ其ノ任意ニ放擲スルハ其職權ノ濫用ヲ生スルノ危險甚ナカラス、是ヲ以テ諸國ノ民法ハ概テ其招集、組織、決議等ニ就キ官ノ關涉ヲ認メサルモノナク其多クハ裁判官自ラ親族會ノ會長タル任務ヲ帶ヒ會員ノ意見正半數ニ分カレタル場合ニ於テハ之ヲ裁判スル權限ヲ有ス、本法ニ於テハ裁判所カ親族ノ内事ニ關涉スルノ我現情ニ適セサルヲ認メ勉メテ之ヲ避ケ隨テ裁判官ノ親族會ノ決議ニ參與スルコトヲ認メスト雖モ尙其招集組織ニ就テハ裁判所ノ關涉ヲ認メタリ親族會カ後見ノ機關タリハ其重要ナル任務ノ一ナリト雖モ然カモ是レ其任務ノ凡テニ非ラス、故ニ本法ハ舊民法及ヒ諸國ノ立法例ニ反シテ之ヲ後見ノ章中ニ規定スルコトナク別ニ本章ノ一章ヲ設ケテ其組織、招集、決議方法、不當ノ決議ニ關スル救濟方法等ヲ定メタリ、其權限ニ關シテハ本編及ヒ相續編ノ各章ニ於テ其ノ決議ヲ要スル事件ニ付散在シテ之ヲ定メ本章別ニ概括ノ規定ヲ設クス



第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

- 【關】 九四九、非訟、九六、九七、九八（參） 八一七一、一七二、一七七、佛四〇六、伊二五〇、二五七、葡二一〇、四二九三、三〇九、白草四〇九、一項、四一〇、獨二草一七二二、一七二三、一七二一、一項、一七三六、同二草一七五六、一七五二、一七六五、一七八二、普千八百七十五年七月五日後見法七
- 一、七七、一項、二項

第三、親族會ノ招集

本條ハ親族會ノ招集ヲ定ム、〔一〕親族會ハ常時成立セル機關ニ非ラス、無能力者ノ爲ニ開キタル親族會ハ無能力ノ止ム迄繼續スヘキコト九四九條ノ定ムル所ナリト雖モ是レ親族會員タル資格ヲ繼續シ及ヒ裁判所カ之ヲ招集スル手續ヲ省察スルニ過キスシテ親族會其物ノ成立ヲ繼續セシムルノ意ニ非ラス、此場合ト雖モ事件アル毎ニ一々之ヲ招集スルコトヲ要スルニ於テハ異ナルコトナシ、招集ヲ待タスシテ會員カ任意ニ集會シタルモノハ親族會ニ非ラス、招集トハ親族會員ニ對シ其集會ヲ命スル處分ナリ〔二〕本法ノ規定ニ依リ親族會ノ會議ヲ要スル事件ノ重ナルモノハ左ノ四種ナリ。(イ)無能力者ノ爲ニ後見人後見監督人ヲ選任シ、之ヲ免黜シ、特別代理人ヲ選任シ、其他後見人又ハ親權ヲ行フ母又ハ繼父母嫡母ヲ監督シ及ヒ其ノ意思ヲ補充スルコト(七七二、八一〇、

八四六、八六三、八八六、八八八、九〇四、九一一、九一二、九一三、九一七、九一九、九二一、九二二、九二四、九二五、九二六、九二七、九二八、九二九、九三一、九三二、九三三、九三四、九三七、九三八)、(ロ)戸主權ヲ行フ能ハサル戸主ニ代リ戸主權ヲ行フコト(七五一)、(ハ)親權ヲ行フ繼父母又ハ嫡母ニ代リ子ノ婚姻、離婚又ハ離縁ヲ爲スニ同意シ及ヒ繼父母又ハ嫡母ノ子ノ縁組ニ同意スル意思ヲ補充スルコト、(七七三、八〇九、八四三、八六三)、(ニ)法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ家督相續人ヲ選定シ(九八二、九八五)及ヒ法定ノ原因アル場合ノ外被相續人カ法定ノ推定家督相續人ヲ廢除セントスルニ同意ヲ與フルコト(九七五)是ナリ。本法以外ノ他ノ法令ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ハ現行ノ法令中未タ之アルヲ見ス。〔三〕招集ノ手續ハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ裁判所之ヲ招集ス。招集ヲ爲スモノハ裁判所ナリ、本法ハ勉メテ裁判所ノ親族間ノ内事ニ關涉スルコトヲ避クタリト雖モ親族會ノ如キハ家族ノ利害ニ重大ノ關係アルモノヲ議決スル權限ヲ有スルモノアルヲ以テ若シ其會員ノ選定ヲ會議ヲ要スル事件ノ本人又ハ利害關係人ニ任スルトキハ彼等ハ自己ノ利益ニ都合能キ者ノミヲ選定シテ家族ノ利益タル可キ公平ノ議決ヲ望ムコトヲ得ス即チ親族會ヲ設クル立法ノ目的ハ毫モ違セラル、コトヲ得サルヲ以テ此場合ニ限リテハ已ムコトヲ得ス裁判所之ヲ選定スルコトナシタルニ由リ(九四五)隨テ其招集ヲモ裁判所ヨリ之ヲ爲



スコト、ナセリ、其裁判所ノ管轄ハ非訟事件手續法ニ之ヲ規定ス(九六一九八)。裁判所カ之ヲ招集スルハ常ニ請求アリタルトキニ限ル、請求ヲ受ケスシテ裁判所カ自己ノ職權ヲ以テ之ヲ招集スルハ本法ノ認メサル所ナリ。招集ヲ請求シ得ル者ハ、(イ)會議ヲ要スル事件ノ本人(例ヘハ無能力者ノ爲ニ開ク親族會ナルキハ其無能力者、家督相續人ノ廢除ニ同意ヲ求ムル爲ニ開ク親族會ナルトキハ其被相續人等)、(ロ)本人ノ家ノ戸主、(ハ)其ノ親族(血族姻族配偶者ノ凡テテ含ム)、(ニ)後見人(後見人ハ法定代理人ナルカ故ニ假令戸主又ハ親族ニ非ラサルモノト雖モ招集請求ノ權アルヘキハ當然ナリ)、(ホ)後見監督人(例ヘハ後見人ノ免黜ノ爲メ後見ノ計算ヲ審査スル爲メ開ク場合ノ如シ)、(ヘ)保佐人(準禁產者ノ爲ニ開クヘキ場合ニ限ル)、(ト)檢事(檢事ニ招集ヲ請求スルコトヲ許ルスハ親族會ヲ開クノ必要アルハ多クハ國ノ公益ニ關スルヲ常トシ之ヲ私人ノ招集ニ一任スルハ或ハ公益ヲ保護スルニ充分ナラサルニ依ル、然レトモ檢事ノ職掌ハ専ラ公益ノ保護ニ在ルカ故ニ檢事ノ招集ヲ請求スルハ其ノ公益ニ關スル場合ニ限ル)、(チ)其他利害關係人(親族會ヲ開クノ必要ハ公益ニ關スルモノ多キカ故ニ本法ハ勉メテ廣ク何人ニモ其招集ヲ請求スルコトヲ許ルシ、一定ノ人ニノミ其招集ノ全權ヲ委ヌルヲナク凡テノ利害關係人ニ其請求權ヲ與ヘタリ、故ニ何人ト雖モ親族會ノ開會ニ利害關係アルコトヲ證明スルニ依リテ之ヲ請求スルヲ得)ナリ。親族會ノ招集ヲ請求シ得ルハ親族會ヲ開クヘキ必要ヲ生セル場合ニ限ル、其ノ必要ナクシテ之ヲ

請求シ得サルハ勿論ナリ、例ヘハ未成年者ノ所有不動産ヲ買ハント欲スルモノ其賣買ヲ後見人ニ申込ミ後見人ノ之ヲ承諾シタルトキハ其買主ハ未成年者ノ親族會ノ同意ヲ求ムルカ爲ニ自ラ親族會ノ招集ヲ請求シ得ルコトハ言フヲ俟タスト雖モ(利害關係人)若シ後見人カ之ヲ承諾セサル場合ニ於テハ其買主タラントスルモノハ自ラ利害關係人トシテ其ノ招集ヲ請求スルコトヲ得サルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テ未タ親族會開會ノ必要ヲ生セサルナリ、又例ヘハ推定相續人ヲ廢除スヘキ正當ノ事由ヲ生シタルトキ其ノ被相續人ノ未タ之ヲ廢除スル意思ヲ表示セサルニ其ノ親族其他ヨリ親族會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得ス、其他此例ニ依リテ推知スヘシ

**第九百四十五條 親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス**

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

[關] 非乃九九(參) 八一七一、一七四、佛四〇七乃至四一〇、四二四、伊二五一乃至二五三、二六一、葡二〇七、二〇八、西二九四乃至二九六、白草四〇三、四〇四、獨二草一七二二、三項、一七一四、一項、一一七一五、同二草一七五一、一項、一七五三乃至一七五七、普千八百七十五年七月五日發見法七二、一項、四項、七三、七六、八〇



第四、親族會ノ組織ノ員數

本條ハ親族會ノ組織ヲ規定ス  
「一」親族會ヲ組織スル員數ハ諸國ノ民法ハ或ハ其ノ員數ヲ一定スルモノアリ或ハ之レヲ一定セサルアリ其之ヲ一定スルモノモ或ハ五人トナシ或ハ七人トナス（獨逸民法ハ會長ノ外少クトモ二人多クモ六人トナシ、以太利民法ハ會長ノ外ニ四人ヲ限リ佛國民法ハ會長ノ外ニ六人ヲ限ル）。然レトモ五人又ハ七人ノ親族ヲ得ルハ時トシテ甚タ困難ナルコトアル可ク其ノ之ヲ得ヘキ場合ニ於テハ固ヨリ五人又ハ七人ヲ以テ組織スルコト妨ナシト雖モ之ヲ得難キトキニ於テハ三人ヲ以テモ組織スルコトヲ得セシムル必要アリ、故ニ本法ハ獨逸民法舊民法等ト同シク三人ヲ以テ會員數ノ最少限トナセリ、其最高限ハ本法ハ之ヲ制限セス裁判所ヲシテ事情ニ應シテ隨時之ヲ決定セシムルコト、ナセリ。少クトモ三人アルコトヲ必要トシタルハ二人ナルトキハ議合ハサル場合ニ於テ之ヲ決定スル方法アラサレハナリ。三人以上ナルトキハ本法ハ其員數ヲ制限セスト雖モ本法ハ親族會ノ決議ハ過半數ヲ以テ決ス可キコト、ナシ而シテ別ニ會長ノ裁決權ヲ認メサルカ故ニ會員ノ數ハ常ニ奇數ナルコトヲ必要トナセルモノトイハサル可カラス、然ラサレハ意見正半數ニ別レタル場合ニ於テ之ヲ決スルノ方法アラサレハナリ、（即チ三人、五人又ハ七人等）

（二）會員ノ選定權

（二）會員ノ選定 會員ヲ選定スルコトヲ得ルモノハ（イ）裁判所（ロ）後見人ヲ指定シ得ルモノナリ。但シ後見人ヲ指定シ得ルモノカ親族會員ヲ選定スルハ遺言ヲ以テスル場合ニ限ル。（イ）裁判所ニ

親族會ノ選定權ヲ與ヘタル理由ハ前條ニ述ヘタル如シ、各國ノ民法ハ皆此ノ如シ本法ハ勉メテ裁判所ノ干涉ヲ避ケタリト雖モ親族會其物ノ性質ニ於テ已ムヲ得サルニ出ツ。我國ノ現情ニ於テ裁判所カ各親族間ノ内情ヲ察シ何人カ親族會員タルニ適當ナルカヲ決定スルコト困難ナルカ如シト雖モ裁判所ハ之ヲ決定スルカ爲ニ檢事若クハ司法警察官ノ報告ヲ徵スルコトヲ得ヘク之カ選定ニ最モ公平ヲ期スルコトヲ得ヘキナリ（ロ）後見人ヲ指定シ得ル者即チ未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者若クハ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ其父ハ其未成年ノ子ノ爲ニ開クヘキ親族會ノ會員ヲ選定スルコトヲ得（九〇一）是等ノ者ハ子ノ利益ノ保護ニ付キ完全ノ權利ヲ有スルモノナルヲ以テ其子ノ爲ニ開クヘキ親族會ノ組織ヲ定ムルノ權限ヲ與フルハ當然ナリ。

選定ノ効力ハ一回ノ親族會ニノミ繼續ス、故ニ一定ノ事件ノ爲ニ召集シタル親族會カ其事件ニ關スル議決ヲ了リタルトキハ親族會ハ當然解散セラレ、親族會員タル資格ハ自ラ解除セラル、モノニシテ、其後更ニ親族會ヲ召集スル必要ヲ生シタルトキハ新ニ其會員ヲ選定スルコトヲ要スルナリ、但シ無能力者ノ爲ニ開キタル親族會ニ限リテハ其無能力ヲ止ム迄會員ノ資格ヲ繼續スルモノナリ（九四九）故ニ本條第二項ニ依リ遺言ヲ以テ選定セラレタル者ハ其遺言者ノ親權ニ服シタル者カ成年ニ達スルトキ迄其選定ノ効力繼續スルモノナリ



遺言選定ハ遺言者カ自己カ死亡シタル後ニ於テ其親權ニ服セル未成年ノ子ノ爲ニ開クヘキ親族會ノ組織ヲ定ムルモノナルカ故ニ遺言者カ其子ノ成年ニ達スル前ニ死亡シタルトキニミ選定ノ効力ヲ生スルモノナルハ言テ俟タス。遺言選定權ヲ有スルモノカ三人ニ滿タサル會員ヲ選定シタル場合ニ於テ裁判所カ其餘ノ會員ヲ選定シ得ルコトハ又疑ヲ容レズ、其ノ三人若クハ五人ノ會員ヲ選定セル場合ニ於テ裁判所カ更ニ自ラ二人若クハ四人ノ會員ヲ選定シ加ヘテ五人若クハ七人ト爲スコトヲ得ヘキヤハ稍疑ヲ容ルヘキカ如シト雖モ遺言選定ノ効力ハ唯其選定セラレタルモノヲ親族會員トナスノ効果ヲ生スルニ止リ會員ノ員數ヲ限定スルノ効力ヲ生スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ裁判所カ之ニ加ヘテ更ニ會員ヲ選定スルハ裁判所ノ職權ニアリトイハサル可カラズ

(三)會員タル可キ者

「三」會員タル可キ者 裁判所カ選定スル親族會員ハ本人ノ親族其他本人又ハ其家ニ縁故アル者ナルコトヲ要ス、親族會ハ其名ノ如ク本人ノ親族ヲ以テ組織スルヲ本則トスルコト會ノ本旨ナルハ勿論ナリト雖モ之ヲ親族ニ限ルハ往々定員數ヲ充タス能ハサルコトナシトセサルカ故ニ特ニ縁故アルモノ、中ヨリモ選定シ得ヘシトナセリ、外國ノ立法例ニハ法律上親族會員タルヘキモノ、順位ヲ一定セルモノアリト雖モ本法ハ之ヲ取ラス、縁故ハ必シモ法律上ノ縁故ナルヲ要セス事實上ノ縁故例ヘハ親密ナル朋友、其他種々ノ關係ヲ包含ス、其他或ハ本家ト分家トノ關係アルモノニシテ其家族間ニハ最早何等ノ親族關係ナキモノ、如キモ亦本條ノ中ニ合マル、其縁故ノ有無ハ一

ニ裁判所ノ認定ニ任ス、縁故アル者ヲ選定スルハ法律上必ラスシモ親族ノ定員數ヲ得タサル場合ナルコトヲ要セス、他ニ多クノ親族アルモ之ヲ差措キテ親族關係ナキ縁故アル者ヲ選定スルモ法律上妨ナシ。遺言選定ニ付テハ本條ハ其資格ヲ限定セス一ニ遺言者ノ意思ニ任ス、故ニ其選定シタル者カ假令何等ノ縁故ナキ者ナリトスルモ裁判所ハ其選定ヲ無効ナリト判決スルコトヲ得ス諸國ノ民法ハ會員タル者ノ中ニ裁判官ヲ加ヘ裁判官ハ親族會ノ會長タル職務ヲ行フヘキ者トナセルモノ多シト雖モ(獨、佛、以、葡、等皆同シ)本法ハ之ヲ認メズ、是レ又裁判官ノ親族ノ内事ニ關涉スルヲ避クタルナリ。本法ハ管ニ裁判官ノ會長タルコトヲ認メサルノミナラス會員中別ニ法律上會長アルコトヲ認メズ、會員カ其會員中ヨリ議長席ニ着クヘキ者ヲ互選スルハ固ヨリ其任意ナリト雖モ、議長ノ法律上ノ評決權ハ全ク會員トシテノ議決權ニ外ナラス、之ニ特別ノ裁決權ヲ加ヘ若クハ其表決權ヲ行ハシメサルハ共ニ違法ナリ。

親族會員タルヘキ者ニ就キテハ佛法ハ後見ヲ開始スヘキ町村内及ヒ二ミリヤメートルノ距離内ニ在ル血族又ハ姻族ヲ以テ組織シ、其半數ハ父系、半數ハ母系ノ親ニシテ、兩系中近親ノ順序ヲ逐テ選定ス可キモノトシ、且ツ血族ハ姻族ニ先テ、同等ノ血族中ニハ年長者ハ年少者ニ先ツヘキモノトナセリ、但シ同父母兄弟姉妹又ハ同父母兄弟姉妹ノ夫六人又ハ其以上アルトキハ當然悉ク親族會員トナル、其六人以下ナル場合ニ限リ他ノ親族ヲ選定ス、右ノ距離以內ニ在ル親族ヲ以テ定數ニ滿タサルトキハ更ニ遠距離ノ地ニ在ル親族若クハ町村内ニ於テ未成年者ノ父母ト平生親密ノ關係アル者ヲ選定ス。本法ハ固ヨリ是ノ如キ順



序及ヒ制限ヲ設ケスニ裁判所ノ職權ニ任シタリト雖モ裁判所カ其選定ヲナスニ當リテ以上ノ如キハ多少參考トナル可キモノナルヲ以テ爰ニ附記ス

第九百四十六條 遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員

タルコトヲ辭スルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百八條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

- 〔關〕 九〇八、非訟、一〇〇、一〇一（參） 八一八〇乃至二八二、佛四〇七、四〇九、四一〇、四四二、四四三
- 五、伊二五二、二項、二五四、二六八、二六九、二七一、葡二〇九、二三三、二三四、二四二、四二二
- 六、二項、二九七乃至二九九、白草四〇三、四〇六、一項、四二七、四二八、獨一草一七一六、一七一
- 七、一七二三、同二草一七五八乃至一七六〇、一七六二、一七六九、普千八百七十五年七月五日後見法
- 七二、三項、七二、二項、三項、七九、一項

本條ハ親族會員タル義務ノ免除、及ヒ其ノ不能力ヲ規定ス

〔四〕會員タル義務ノ免除

〔一〕親族會員タルコトヲ辭シ得ル場合 親族會員タルコトハ後見人、又ハ後見監督人タル義務ト同シク法律上ノ強制負擔ナリ。其ノ選定ヲ受ケタル者ハ任意ニ其負擔ヲ免ル、コトヲ得ス、然レトモ正當ノ事由アル者ハ固ヨリ之ヲ辭セシムルコトヲ許ルスヘキハ當然ナルヲ以テ本條第一項ニ於テ

〔五〕親族會員タル不能力

之ヲ明ニシタリ、果シテ正當ノ事由アルヤ否ヤハ裁判所ノ決定ニ任スヘキモノナリ、選定ヲ受ケタル者ハ辭任ノ旨ヲ裁判所ニ申請シ裁判所ノ之ヲ認許スルニ由リテ始メテ會員タル義務ヲ免ル、モノナリ。何カ正當ノ事由ナルカニ就テハ本條ハ遠隔ノ地ニ居住スルコトヲ以テ當然正當ノ事由ナリト認メタルノミ其他ニ於テハ全ク裁判所ノ認定ニ一任ス、故ニ現役軍人又ハ公務ニ従事スル者等後見人タルコトヲ辭シ得ル者ト雖モ或ハ親族會員タルコトヲ辭スル正當ノ事由タラサルコトアル可シ、蓋シ親族會員ハ後見人等ト異ナリ其任務必スシモ繁多ナラサルヲ以テナリ

〔二〕親族會員タルコトヲ得サル者 二種アリ一ハ其會ノ議事カ常ニ自己ノ利害ニ直接ノ關係アル者多キニ因リ、一ハ其智能、身分、地位、德義等カ親族會員ノ任務ヲ行フニ適セサルニ因リ、前者ハ即チ後見人、後見監督人及ヒ保佐人ナリ（第二項）、親族會ハ後見監督ノ機關タルコトヲ以テ其重要ナル任務ノ一トナス、其監督ニ服スル者カ自ラ其會員タルハ監督ノ本旨ニ反スルハ言ヲ俟タス。後者ニ就テハ本條ハ後見人、後見監督人タル不能力ニ就テ定メタルト同一ノ規定ヲ準用セリ、其規定ノ理由ハ前ニ説明シタル所ニ由リ明ナリ

第九百四十七條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

（參） 八一七五、伊二五八、二五九、葡二一八、二一九、西三〇五、二項、三〇七、白草四一四、二



項、四一五、獨一草一七三二、二項、三項、同二草一七六七、二項、三項、普千八百七十五年七月五日  
後見法七七、三項

第五、親  
族會ノ決  
議方法

本條ハ親族會ノ決議方法ヲ定ム。親族會ノ決議ハ會員ノ過半數ヲ以テ決ス、故ニ三名ノ會員ナル  
トキハ二名以上、五名ノ會員ナルトキハ三名以上ノ一致アルヲ要ス、其他之ニ準ス、出席員ノ過  
半數ニ非ラスシテ總會員ノ過半數ヲ必要トシタルハ成ルヘク多數會員ノ同意ヲ得ノコトヲ期シタル  
ナリ。此規定ヨリ生スル一ノ結果トシテ會員數ノ必ラス奇數ナルコトヲ要スルハ已ニ述ヘタル如  
シ、其ノ他ノ一ノ結果ハ會員ノ過半數以上ノ出席アルニ非ラサレハ開會スルコトヲ得サルコト是ナ  
リ、故ニ三名ノ會員ナルトキハ二人以上出席シ五人ノ會員ナルトキハ三人以上ノ出席アルコトヲ要  
ス。親族會ニ於テ二個以上ノ意見ヲ生シ何レノ意見モ過半數ニ達セサル場合ニ就テハ九二五條ニ  
於テ其規定ヲ設クタリ參看ヲ要ス、

親族會ノ議事カ自己ノ利害ニ關係アル場合ニ於テハ親族會員ハ其表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス、  
此同一ノ理由ヲ以テ後見人、後見監督人及ヒ保佐人ヲ全ク親族會ヨリ除外シタルハ已ニ述ヘタル  
如シ、後見人、後見監督人等ニ非ラサルモノハ會員タルコトヲ妨クスト雖モ尙自己ニ利害關係アル  
トキハ表決ノ數ニ加ハルコトヲ許ルサス、是レ各種ノ會議ニ普通ノ原則ニシテ其理由ハ説明ヲ俟タ  
ス、人情ノ弱點ハ自己ノ利害ニ關係アルニ於テ公平ノ表決ヲナスコトヲ期スル能ハサレハナリ」

利害關係ハ直接ノ利害關係ナルコトヲ要ス、例ヘハ自ラ無能力者ノ不動産又ハ重要ノ動産ヲ讓受  
クントスル者、貸金ヲサントスル者等ハ八八六條ノ親族會ノ決議ニ加ハルコトヲ得ス、又ハ相  
續ノ次ノ順位ニ在ル者ハ推定相續人ノ廢除ニ關スル議決ニ加ハルコトヲ得サルカ如キ其一例ナリ、  
間接ノ利害關係ニ至リテハ親族會員タル可キ者ハ皆多少其關係ヲ有セサルナシ、自己ノ親族ニ關  
スル重大ノ事件ハ自己モ亦其利害ヲ感スルコト當然ナレハナリ、本條ハ固ヨリ是ノ如キモノヲ意味  
セス。後見人ノ配偶者、直系血族等ハ後見監督人タルコトヲ禁セラル、モ親族會員タルコトヲ禁  
セラレサルハ之カ爲ニシテ無能力者ノ爲ニスル親族會ト雖モ後見人ノ配偶者等ハ表決ニ加ハルコ  
トヲ妨ケサルモノト解スルコト正當ナリ。直接ノ利害關係アル者カ表決ニ加ハリタル場合ト雖モ必ス  
シモ其決議全牒カ無効トナルニ非ラス、利害關係アル者ノ爲シタル表決(例ヘハ投票)ノミ無効ト  
ナルモノニシテ、若シ其一票ヲ除クトキハ表決數カ過半數ニ達セサルトキハ其決議ハ無効ナリト  
雖モ然ラサルトキハ有効ナルヲ妨ケス」本條ハ表決ニ加ハルコトヲ禁シタルニ止リ會議ニ列シ意見  
ヲ陳述スルハ其禁スル所ニ非ラス

第九百四十八條 本人、戸主、家ニ在ル父母、配偶者、本家竝ニ分家ノ戸主、後  
見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得

親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス



(參) 一七二、二項、一七三、一七三、伊二五二、三項、葡二二二、二二五、四三三六、二項、三〇八、白  
章四〇三、四〇五

(一)會員  
ニ非ラス  
シテ議事  
ニ列スル  
者ヲ得ル

是等ノ者ハ皆親族會ノ議事ニ重大ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ親族會ニ列シテ其意見ヲ陳述スルヲ  
ヲ得セシメタルナリ、但シ表決ニ加ハルコトヲ得サルハ勿論ナリ。是等ノモノト雖モ例ヘハ本人ノ  
家ノ戸主又ハ本家分家ノ戸主ノ如キ親族會員タルコトヲ得ルモノナキニ非ラス、其會員タル場合  
ニ於テハ本條ノ適用ナシ、其會員タラサル場合ニ本條ノ權利ヲ有スルナリ。第二項ノ規定ハ第一  
項ノ當然ノ結果ニシテ第一項ノ權利ヲ與ヘタル以上ハ其招集ヲ通知スルニ非ラサレハ本條ノ規定  
ヲ設クタル趣意ヲ貫ク能ハス、通知ヲナス義務アル者ハ招集ヲナス者ナリ(九四四、九四九)

第九百四十九條 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ム

マテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後  
見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス

(參) 伊二四九、二四七、西三〇一、三〇四、二項、一號、白草四〇九、二項、四一〇、四二章一七二、一  
項、同二章一七六五、普千八百七十五年七月五日後見法七七、一項、二項

第六、無  
能力者ノ  
爲ニ設ケ  
タル親族  
會

親族會ハ其招集セラレタル任務ヲ終リタルトキハ直ニ解散スヘキモノニシテ其會員ハ當然會員タ  
ル資格ヲ失フモノナリト雖モ、無能力者(未成年者、禁治産者、準禁治産者)ノ爲ニ設ケタルモノニ

在リテハ之ヲ開會スル必要ノ起ルコト頻繁ニシテ一々之ヲ改選スルハ煩ニ堪ヘサルノミナラス又  
其ノ必要ナシ、故ニ此場合ニ限リテハ最初ニ選定セラレタル會員ハ無能力者カ成年ニ達シ又ハ能  
カヲ回復スルニ至ル迄其資格ヲ繼續シ一々之ヲ改選セサルコト、ナセリ。隨テ又一々裁判所ニ其  
招集ヲ請求スルコトヲ要セス、最初ノ招集ノ外ハ必要アル毎ニ本人、法定代理人(親權ヲ行フ母  
又ハ後見人、父カ親權ヲ行フ場合ニハ其子ノ爲ニ親族會ヲ開ク必要ヲ生スル場合ナシ) 後見監督  
人、保佐人又ハ親族會員ヨリ之ヲ招集スルコト、ナセリ。是等ノ者ニ招集權ヲ與ヘタル理由ハ明白  
ナリ、會員ニ之ヲ與ヘタルハ親族會ハ後見ヲ監督スルモノナレハ後見人等ノ招集ヲナサ、ル場合  
ト雖モ其監督ノ爲ニ之ヲ招集スル必要アレハナリ、其他戸主、親族、檢事又ハ利害關係人ニ招集  
權ヲ與ヘサルハ無能力者ノ爲ニスル親族會ノ議事ハ後見監督ノ爲ニスル外ハ常ニ後見人等ノ發議  
スヘキ所ニシテ後見人等ノ之ヲ招集セス又本人及ヒ會員モ亦其必要ヲ認メサルニ於テ他ヨリ之ヲ  
強制スルコトヲ許ルス必要アラサレハナリ

第九百五十條 親族會ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判

所ニ請求スルコトヲ要ス

(參) 佛四一四、伊二五四、白草四〇六、四〇七、二項、四〇九、二項、四一二

本條ハ親族會員ノ補缺方法ヲ定ム。「一」理由、無能力者ノ爲ニスル親族會ノ外ハ其事件ノ終ルト



共ニ解散スルモノナルヲ以テ其會ノ繼續中ニ缺員ヲ生スル場合稀ナル可シト雖モ尙必スシモ之ヲキテ保ス可カラス無能力者ノ爲ニスル者ニ至リテハ無能力ノ止ム迄繼續スルモノナルヲ以テ缺員ヲ生スルノ甚タ頻繁ナル可シ、此ノ如キ場合ニ於テ一々其會ヲ解散シテ新ニ會員ヲ選定スルハ其理由ナキヲ以テ會員ヨリ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求セシメ其會ヲ繼續スルコト、ナセリ〔二〕缺員ヲ生スル場合、ハ會員カ死亡シ、正當ノ事由ヲ以テ任務ヲ辭シ、無能力者ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人トナリ又ハ禁治産ノ宣告其他九〇八條ニ定メタル事由ヲ生シタルトキニ在リ。缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ其會議ヲ中止シ直ニ補缺員ノ選定ヲ請求スルコトヲ要ス、補缺員ノ選定アラサル間ニ會議ヲ繼續シタルトキハ其會議ハ無効ナリ、其ノ缺員ヲ生シタルコトヲ知ラスシテ之ヲ繼續シタルトキ亦同シ、補缺員ノ選定ヲ請求スルハ其缺員カ法律上ノ定員數ヲ缺クニ至ラサル場合ニ於テモ必要ナリ、例ヘハ七人ヲ以テ組織シタル親族會ニシテ一人又ハ二人ノ缺員ヲ生シタル場合ノ如キ法律上ノ要件タル三人以上ノ定數ヲ缺クニ至ラスト雖モ尙本條ノ適用ヲ受ク

**第九百五十一條 親族會ノ決議ニ對シテハ一个月内ニ會員又ハ第九百四十**

**四條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得**

(參) 佛四四〇、四四八、四四九、同民訴八八三、伊二六〇、二七一、二七五、二七六、二項、葡二二六、四二四〇乃至二四二、二四九、二五五、二七六、四項、二七九、三項、三二〇、白草四一七、四二〇、四

第八、不當決議ニ對スル救濟法

二五、四三一、舊千八百七十五年七月五日後見法七八、三項

本條ハ親族會ノ決議ニ對スル救濟方法ヲ定ム。外國ノ立法例ハ多クハ親族會ハ裁判官之カ議長トナリ裁判所ノ監督ノ下ニ其議事ヲ行ヒ其議決ニ就テハ勉メテ偏頗ナカラシメテ期シタルニ拘ラズ尙其不服ヲ訴フルコトヲ許ルセリ、况ンヤ本法ニ於テハ勉メテ裁判所ノ干渉ヲ避ケ會員ノ選定及ヒ召集ニ關スル外其議事ニ關シテハ全ク親族會ニ一任セルヲ以テ其決議ヲ以テ最終ノ決定トナシ何人モ之ニ不服ヲ唱フルコトヲ得ストスルハ其危險ノ大ナル論ヲ俟タサルナリ、本條ハ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事、利害關係人又ハ會員ノ凡テニ不服ヲ申立ツル權利ヲ與ヘ、而シテ其ノ之ヲ申立ツル期間ヲ決議アリシ日ヨリ一ヶ月内トナセリ、不服ヲ申立ツルキ裁判所ノ管轄ハ手續法ニ之ヲ定ム(非訟九六一九八)

**第九百五十二條 親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ**

**代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得**

(關) 非訟九六一九八

親族會員ノ出席數過半數ニ滿タズ、又ハ會員中自己ノ利害ニ關スルヲ以テ表決ニ加ハルコトヲ得サルモノアルニ依リ表決數過半數ニ達セス、又ハ會議中意見數種ニ別レ何レノ意見モ過半數ニ達セサルトキ等ニ於テハ必要ノ決議ヲ爲スコト能ハサルコトアル可シ、是ノ如キ場合ニ於テ決議ナク

第九、必要ナル決議ハ如何ナル場合ニ於テ行ハルベキ法



シテ止ム能ハサルヲ以テ別ニ之ヲ決スルノ法ナカル可カラズ、本條ハ此場合ニ裁判所ニ決議ニ代  
 ハル可キ判決ヲ求ムルコトヲ許ルス、判決ヲ請求スルコトヲ得ルハ會員ニノミ限ル、之ヲ會員ニノ  
 ミ限リタルハ本人、後見人其他ノ利害關係人ニ之ヲ許ルストキハ是等ノ者ハ或ハ親族會ノ形勢自  
 己ニ利アラサルヲ見ルトキハ種々ノ口實ヲ設ク親族會カ眞ニ決議ヲナシ能ハサル場合ニアラサル  
 ニ尙裁判ヲ請求スルカ如キ弊アルヲ免レサレハナリ、裁判所ノ判決ヲ以テ親族會ノ決議ニ代フル  
 ハ已ムヲ得サルニ出ツル特例ナリ、親族會カ眞ニ決議ヲナス能ハサル場合ニ限ル、親族會カ果シ  
 テ眞ニ決議ヲナス能ハサルヤ否ヤヲ認定スルハ會員自身ヲ以テ最モ適當トナスヘキナリ

第九百五十三條 第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

(參) 四二二、三三三、白草四七〇

本條ハ親族會員ノ責任ヲ明ニス(一)親族會員ノ權利義務 親族會ハ一ノ合議體ノ機關ニシテ會員  
 全體ヲ以テ一ノ機關ヲ組織スルモノナルヲ以テ個々ノ會員ハ或ル場合ニ親族會ヲ召集シ及ヒ補缺  
 員ノ選定ヲ請求スルコトノ外何等ノ權限ヲ有スルモノニ非ラス、然レトモ會員ハ其一身ニ於テ又  
 權利ヲ有シ義務ヲ負フ、親族會員ノ有スル權利ハ親族會ノ會議ニ列シ、意見ヲ陳述シ及ヒ其表決ニ  
 加ハルノ權利ナリ、親族會員ノ負フ所ノ義務ハ親族會ノ會議ニ列シ、親族會ノ目的タル人又ハ家  
 ノ利益ニ關シ誠實公平ノ意思ヲ以テ其意見ヲ陳述シ及ヒ表決ニ加ハルノ義務ナリ。親族會員ハ代

第十、親  
 族會員ノ  
 責任

理人ヲ以テ其會議ニ列セシムルコトヲ得ヘキヤニ就テハ本法ハ明文ヲ設ケサルカ故ニ一般ノ規定  
 ニ依リ代理人ヲ用フルコトヲ得ヘキモノト解セサル可カラズ但シ二人以上同一ノ代理人ヲ用フルコ  
 トヲ得サルハ明瞭ナリ、代理人ノ意見及ヒ表決ニ付テハ本人カ自ラ爲シタルト同シク其責任ヲ負フ  
 ヘキハ勿論ナリ。親族會召集ノ費用ニ就テハ非訟事件手續法ニ於テ其規定ヲ設ケタリ(九六一九  
 八)手續法ノ規定スル所ハ専ラ裁判所カ召集スル親族會ヲ意味スルモノナリト雖モ九四九條ニ  
 依リ私人カ自ラ召集スル親族會ニ就テモ亦同一ノ趣意ニ依リ無能力者ノ負擔ニ歸スヘキハ明瞭ナ  
 リ。故ニ遠隔ノ地ニ住スル會員ノ如キハ自ラ其旅費ヲ支辨スルヲ要セス無能力者ニ之ヲ請求スル  
 コトヲ得(二)責任ノ程度 會員ハ以上述アルカ如キ義務ヲ負フモノナルカ故ニ其意見ヲ陳述シ表決  
 ヲナスニ當リテ如何ナル注意ノ程度ヲ要スヘキヤヲ規定スルノ必要アリ、本法ハ後見人、後見監  
 督人ニ就テ採用シタルト同シク親族會員ニモ亦善良ナル管理者ノ注意ヲ必要トセリ、故ニ親族會  
 カ不當ノ決議又ハ選任ヲナシ爲ニ無能力者其他其會ノ目的タル者又ハ利害關係人ニ損害ヲ與ヘタ  
 ルトキハ其決議ニ同意シタル會員ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リタル爲ニ同意シタルモノナルト  
 キハ損害賠償ノ責ニ任セサル可カラズ



第八章 扶養ノ義務

扶養ノ義務トハ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサル者又ハ自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活ノ資料ヲ給シ又ハ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ必要アルトキハ之ヲシテ教育ヲ受ケシムル義務ナリ

法律上ノ義務トシテ親族相互ノ間ニ扶養ノ義務アルコトヲ認ムルハ刑法上ノ制裁ヲ付シタル場合ノ外我國舊慣ノ認メサル所ナリ、蓋シ社會組織ノ未タ單純ナルニ當リテハ此ノ如キ義務ハ法律ノ之ヲ強制スルモノナキモ之ヲ社會德義ノ制裁ニ一任スルヲ以テ却テ其社會ノ事情ニ適合スルモノアル可シ、然レトモ社會事情ノ複雑ナル近代ノ如キニ及ヒテハ之ヲ德義ニ一任スルハ決シテ策ノ得タルモノニ非ラス、人ハ必スシモ德義ノ觀念ニ富メルヲ保ス可カラス、其德義ノ最モ薄キ者近親ノ困難ニシテ自活ヲナス能ハサル者ヲモ放擲シテ顧ミサルモノアラハ國家ハ之ヲ強制シテ扶養セシムルコトヲ得サル可カラス、扶養ノ資力アル近親ノ存スルニ拘ラス自活シ能ハサル貧民ヲ生スルカ如キハ決シテ國家社會ノ公益ヲ保持スルノ道ニ非ラサルナリ

扶養ノ義務ハ人倫ノ常情ト德義ノ觀念トニ其基礎ヲ有ス、國民ノ安寧幸福ヲ謀ルハ國家若クハ公共團體ノ主タル目的ナリ、故ニ自活シ能ハサル貧民アルトキハ國家若クハ團體ハ自ラ之ヲ扶養ス



可シ、然レトモ國家若クハ團體ノ扶養ハ固ト究竟ノ手段ニ屬シ他ニ之ヲ扶養スヘキ者アルニ於テハ先ツ之ヲシテ其扶養ヲ爲サシムルハ當然ナリ

扶養ノ義務ハ私法上ノ義務タルヲ言フ俟タス、然レトモ國家ハ或ハ之ニ私法上ノ制裁ヲ付スルヲ以テ足レリトセス、別ニ刑罰ヲ以テ制裁ヲ付スルモノアリ(刑法三三六、三六四)此場合ニ於テハ扶養ノ義務ハ一ノ公法上ノ義務タリ。

扶養ノ義務ハ各國ノ民法ハ概テ皆之ヲ認ムルモ概テ之ヲ婚姻ノ章等ノ中ニ規定シ別ニ獨立ノ一章ヲ設ケタルモノアルヲ見ス、然レトモ扶養ノ義務ハ各種ノ親族ニ通スルモノニシテ然カモ其順位、程度、方法等ニ關シ規定スヘキ所多キカ故ニ本法ハ此等多數ノ立法例ニ反シ特ニ本章ヲ置イテ其義務ヲ規定ス其規定ノ實質如何ハ以下逐條ニ就テ見ル可シ

第九百五十四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

〔關〕 七四九、七九〇、九五九(參) 人二六、人二七、佛二〇五乃至二〇七、澳一三九、一四三、一五四、一六六乃至一六八、三七八乃至三七八、三八三、伊一三八乃至一四〇、葡一七二、一七三、一七五、一八〇、ウオー一〇七乃至一〇九、クラープアウンテン六八、ツネーリヒ六五四、六六〇、西一四三、一項、二項、一五二、三項乃至五項、白草二二一、獨一章一四八〇、一四八一、一四九〇、同二章一四九六、一

第一、扶養ノ權利及ヒ義務ヲ有スル者(一)養育者ノ範圍

本條ハ何人ノ間ニ扶養ノ義務ノ存在スルカヲ明ニス(一)戸主ハ家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フハ戸主權ノ規定中已ニ之ヲ規定シ、夫婦カ相互ニ扶養ノ義務ヲ負フコトハ亦婚姻ノ効力中ニ於テ已ニ規定シタリ、本條ハ戸主及ヒ夫婦以外ノ親族ニ就テ扶養ノ義務アル者ヲ定ム、夫婦以外ニ扶養ノ義務ヲ負フモノハ(イ)直系血族ナリ、即チ父母ト子ト、祖父母ト孫ト皆相互ニ此義務ヲ負フ、直系ノ血族ハ血族ニ準セラル者ヲ含ム、故ニ養父母又ハ其直系尊屬ト養子トハ勿論、繼父母ト繼子ト、嫡母ト庶子トノ間モ互ニ扶養ノ義務ヲ負フ、直系血族ハ亦其同一ノ家ニ在ルト否トヲ問ハス、故ニ他家ノ養子トナリタルモノ又ハ其直系卑屬ト其實家ノ父母又ハ其直系尊屬トノ間及ヒ他家ニ嫁シタル女子又ハ他家ノ入夫トナリタル男子又ハ其直系卑屬ト其實家ノ父母又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テモ亦互ニ此義務ヲ負フ(ロ)兄弟姉妹ナリ、兄弟姉妹モ亦準血族ヲ含ム、故ニ例ヘハ養子ハ養親ノ實子又ハ他ノ養子トノ間ニ扶養ノ義務ヲ負ヒ、繼子モ亦繼父母ノ實子トノ間ニ其義務ヲ負フ、其同一ノ家ニ在ルト否トヲ問ハス(ハ)夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間ニ亦扶養ノ義務ヲ負フ、例ヘハ他家ニ嫁シタル女ハ其夫ノ父母其家ニ在ルトキ其父母ト夫婦トノ間ニ其義務ヲ負ヒ、他家ノ入夫トナリタル男ハ其妻ノ父母其家ニ在ルトキハ其父母ト入夫トノ間ニ其義務ヲ負フ、是等ノ者ハ本法ニ於テハ之ヲ血族ニ準セサリシト雖モ我國ノ家族



制度ニ於テ是等ノ者ハ事實上直系血族ト同様ニ看做サル、モノナルカ故ニ其間ニ扶養ノ義務ヲ認メタルハ當然ナリ。但シ其家ニ在ルモノナルヲ要ス、故ニ他家ヨリ妻ヲ迎ヘタルモノハ妻ノ父母ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負ハサルハ勿論其家ニ在リシ配偶者ノ父母ト雖モ離籍、分家、廢絶家再興其他ノ事由ニ依リ其家ヲ去リタル後ハ其間ニ扶養ノ義務ヲ負フコトナシ、(二)戸主、夫婦間及ヒ以上三種ノ親族間ノ外ハ何人モ法律上扶養ノ義務ヲ負フコトナシ、我國從來ノ事情ニ於テ此他ノ親族ト雖モ困窮ノ者アルニ於テハ廣ク親族相助クルヲ以テ社會道德ノ本旨トナスコト勿論ナリト雖モ法律上ノ義務トシテ廣ク親族間ニ扶養ノ義務ヲ認メタル慣習ハ未タ之アラサルノミナラス、生活ノ程度高マルニ從テ生計ヲ爲スコト往時ノ如ク容易ナラサルヲ以テ法律上ノ義務トシテ扶養ノ義務ヲ認ムルノ範圍ハ次第ニ減少セラル、必要アルニ至レリ、本法ハ即チ以上ノ範圍ニノミ此義務ヲ限定セリ、以上掲ケタル親族ト雖モ亦常ニ扶養ノ義務ヲ負フモノニ非ラス、一定ノ場合ニノミ此義務ヲ發生スルモノニシテ、殊ニ兄弟姉妹間ニ此義務ヲ生スルハ寧ロ變例ニ屬スルコト九五九條ニ規定スルカ如シ

第九百五十五條 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行

スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ

(參) 八二八、伊一四二、葡一七三、一七四、四一四四、白草二二二、獨一草一四八四、一四八五、同二章一五〇一、一五〇三

(二)義務者ノ順位  
 本條ハ扶養義務者ノ順位ヲ定メ、扶養ノ義務ハ固ト德義ノ觀念ニ其基礎ヲ有セルモノナルヲ以テ扶養義務ノ順位ヲ定ムルニモ亦德義ニ基カサル可カラス、(イ)夫婦ハ共同生活ヲナシ同心一躰タル可キモノナルヲ以テ配偶者カ第一位ノ義務者タルヘキハ當然ナリ、(ロ)孝ハ我國社會道德ノ基本タリ、故ニ配偶者ニ繼キテハ直系卑屬ヲ以テ其義務者トナス、直系卑屬中子ト孫等アルトキハ子ハ孫ニ先チテ其義務ヲ負ヒ孫ハ曾孫ニ先テ其義務ヲ負フ(ハ)第三位ノ義務者ヲ直系尊屬トス、父母ト祖父母トアルトキハ父母先ツ其義務ヲ負フ、(ニ)戸主、是レ我家族制度ヨリ來ル特色



ナリ(ホ)夫婦ノ一方ノ直系尊屬ト他ノ一方、其直系尊屬ニ親等ヲ異ニスルモノアルトキハ父母先ツ其義務ヲ負フ(ヘ)兄弟姉妹ノ扶養義務ヲ負フハ寧ロ變例ニ屬スヘキモノナルヲ以テ最後ノ義務者トス

一例ヲ以テ之ヲ説明スレハ、例ヘハ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リ自ラ生活スルヲ能ハサル男子アリト假定セハ、先ツ其妻ニ扶養ヲ請求スヘク、其妻ナキトキ又ハ妻ニ資力ナキトキハ其子又ハ孫ニ請求シ、次ニハ父母又ハ祖父母ニ、次ニハ戸主ニ、次ニハ其家ニ在ル妻ノ父母、若クハ其家ニ在ル子ノ配偶者ニ請求シ、以上ノ者皆在ラス又ハ資力ナ有セサルトキ始メテ兄弟姉妹ニ之ヲ請求スヘキモノナリ、

**第九百五十六條 同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス**

(參) 西一四五、一項、二項、獨一草一四八六、同二草一五〇一

同一ノ順位ノ扶養義務者中親等ヲ異ニスルモノアルトキハ其親等近キ者ヨリ先ニスル所ハ前條ニ述ヘタリ、本條ニハ親等相等シキ同一ノ順位ノ者ノ扶養義務ヲ定ム、例ヘハ數人ノ子アルトキ、父母數人アルトキ(實父母、養父、養母、繼父、繼母、嫡母)配偶者ノ父母ノ雙方共ニ其家ニ在ルトキ又ハ配偶者ノ父母ト子ノ配偶者ト共ニ其家ニ在ルトキ、其家ニ在ル子ノ配偶者數人ナルト

キ、兄弟姉妹數人アルトキ等ハ先ツ其何レニ請求ズヘキヤ前條ノ規定ノミヲ以テハ明ナラス、本條ハ即是ノ如キ場合ニ於テ(イ)其家ヲ同シウスルモノト否ラサルモノトアルトキハ其家ヲ同シウスルモノヨリ先ツ義務ヲ負フコト、ス、例ヘハ數人ノ子アルモノ其一人ハ他家ノ養子トナリ他ハ同家ニ在ルトキハ其同家ニ在ルモノ先ツ義務ヲ負ヒ養子トナリタルモノハ之ニ次テ義務ヲ負フ、是レ家族制度ヲ認メタル當然ノ結果ナリ(ロ)家ヲ同シウスル者又ハ他家ヲ異ニスル者數人ナルトキハ其ノ數人ハ各資力ニ應シテ其扶養ヲ分擔スルナリ、此場合ニ於テハ順序ヲ付スヘキ理由アラサルニ由ル例ヘハ子二人アリテ共ニ其家ニ在ルトキ其一人ハ六ノ資産アリ一人ハ四ノ資産アリトセハ前者ハ扶養ノ十分ノ六ヲ擔任シ後者ハ其十分ノ四ヲ擔任スヘキナリ餘ハ凡テ之ニ準ス

**第九百五十七條 扶養ヲ受クル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス**

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第四 第九百五十四條第二項ニ掲ケタル者



第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

(參) 四一四五、三項、獨一章一四八三、同二章一五〇四

權利者ノ順位

本條ハ扶養權利者ノ順位ヲ定ム、扶養ノ義務ヲ負フ者カ數人ニ對シテ此義務ヲ負ヘルトキ若シ其資力此等ノ凡テヲ扶養スルニ足ラサルトキハ其權利者ノ中ニ順位ヲ設ケ先ツ何人ニ對シテ扶養ノ義務アルカヲ明ニスルヲ要ス、而シテ其順位ノ如キハ亦自然ノ性情及ヒ德義ノ觀念ニ依リ之ヲ決ス可キモノナリ、直系尊屬ヲ第一順位ニ置キタルハ我國ノ德義上孝ヲ重ノスルコト最モ大ナレハナリ、直系卑屬ヲ其次位ニ置キタルハ子ヲ愛スル人情ニ基キ、次ニ配偶者、次ニ其家ニ在ル配偶者ノ直系尊屬又ハ其家ニ在ル直系卑屬ノ配偶者トシ、次ニ兄弟姉妹トシ最後ニ以上ノ親族ニ非ラサル家族トナセリ、其ノ同一順位者中親等ノ異ナルモノアルトキハ其近キ者ヲ先ニス。例ヘハ父母ト祖父母トアルトキハ先ツ父母ヲ扶養シ其資力尙餘アルニ於テ祖父母ヲ扶養シ、資力尙餘ルトキハ次ニ子、次ニ孫、次ニ夫又ハ妻等ヲ扶養スル義務ヲ負フナリ、故ニ例ヘハ配偶者ニ對シテ扶養ヲ請求スルニハ其配偶者カ父母、祖父母、子又ハ孫ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負ハサルコト又ハ假令其義務ヲ負フモ之ヲ扶養シタル上尙資力餘アルコトヲ證明セサル可カラス、其餘皆之ニ準ス

第九百五十八條 同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前條ニ依リ同順位ノ權利者即同シク父母タリ祖父母タリ又ハ子又ハ孫タル等ノ場合ニ於テハ其權利者中家ニ在ルモノト在ラサルモノアルトキハ其家ニ在ルモノ先ツ扶養ヲ請求スルコトヲ得其家ニ在ラサルモノ之ニ次シ、同シク家ニ在ルモノナルトキ又ハ同シク家ニ在ラサルモノナルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受ク、例ヘハ子二人皆其家ニ在ルトキ其一人ハ六ノ扶養ヲ需要シ一人ハ四ヲ需要シ而シテ義務者ノ資力一ナルトキハ、前者ハ十分ノ六ノ扶養ヲ請求シ、後者ハ十分ノ四ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

第九百五十九條 扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス



第二、扶養義務ヲ合生スル協

(イ)原則

前數條ニ於テ扶養ノ義務カ何人ノ間ニ存在スルカヲ明ニセリ、然レトモ人ハ各自立シテ生活ヲ營ムヘキコトヲ本則トシ其ノ他人ノ扶養ヲ求ムルハ其自立ノ生活ヲ營ムコト能ハサル場合ニ限ラサル可カラス、本條ハ即チ是ノ如キ場合ニノミ扶養義務ノ存在スルコトヲ明ニス。

**第一項** 原則トシテ扶養ノ義務ノ存在スルハ左ノ二ノ場合ニ在リ(イ)自己ノ資産又ハ勞務ニ依リ生活ヲ爲スコト能ハサルトキ、即チ其ノ財産ヨリ生スル収入ヲ以テ生活ノ資料ヲ給スルコト能ハス且ツ自ラ勞務ヲ取リテ其生活ヲ營ムコト能ハサル場合ニ限ル、勞務ヲ取ルコト得ヘキ情況ニ在リナカラ故ラニ之ヲ取ラサルカ如キモノニハ扶養ノ義務ナシ、然レトモ眞ニ勞務ヲ取ルコト能ハサルトキハ其ノ取ル能ハサル事由カ何ニ基クカヲ問ハス、故ニ身軀精神ノ不具又ハ病症ニ因ルトキハ勿論社會ノ經濟上ノ事情ヨリ其勞務ヲ失ヒ相當ノ手段ヲ盡クスモ其就クヘキ業務ヲ發見スル能ハサルモノハ扶養ノ權利ヲ有ス、(ロ)自己ノ資産ニ依リ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ、扶養ノ義務ハ管ニ生活ヲ扶助スル義務ニ止ラスシテ必要ナル場合ニ其教育ノ資ヲ給スル義務ヲ含ム、蓋シ近代ノ社會ニ於テハ人ハ教育ヲ受クスシテ生活スルコト能ハス、國家ハ一定ノ程度迄教育ヲ受クルヲ以テ國民ノ國家ニ對スル義務ト爲セリ(所謂義務教育、小學校令二〇)是レ本法カ從來ノ立法例及ヒ舊民法ノ規定ニ反シ教育ヲ以テ扶養ノ義務ノ一部トナシタル所以ナリ。但シ教育ノ義務ハ幼年者ニ對シテノミ存在スルモノナルハ言ヲ俟タス、故ニ自己ノ資産ニ依リ教育ヲ受クルコト能ハサル

幼年者ニ對シテノミ教育ノ資ヲ給スル義務ヲ負フナリ。以上ノ原則ニ對スル一ノ例外ハ夫婦間ノ扶養義務ナリ、夫婦カ特ニ財產契約ヲ結ビタル場合ノ外夫又ハ戸主タル妻ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔スヘキモノニシテ(七九八)夫又ハ戸主タル妻ハ其配偶者カ假令自己ノ資産又ハ勞務ニ依リ其生計ヲ營ミ得ル場合ニ於テモ尙扶養ノ義務ヲ負擔スルモノナリ、其例外ノ二ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ未成年ノ子ニ對スル義務ナリ、親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ヲ養育スル費用ヲ支辨スヘキ義務ヲ負フ(八九〇、二)、其義務ハ其子カ自ラ生活ノ資ヲ有シ若クハ勞務ヲ爲シ得ルト否トヲ問ハサルナリ。

(ロ)兄弟姉妹間

**第二項** 兄弟姉妹間ノ扶養ノ義務ハ本人ノ過失ニ因ラスシテ生活ヲ爲ス能ハサルニ至リタルト

キニ限リテ存在ス、蓋シ兄弟姉妹間ハ社會道德ノ思想ニ於テ其相互ノ扶養ヲ責ムルコト直系血族ノ如ク強カラス、故ニ外國ノ立法例ニ於テモ佛法又ハ獨逸民法ノ如ク兄弟姉妹間ニハ扶養ノ義務ナシト爲スモノアリト雖モ其他ノ多數ノ立法例ハ本法ノ如ク本人ノ過失ニ因ラスシテ生活ヲ爲ス能ハサル場合ニノミ此義務ノ存在スト爲スモノ多シ、本法ハ兄弟姉妹間ニ全然扶養義務ノ存在セストナスハ我國ノ事情ニ適セサルヲ認メタルト共ニ直系血族間ニ於ケルト同様ノ義務ヲ認ムルハ亦其當ヲ得サルモノトナシ即舊民法其他多數ノ立法例ト同シク扶養ヲ受クル必要カ過失ニ因ラスシテ生シタル場合ニノミ扶養義務ヲ生ストナス。故ニ假令自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ



ス可能ハサルモ自ラ責ヲ負フヘキ事由ニ依リテ資産ヲ失ヒ又ハ勞務ニ就ク能ハサルニ至リルキハ其兄弟姉妹ニ對シテ扶養ヲ求ムルコトヲ許ルササルナリ。例ヘハ生活ヲ爲シ得ヘキ資産ヲ有シテカラ自ラ放蕩無賴ニシテ爲ニ其資産ヲ失ヒ又ハ故ラニ投機業ヲ試ミテ失敗シ其資産ヲ蕩盡シタルカ如キ又ハ自ラ破廉恥ノ罪ヲ犯シ爲ニ世ノ信用ヲ失ヒ勞務ニ就ク能ハサルカ如キハ曾兄弟姉妹ニ對シ扶養ヲ求ムルノ權利ナシ

**第九百六十條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資**

**力トニ依リテ之ヲ定ム**

(參) 人二九、佛二〇八、蘭三七九、伊一四三、葡一七一、一七八、ウオー一〇、ケラワブエンテン六八、二項、西一四二、一四六、白草二三三、獨一草一四八二、一四八八乃至一四九〇、同二草一四九八、一五〇五、一五〇六

本條ハ扶養ノ程度ヲ定ム、扶養ノ義務トハ扶養權利者ノ生活ヲ扶助スルノ意ナルモ如何ナル程度迄其生活ヲ扶助スルコトヲ以テ扶養義務者ノ義務トナスヘキヤハ事情ニ因リテ異ナラサルヲ得ス、是等ノ事情ヲ定ムルモノハ(イ)扶養權利者ノ需要ナリ、扶養權利者ハ或ハ全ク資産ヲ有セス且ツ全ク勞務ニ就クコトヲ得スシテ生活費用ノ全部ヲ給セラルヘキ必要アルコトアルヘク此場合ニ於テハ其需要ハ生活費用ノ全部ナリ、或ハ多少ノ資産ヲ有シ又ハ多少ノ勞務ニ就クコトヲ得其收

第三、扶養義務ノ效力ノ程度

入ヲ以テ生活費用ノ一部ニ充ツルヲ得ルモノ之ノミヲ以テハ未タ生活ヲ爲スニ充分ナラサルコトアル可シ此場合ニ於テハ其需要ハ生活費用ノ補充タルニ過キス、或ハ又幼年者ノ如キ生活費用ノ外尙教育ヲ受クルコトヲ要スルコトアルヘク、或ハ又疾病ニ罹レル者ノ如キ其疾病ノ療養ヲ要スルコトアルヘシ、等シク生活費用ニ於テモ亦權利者ノ身軀ノ狀況ニ應シテ多クヲ要スルコトアル可ク又少クニテ足レルコトアル可シ、扶養義務ノ程度ハ是等ノ事情ニ應シテ之ヲ定ム可キモノナリ(ロ)扶養義務者ノ身分及ヒ資力ナリ扶養權利者ニシテ假令自ラ生活ヲ爲スコト能ハサルニモセヨ若シ義務者ノ身分資力ニシテ僅ニ自ラ生活ヲ維持シ得ルニ過キサルトキハ之ヲシテ更ニ他人ノ生活ヲ助クルノ義務ヲ負ハシム可カラサルハ當然ナリ、若シ又其身分資力ニシテ充分ナラハ管ニ權利者ノ生命ヲ保持スルニ止ラスシテ尙相當ノ資料ヲ給セシムヘキナリ、此等ノ程度ハ權利者ノ資力如何ニ依リテ定ムヘキハ勿論ナルモ必スシモ資力ノミヲ以テ定ムルコトヲ得ス、負債ノ額遙ニ資産ノ額ニ超エ法律上ハ全ク無資力ナル者ト雖モ社會上相當ノ身分ヲ占メ多少ノ信用ヲ有スル者ノ如キニ在リテハ之ヲシテ扶養ノ義務ヲ負ハシメサル可カラス、是レ本法力舊民法其他ノ立法例ニ反シ義務者ノ資力ノ外其ノ身分モ亦之ヲ參酌シテ扶養ノ程度ヲ定ムヘキモノトナセル所以ナリ

**第九百六十一條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取りテ之ヲ養**  
**ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但シ正當ノ事**



由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

(參) 佛二〇、二二一、葡三八一、三八二、伊一四五、葡一八三、ウオー一二二、一二三、四一四九、白草二二六、獨一草一四九一、同二草一五〇七

(二)扶養ノ方法

本條ハ扶養ノ方法ヲ定ム、外國ノ法例ニ於テハ多クハ金錢ヲ給スルヲ以テ扶養ノ方法トナシ舊民法モ亦此ノ如クナルモ、本法ハ我國ノ事情ニ照ラシテ金錢ヲ給スルヲ以テ扶養ノ唯一方法トナスノ不當ナルヲ認メ、之ヲ引取リテ養ヒ又ハ引取ラスシテ生活ノ資料タル可キ金錢其他ノ物品ヲ支給スルカヲ選擇スルノ權利ヲ扶養義務者ニ附與セリ、義務者ハ自己ノ便宜トナス方法ニ從ヒ或ハ金錢其他ノ物品ヲ給スルノミヲ以テ其義務ヲ免レ或ハ之ヲ引取リテ養フコトニ依リテ其義務ヲ免ル、但シ或場合ニ於テハ之ヲ義務者ノ選擇ニ一任スルハ權利者ノ利益ノ爲メ甚タ危險ナルコトアル可ク或ハ以上二種ノ方法ノ外病人ノ如キハ之ヲ相當ノ病院ニ入ル、等ノ必要アルコトアル可シ、此ノ如キ場合ニ於テ若シ權利者ト義務者トノ意思一致セサルトキハ權利者ハ裁判所ニ其方法ヲ定ムルコトヲ請求スルヲ得ルナリ、本條但書ハ此趣意ヲ明ニス

第九百六十二條 扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決

ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

(參) 佛二〇九、葡三八〇、伊一四四、葡一八一、ウオー一二一、四一四七、白草二二四、獨一草一四九三

(三)扶養ノ程度又ハ方法カ判決ノ效力

本條ハ扶養ノ程度又ハ方法ヲ定メタル判決ノ効力ヲ定ム、扶養ノ程度又ハ方法カ權利者ト義務者トノ契約ニ依リテ定マリタル場合ニ於テ若シ其契約ノ根據タル事情ノ變更アリタルトキハ當事者ノ一方ハ隨時其契約ヲ解除シ新ニ其契約ヲ爲スコトヲ得ヘキハ言フテ俟タス、裁判所ノ判決ニ依リテ扶養ノ程度又ハ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ亦權利者及ヒ義務者カ若シ相一致スルトキハ其任意ノ契約ヲ以テ其判決ト異ナリタル方法又ハ程度ヲ定メ又ハ全ク扶養ヲ爲ササルコトヲ得ヘキハ又言フテ俟タス。然レトモ若シ當事者カ一致スルコト能ハサルトキハ假令其判決ノ根據タリシ事情ニ變更アルモ當事者ノ一方ノ任意ヲ以テ其判決ノ効力ヲ動カスコト能ハサルヲ以テ本條ハ此場合ニ當事者ノ一方(權利者又ハ義務者)ヨリ其判決ノ取消又ハ變更ヲ請求スルヲ得トナセリ。「根據」ナリタル事情ノ變更「例」ハ自宅療養ニ適セサル病氣アルニ因リ病院ニ入ル可キヲ宣告セラレタルニ其病氣平癒シ又ハ自宅療養ヲ妨クサルニ至リタル時、毎月一定ノ金額ヲ支給スヘキコトヲ宣告セラレタルニ物價ノ變動其他ノ事由ニ依リ其金額ヲ以テハ生活ヲ爲スニ足ラス又ハ餘アルニ至リタルトキ、又ハ權利者ノ身分資力若クハ義務者ノ需要ニ變動ヲ生シタルトキ、「判決」ノ變更又ハ取消「取消」ハ扶養義務ヲ消滅セシム、變更ハ唯其程度又ハ方法ヲ變更スルニ止リ義務



消滅ヲ來サス、變更又ハ取消ノ判決ハ第一ノ判決ノ根據トナリタル事情ノ變更ヲ生シタルトキニ  
溯リテ効力ヲ生スヘキモノナリ

第九百六十三條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

(參) 財二九、二項、取一六九、三項、民訴六一八、一號、關三八四、葡一八二、西一五一、獨一草一四九  
四、一四九五、同二草一五〇九

第四、扶  
養ノ權利  
ノ性質

扶養ヲ受クル權利ハ一ノ債權ナリ故ニ債權總則ノ規定ハ凡テ之ニ適用セラル可キ原則トスル  
モ、其權利ハ元ト一身ニ專屬スル權利ニシテ其性質上之ヲ讓渡スコトヲ得サルハ勿論之ヲ擔保ニ  
供シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノナリ、故ニ債權讓渡ニ關スル規定ノ適用セラレサルハ勿  
論債權質ニ關スル規定又ハ債權ノ効力ニ關スル四二三條ノ規定ノ適用ヲ受クルコトナシ。本條ハ  
此趣意ヲ明ニセルモノナリ。

親族法論畢

民法親族法論 奧付

明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
治	治	治	治	治	治	治	治	治	治
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三	三	一	一	一	一	一	一	一	一
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五	二	八	五	四	一	五	二	二	二
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
四	四	三	三	再	再	初	初	初	初
版	版	版	版	版	版	版	版	版	版
發	發	發	發	發	發	發	發	發	發
行	行	行	行	行	行	行	行	行	行

版權所有

著者 發行所 印刷者

奧田義人  
江草斧太郎  
今成温平

有斐閣書房

發賣所 賣捌所 賣捌所

東京市神田區一ツ橋通町七番地三四號地  
東京市本郷區本郷一丁目五番地  
有斐閣雜誌店  
東京市東區備後町四丁目  
吉岡平助



W324.6  
054  
42

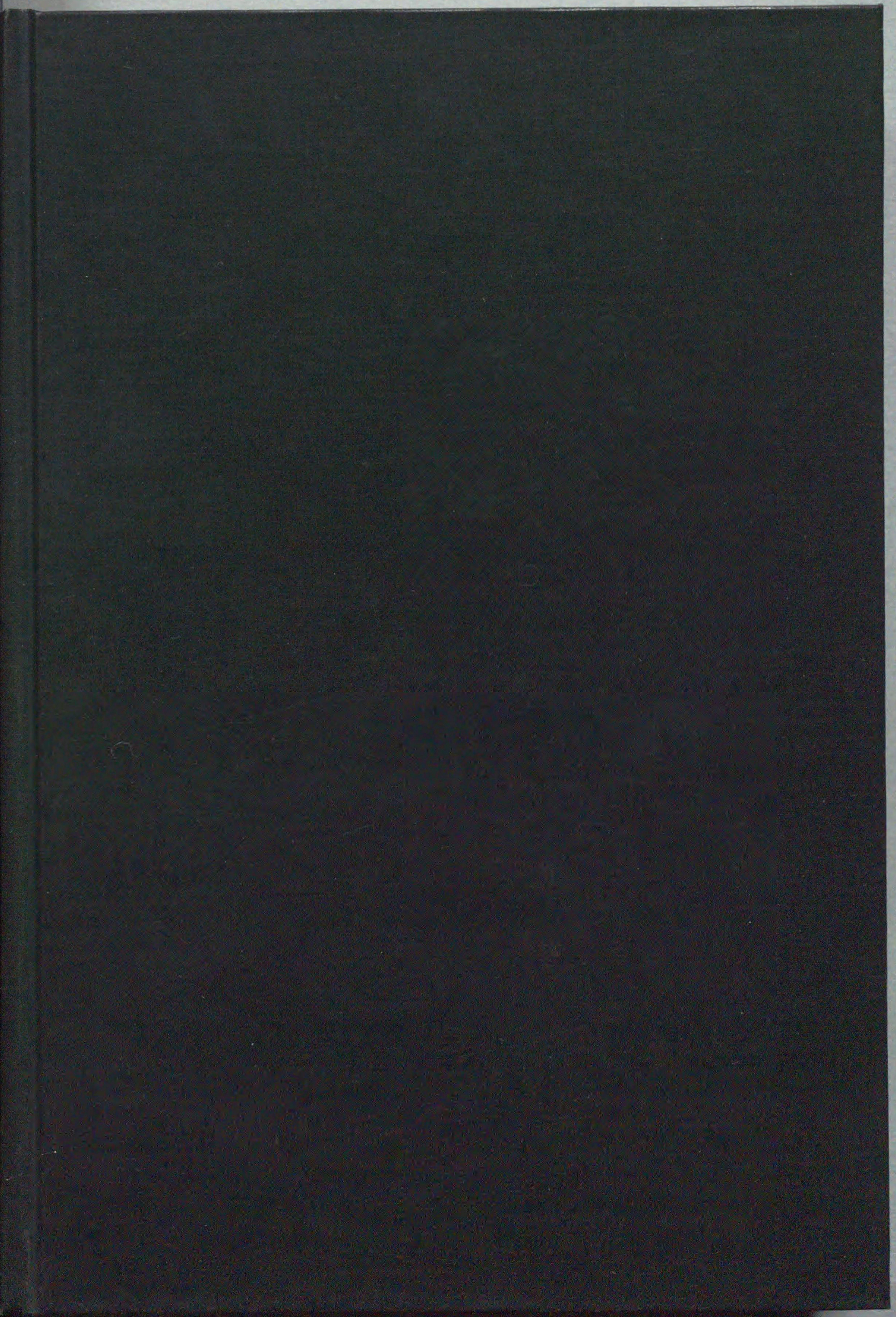


最高裁判所図書館



000126324





Inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

### Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

### Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

